

③意識調査の評価

住民満足度は大きく関心度と満足度から成っています。また平成15年、同17年、同20年の3時点で調査しています(企業は15, 20年の2時点)。

これを下図の散布図に落として区分し、住民の意識の動きについて考察しました。

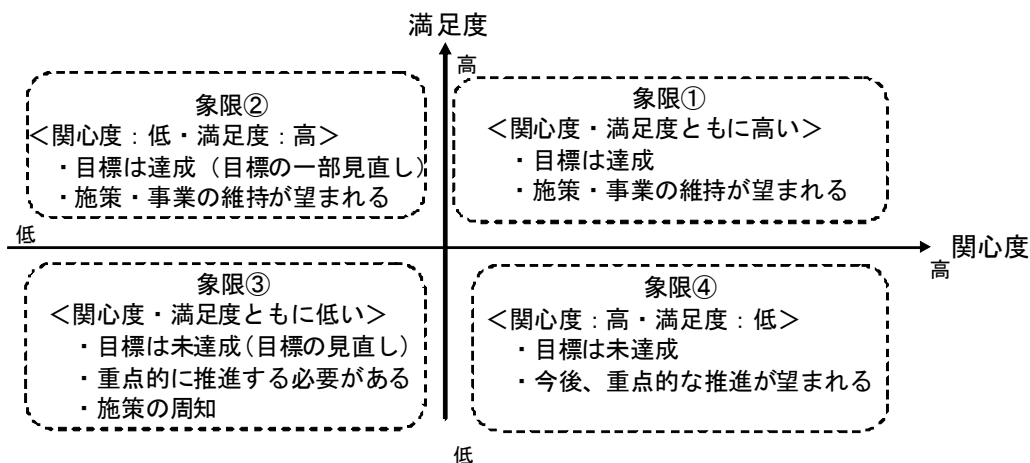


図 関心度・満足度の程度による区分

④40の具体的な目標の達成度

表記	内容	判定方法
前進 (a)	目標を大きく達成できた(前進した)	・意識調査の評価が象限①にあり、かつアウトカム指標が◎ ○の場合
概ね前進(b)	目標を達成できた(前進した)	・意識調査の評価が象限②～④、かつアウトカム指標が◎ ○の場合 ・意識調査の評価が象限①,②かつアウトカム指標が△の場 合 ・意識調査の評価が象限①かつアウトカム指標が×の場合
前進とはい いい難い(c)	評価していく際に、注意を要す る目標	・意識調査の評価が象限②かつアウトカム指標が×の場合 ・意識調査の評価が象限③かつアウトカム指標が△の場合
要検討	評価していく際に、再度検討が 必要な目標	上記以外

⑤40の具体的な目標の継続性

表記	内容
継続	次期ビジョンでも継続していくことが望ましい目標(他目標との統合等も含む)
停止	目標の中核となる事業が完了するなど、目標として今後も掲げる必然性がないと 判断された目標

◆方向 I : モノづくりなど産業の国際競争力の強化

方向 I の達成状況

東海環状自動車道をはじめとする道路網、中部国際空港の開港・空港連絡鉄道、名古屋港等の国際海上コンテナターミナルをはじめとする港湾関連事業といったモノづくり等の国際競争力に寄与する社会インフラが整備されました。貿易額は堅調な伸びを示しており、東海環状自動車道沿線への企業立地が相次ぐなど、企業活動が活発であり、主なユーザーにあたる企業への意識調査では満足度が増加し、アウトカム指標も概ね達成しています。これより、「モノづくりなど産業の国際競争力が強化された」といえます。

中部地域に集積するものづくり産業は輸出型産業に特化しているため、世界経済の動向との緊密性が高い。平成 20 年秋以降の世界的な金融危機は、特に輸出型産業を直撃し、その点で中部地域の産業経済も一気に冷え込んでいます。

世界経済が立て直しをはかっていく中で、各国経済が健全性を取り戻したとき、中部地域が次なる持続的発展を遂げることのできる足腰の強い地域経済社会を構築しておく必要があるため、より一層の国内外の連携軸強化による産業活力の強化が重要であり、中部地域の産業の国際競争力を高めていくための社会基盤整備は、これまで以上に重要です。

○主要プロジェクト

プロジェクト1 名古屋港等国際競争力強化プロジェクト

プロジェクト2 中部国際空港国際競争力強化プロジェクト

プロジェクト3 特区制度(四日市等)を活用した産業活性化支援プロジェクト

○各目標の達成度（アウトカム指標と意識調査の評価）

40 の具体的な目標	目標の達成度	アウトカム指標		目標の継続性
		（総合）	意識調査の評価	
I-1 国内外物流等の経済性・確実性・安全を向上します	a	○	①	継続
I-2 港湾・空港までのアクセス時間を短縮します	a	◎	④→①	継続
I-3 港湾・空港での貨物引き取りまでの時間(リードタイム)を短縮します	要検討	—	②→①	継続
I-4 企業が設備投資しやすい環境をつくれます	a	◎	②→①	継続

※1 a:前進、b:概ね前進、c:前進とは言い難い

※2 意識調査の評価で④→①とは H15 と H20 との意識評価の変化を示している。また()は、設問内容が前回(H15)と一部異なるもの。

象限①・・・関心度、満足度ともに高い ; 今後も現状維持が望まれる

象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い ; 今後も現状維持が望まれる

象限③・・・関心度、満足度がともに低い ; 施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある

象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い ; ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

○アウトカム指標の達成度

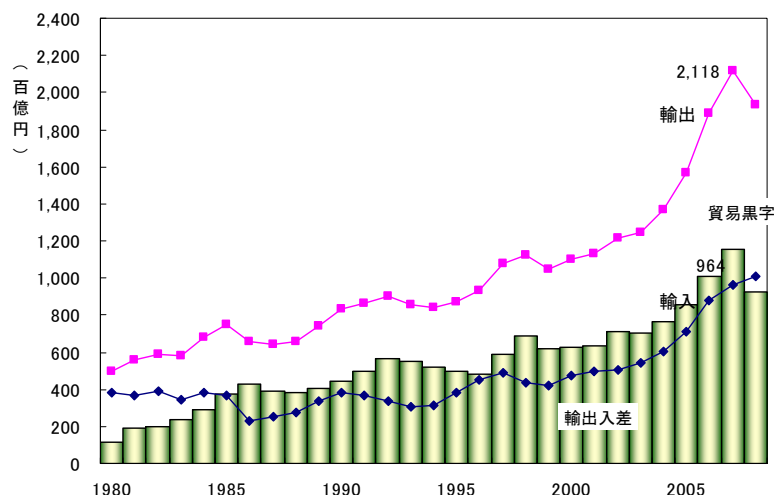
目標	指標名と目標値	初期値	最終値	目標値	達成度
I-1	中部地域で発生・集中するコンテナ貨物の平均移動コストの低減【H14年比1割削減(km)(H19)】	67	—	60	—
	伊勢湾における航路を閉塞するような大規模海難の発生数【H15～H19の発生数を0とする】	0	0	0	達成
I-2	中部国際空港への2時間アクセス率(人口)【72%(H14)→80%(H19)】	72	80	80	達成
I-3	—	—	—	—	—
I-4	渇水被害を軽減する貯水量確保率【約54%(H14)→約86%(H19)】	54	86	86	達成

※「—」はアウトカム指標の計測が困難又は計測できなかったもの、または、計測された結果が特異な値を示しているため評価できないものである。

【参考：5年間の中部の動き】

・貿易(輸出入)額の推移(名古屋税関管内)

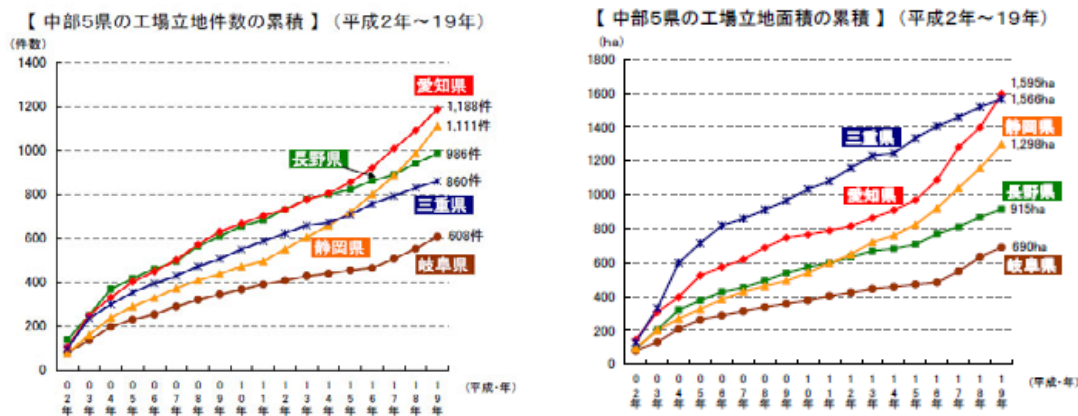
名古屋税関管内の貿易額は増加傾向にあり、特に2005年以降の輸出額が大きく伸びていますが2008年に輸出、輸入共に減少しています。



※資料：名古屋税関
※2008年値は速報

・工場立地件数

中部地方の平成2年以降の工場立地件数の累積推移は、静岡は平成11年以降、愛知は平成14年以降、岐阜は平成16年以降から、立地件数が伸びています。

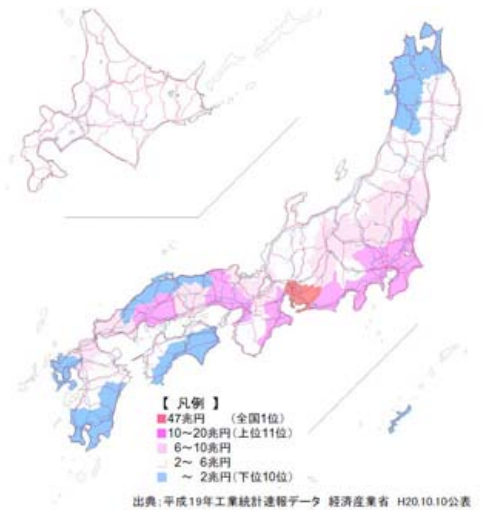


データ：「工場立地動向調査(経済産業省・日本立地センター)」

出典：国土交通省 中部地方整備局資料

・ 製造業出荷額等

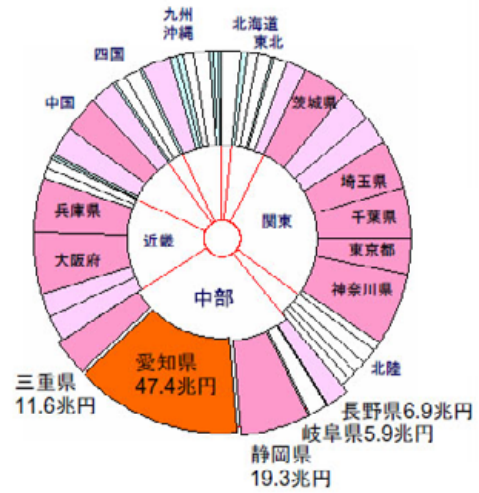
製造品出荷額等は、愛知県が全国で最も多く(47.4兆円)であり、中部5県で約91兆円と我が国全体(約336兆円)の約27%を占めており、中部が「モノづくり」の地域であることがわかります。



製造品出荷額等の都道部県別図

データ：「工業統計速報データ（経済産業省）」

出典：国土交通省 中部地方整備局資料



製造品出荷額等の都道部県別シェア

・ 東海環状自動車道沿線における同道開通前後の工業団地への進出状況

東海環状自動車道沿線に立地する工業団地等の数は、開通15年前の1990年頃と比べて約4倍に増加し、東海環状自動車道の開通後、これらの工業団地等に進出する企業が急増しています。



(出典：国土交通省中部地方整備局 HP より)

目標 I - 1 : 国内外物流等の経済性・確実性・安全性を向上します

国際港湾や国際幹線航路、国際空港の重点的な整備を行うことにより、物流のスピードアップや確実性・安全性の向上、コスト縮減を図るとともに、港湾や空港の安全性の向上など国際水準のサービスを実現します。

◆総評

・ 目標の達成状況：前進

関心度が高く（特に企業）、かつ満足度も高い。アウトカム指標は目標を達成しており、目標に向かって前進したといえます。

・ 総合的評価

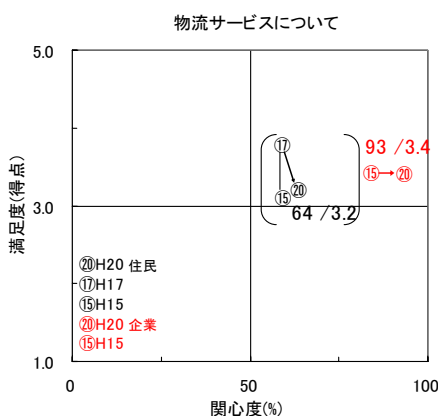
アジア各国等との国際競争激化、FTA 等新たな枠組みが形成されつつある中で、今後、国内企業のグローバルに展開する物流ネットワーク構築を支援するため、移動コスト低減、迅速性の向上、規制緩和等が重要であり、今後もこうした目標に対する取り組みが重要です。

・ 目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（港湾・空港機能の充足度）

設問文（問 8）：中部地方の港や空港は、経済活動などを行う上で十分な機能があると思いますか
 ※平成 15・17 年度の設問文：中部地方の港湾や空港のサービスは、経済的で確実性が高いと思いますか



◆満足度：中

住民は「わからない」が多いため、分析対象外としました。企業の得点は 3.4 と中間値以上となりました。

◆関心度：中

住民の関心度は 6 割前後で変化はないが、企業の関心度は 8～9 割と高い。

◆その他：

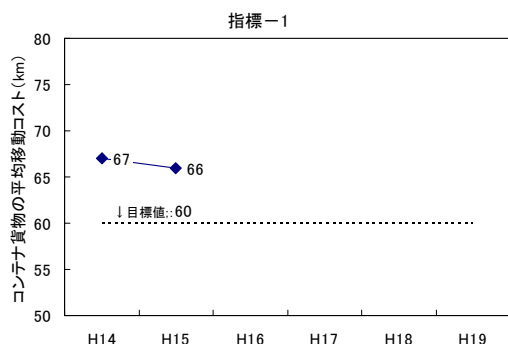
※ () 書きは H20 の設問と H15, H17 の設問が一部異なる表現をしているため参考値として記載している。

- 象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる
- 象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる
- 象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある
- 象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

アウトカム指標の状況

【中部地域で発生集中するコンテナ貨物の平均移動コストの低減；

コンテナ貨物の単位重量当たりの陸上輸送距離；H14 年比 1 割削減 (H19)】

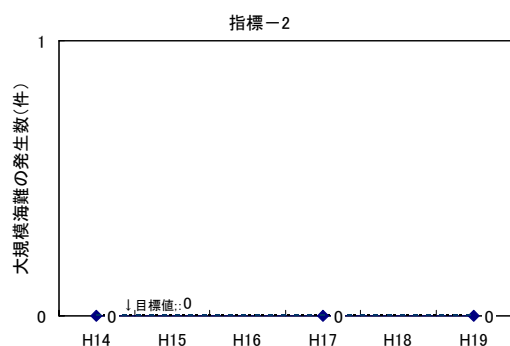


◆状況：－

直近の状況についてはデータがないため評価できません。

※算出の元データである「輸出入貨物の物流動向調査」（財務省関税局調査保税課）において、コンテナ貨物に関する物流動向が公開（集計）されなくなった。

【伊勢湾における航路を閉塞するような大規模海難の発生数 (H15～H19 の発生件数を 0 とする)】



◆状況：○ 目標を達成

平成 15～19 年度における大規模海難の発生数はいずれも 0 件でした。

◆その他：住民・企業意識調査(平成 20 年度)

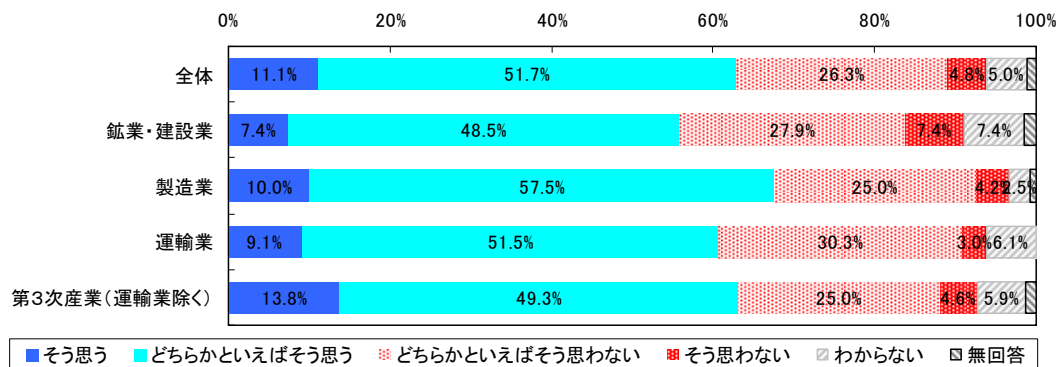
問 8-1 海外との人の流れや物流を担う中部地方の空港や港の流通機能を良くすることについて

- あなたは関心がありますか
- 中部地方の港や空港は、経済活動などを行う上で十分な機能があると思いますか

【企業・業種別】

中部地方の空港や港は経済活動を行う上で十分な機能があると思う企業は、全業種で 6 割と高い。

問8 中部地方の空港や港は経済活動などを行う上で十分な機能があると思いますか



目標 I - 2 : 港湾・空港までのアクセス時間を短縮します

- ・ 国際海上コンテナターミナルや中部国際空港の整備に対応し、それらの拠点と陸上輸送の接続の円滑化を図ります。
- ・ 人の流れについても、各都市から港湾・空港への道路・鉄道整備や海上アクセスの整備を行い、交通機関の連携を強化することで利便性の高いアクセスを実現します。

◆総評

・ 目標の達成状況：前進

東海環状自動車道等の道路網、中部国際空港連絡鉄道、海上アクセス等の整備が進められたことから、アウトカム指標は平成 17 年度で既に目標を達成しました。

企業・住民共に満足度は大きく増加しており、目標に向かって前進したといえます。

・ 総合的評価

既存の産業集積等を活かし、国際競争力を強化していくため、また、国際観光交流の拡大による人的交流促進の観点からも、主要都市、生産拠点とのアクセス時間の短縮は、港湾・空港機能の更なる高度化とともに重要な要素であり、今後もこうした目標に対する取り組みが重要です。

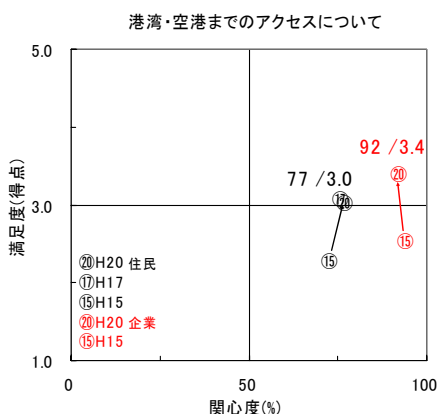
・ 目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（港・空港への行きやすさ）

設問文(問 10-1)：中部地方の港や空港まで、道路や鉄道などを使って行きやすいと思いますか

※平成 15・17 年度の設問文：中部地方にある港湾や空港まで道路、鉄道、船舶などを使って行きやすいと思いますか



◆満足度：低→中

住民・企業の得点とも増加しています。また、住民の得点は平成 17 年度以降変化が少ない。

◆関心度：中～高

関心度は住民・企業共に変化はありません。

◆その他：

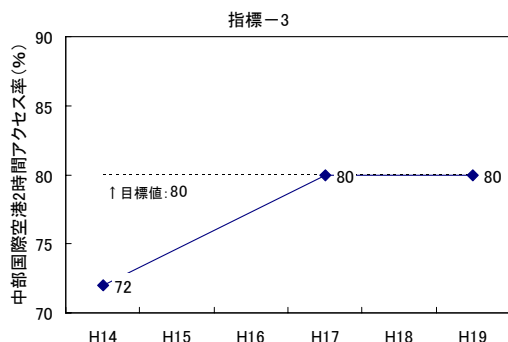
中部国際空港に関連する伊勢湾岸自動車道などの道路網整備が進んだため、満足度が増加したと推察されます。

企業の関心の高さ、企業と住民共に満足度が増加している点が際だっています。

- 象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる
- 象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる
- 象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある
- 象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

アウトカム指標の状況

【中部国際空港への2時間アクセス率（人口）；72%（H14）→80%（H19）】



◆状況：○ 目標を達成

中部国際空港へのアクセス道等の整備が行われた平成17年に目標値を達成しました。

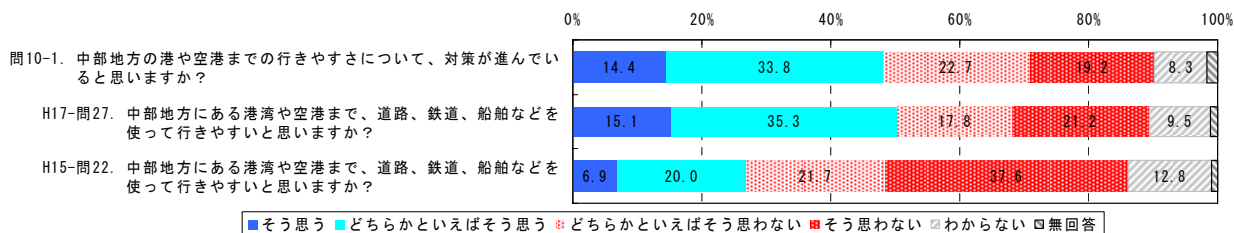
◆その他：住民・企業意識調査(平成20年度)

問10 中部地方のいろいろな場所への行きやすさについてお聞きします

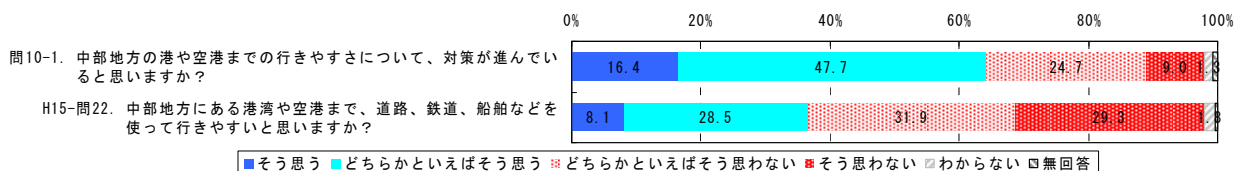
問10-1 中部地方の港や空港までの行きやすさについて

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) 中部地方の港や空港まで、道路や鉄道などを使って行きやすいと思いますか

【住民】

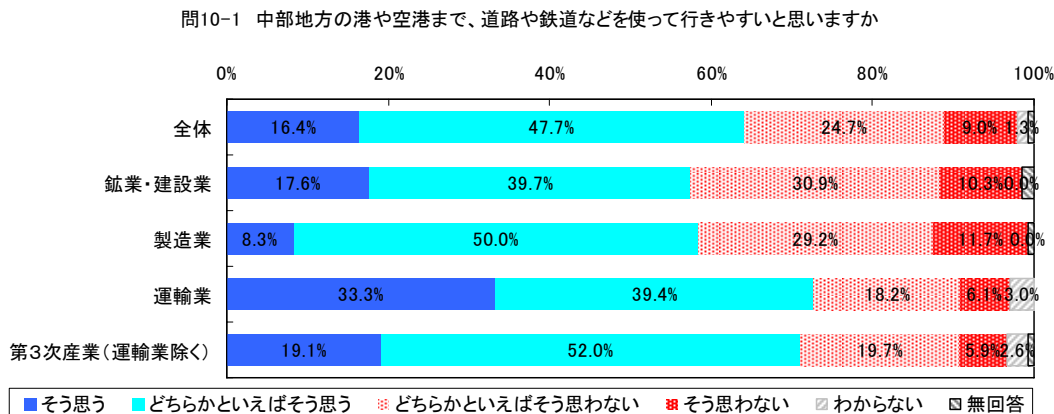


【企業】



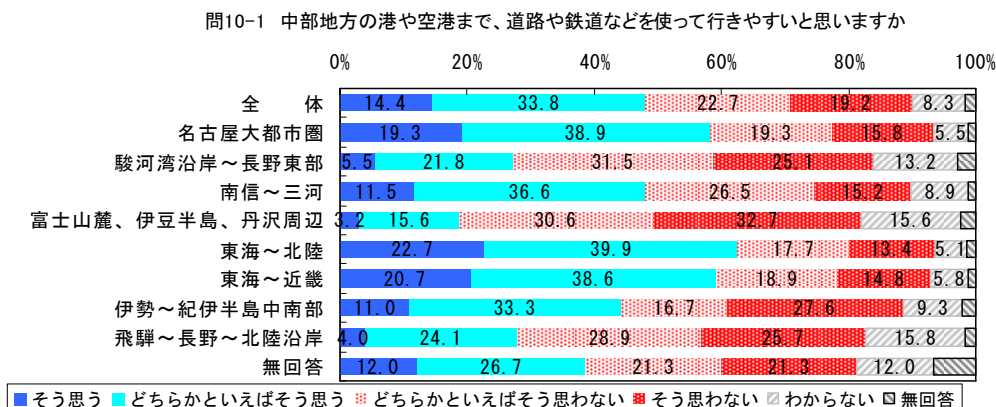
【企業・業種別】

企業の業種別では、運輸業で満足度が高い。



【住民・地域グループ別】

地域グループ別では、「名古屋大都市圏」「東海～北陸」「東海～近畿」の満足度が高く、「駿河湾沿岸～長野東部」「富士山麓、伊豆半島、丹沢周辺」「伊勢～紀伊半島中南部」「飛騨～長野～北陸沿岸」で満足度が低い。



目標 I - 3 : 港湾・空港での貨物引き取りまでの時間（リードタイム）を短縮します

港湾・空港において、IT 技術の活用により輸出入を行う際に必要となる手続の簡素化・効率化を推進し、港湾・空港の機能強化によって物流のリードタイムを短縮します。

◆総評

・ 目標の達成状況：要検討

中部国際空港の開港による空港機能の高度化や、港湾関連の施策・事業（名古屋港等の国際海上コンテナターミナルの整備、輸出入・港湾諸手続のワンストップサービス）の拡充が進んだことで、リードタイムは従来よりも短縮したものと考えられます。平成 20 年の企業意識調査では企業のうち、運輸業の 7 割が 5 年前と比べてリードタイムが短縮されたと思っています。

目標の達成状況を判定しにくい状況にあり、検討を要するものと考えます。

・ 総合的評価

アジア・太平洋地域を中心とした貨物輸送が増加基調にあり、アジア各国との国際競争が激化する状況にある中で、物流拠点の機能強化、コンテナターミナルの整備、輸出入・港湾諸手続のワンストップサービス化やリードタイム等利用時間の短縮といった施策の推進は重要であり、今後もこうした目標に対する取り組みが重要です。

・ 目標の継続性：継続

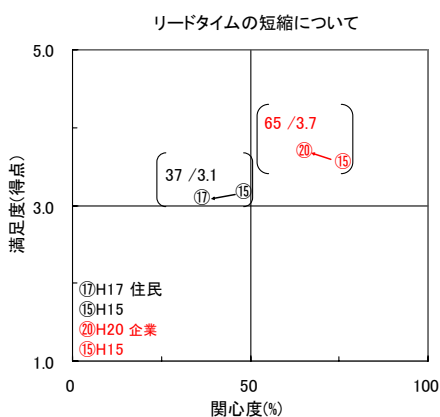
◆指標の達成状況

意識調査（港湾・空港リードタイムの短縮度）

設問文(問 8-2)：中部地方の港・空港における貨物引き取りまでの時間（リードタイム）は、5年ほど前と比べて短縮されていると思いますか。

※平成 17 年度の設問文：中部地方は、港湾・空港での貨物引き取りまでの時間(リードタイム)は短縮されている地域であると思いますか？

※平成 15 年度の設問文：中部地方の港湾や空港は、スピーディーな物流が可能な地域であると思いますか？



◆満足度：中

住民・企業共に「わからない」が多いため、分析対象外としました。

◆関心度：低～中

住民・企業共に関心度は減少し、住民では 5 割を下回っています。

◆その他：

H20 では住民に問うことをやめています。

企業のうち、最も関連性がある運輸業では「短縮された」が 7 割と高い。

※()書きは H20 の設問と H15, H17 の設問が一部異なる表現をしているため参考値として記載している。

※この設問は「わからない」の回答率が高かったため、平成 20 年度調査では企業にのみ実施。

象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる

象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる

象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある

象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

アウトカム指標の状況

本目標に対するアウトカム指標は設定されていません。

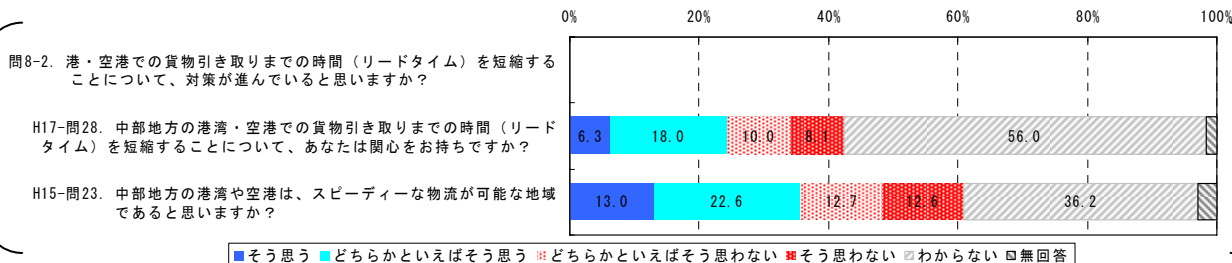
しかし名古屋税関内の貿易額の伸びや、名古屋港飛島ふ頭コンテナターミナル遠隔操作 RTG の導入などを総合的に勘案すればリードタイムは短縮されたものと推察できます。

◆その他：住民・企業意識調査(平成 20 年度)

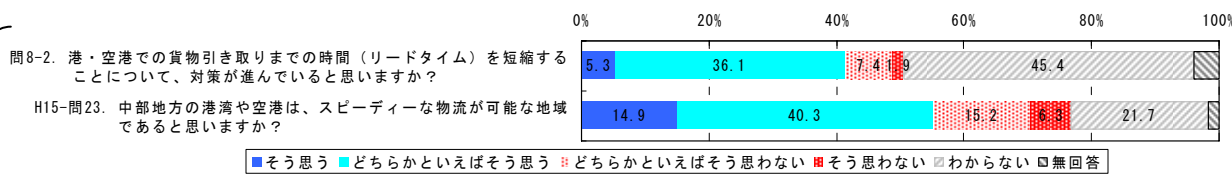
問 8-2 港・空港での貨物引き取りまでの時間（リードタイム）を短縮することについて

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) 中部地方の港・空港における貨物引き取りまでの時間（リードタイム）は、5 年ほど前と比べて短縮されていると思いますか。

【住民】

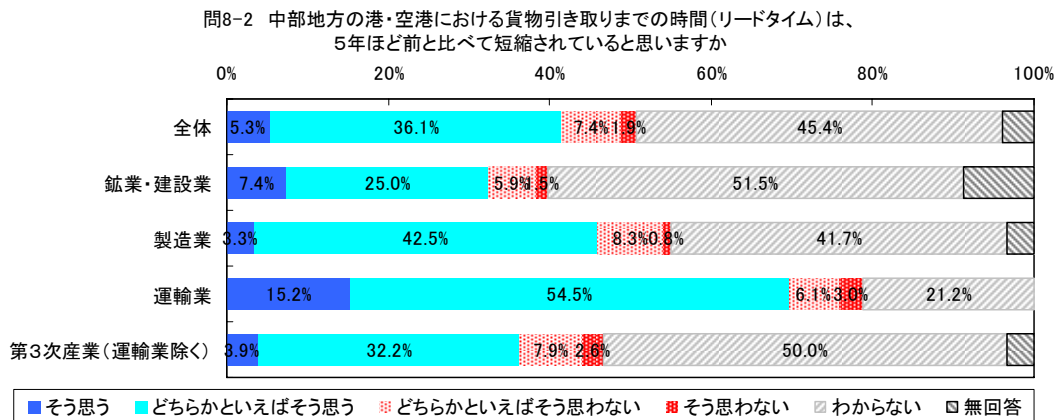


【企業】



※（ ）書きは H20 の設問と H15, H17 の設問が一部異なる表現をしているため参考値として記載している。

【企業・業種別】



目標 I - 4 : 企業が設備投資しやすい環境をつくります

- ・ 物流拠点や生産拠点から高規格幹線道路までのアクセス性を高めるとともに、安定した水供給や下水道の整備を図ります。
- ・ 特区制度の積極的な活用等により、産業活動に有利な環境を創造します。
- ・ 臨海部に陸海空の交通結節性を活かしたロジスティクス拠点や、環境産業等新産業の集積を形成するため、再生整備を進めます。
- ・ 新技術や新商品の情報を流通させるとともに、公共事業で新技術や新商品の積極的な活用を図ります。

◆総評

・ 目標の達成状況 : 前進

設定したアウトカム指標は目標を達成しており、また東海環状自動車道沿線への企業立地が相次ぎました。満足度も高いことから、目標に向かって前進したといえます。

・ 総合的評価

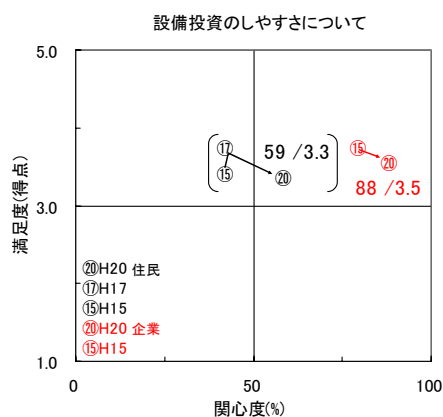
国際競争力を高めていくうえで、企業の操業環境を向上させていくことは重要であり、企業の事業拡大、新規操業の容易さ（コスト低廉さ、手続き等の簡易性、既存産業集積の利活用等）に関する施策の推進は、企業の関心も高く、今後もこうした目標に対する取り組みが重要です。

・ 目標の継続性 : 継続

◆指標の達成状況

意識調査（企業進出や設備投資のしやすさ）

設問文（問 12）：中部地方は企業が進出したり、設備投資しやすい地域であると思いますか



◆満足度：中～高

住民は「わからない」が多いため、分析対象外としました。
企業は 3.5 点と中間値以上となりました。

◆関心度：中～高

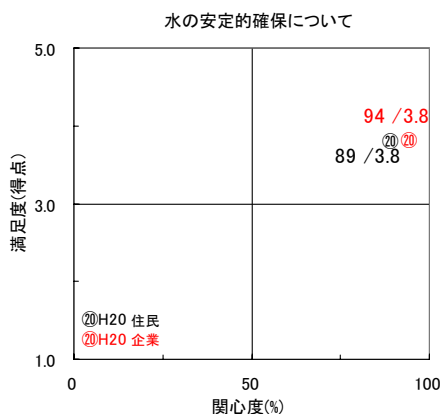
住民の関心度が 6 割であるのに対し、企業の関心度は 9 割と高い。

◆その他：

※（ ）書きは H20 の設問と H15, H17 の設問が一部異なる表現をしているため参考値として記載している。

（水の安定的な確保）

設問文（問 13）：あなたが住む地域では、どんな時でも十分な水量を確実に使える状態になっていると思いますか
（平成 15・17 年度では同様の設問はされていない）



◆満足度：高

得点は、住民・企業共に 3.8 と高い。

◆関心度：高

住民・企業共に 9 割前後の高い関心を示しています。

◆その他：

象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる

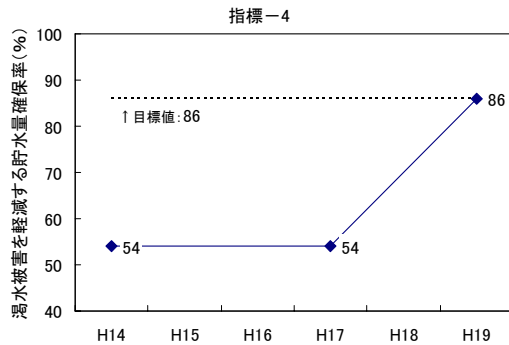
象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる

象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある

象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

アウトカム指標の状況

【渇水被害を軽減する貯水量確保率；約 54% (H14) → 約 86% (H19)】



◆状況：○ 目標を達成

平成 19 年度に目標値を達成しました。

◆その他：住民・企業意識調査(平成 20 年度)

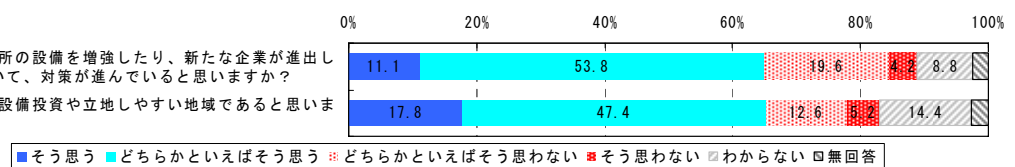
問 12 中部地方は、工場や営業所の設備を増強したり、新たな企業が進出しやすい地域であるかについて

- あなたは関心がありますか
- 中部地方は企業が進出したり、設備投資しやすい地域であると思いますか

【企業】

問 12. 中部地方は、工場や営業所の設備を増強したり、新たな企業が進出しやすい地域であるかについて、対策が進んでいると思いますか？

H15-問 24. 中部地方は企業が設備投資や立地しやすい地域であると思いますか？



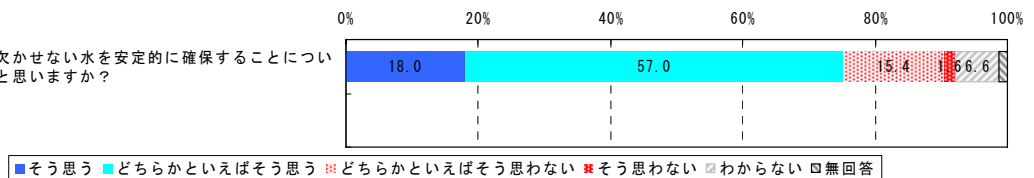
問 13 日常生活や産業活動に欠かせない水を安定的に確保することについて

- あなたは関心がありますか
- あなたが住む地域では、どんな時でも十分な水量を確実に使える状態になっていると思いますか

【企業】

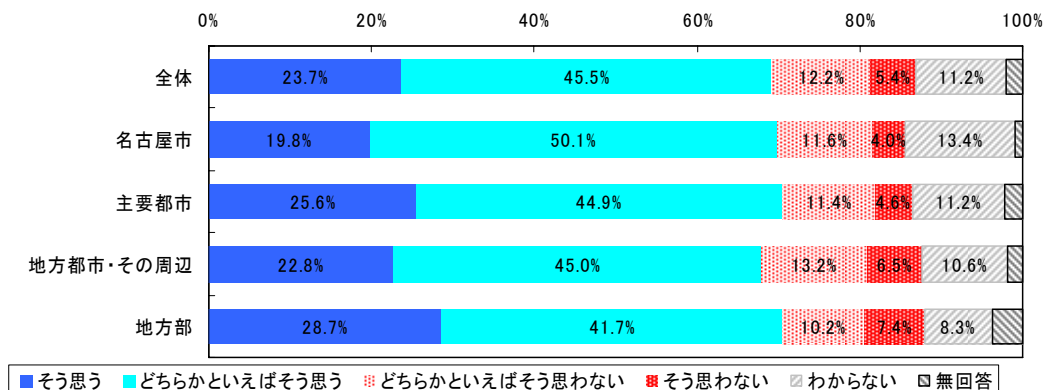
問 13. 日常生活や産業活動に欠かせない水を安定的に確保することについて、対策が進んでいると思いますか？

H15なし



【住民・都市規模別】

問 13 どんな時でも十分な水量を確実に使える状態になっていると思いますか



◆方向Ⅱ：世界都市を目指した名古屋及び各拠点都市の魅力向上

方向Ⅱの達成状況

「愛・地球博」開催を契機とした世界都市を目指した名古屋及び各都市の魅力向上にむけた取り組みで、名古屋駅前等の都市再生関連プロジェクトや地下鉄等の交通インフラの充実がはかられました。また岐阜・静岡・四日市・浜松・豊橋などの拠点都市でも駅前の中心市街地整備がはかられました。都市の賑わいに関する住民満足度が低いなど一部に今後の検討が必要な項目がありますが、名古屋及び各拠点都市の魅力向上に関して住民満足度は微増し、都市のオープンスペースや緑の確保、生活環境や中心都市への移動性などのアウトカム指標も概ね達成したことから、一部に今後の検討が必要な項目はあるが「世界都市を目指した名古屋及び各拠点都市の魅力向上は概ね前進した」といえます。

一方、住民意識調査では、住民意識はその時代や社会的背景の影響を受けやすいものの、名古屋以外の都市の賑わいがあると思う人は減少し、全体の2割弱となっています。また、高齢化社会の進行により、自動車に依存できない高齢者が今後急激に増加しますが、住民意識調査での公共交通機関を用いて暮らしやすいと思う人は減少し、3割弱となっています。大気汚染や騒音等の生活環境対策に関しては、アウトカム指標は達成していますが、住民意識では対策が進んでいると思う人は全体の2割と低い結果となっています。

こうしたことから、より一層の都市の魅力向上と公共交通機関の利便性向上、大気や騒音等の生活環境改善への取り組みが重要です。

○主要プロジェクトの達成度

プロジェクト4 名古屋にぎわい創出プロジェクト

プロジェクト5 名古屋都市圏交通リーディングプロジェクト

プロジェクト6 拠点市街地（岐阜等）再生プロジェクト

○各目標の達成度（アウトカム指標と意識調査の評価）

40の具体的な目標	目標の達成度	評価		目標の継続性
		アウトカム指標(総合)	意識調査の評価	
Ⅱ-1 名古屋の賑わいを創出し、都市再生を推進します	b	○	(①→)④	継続
Ⅱ-2 名古屋の国際性を高めます	b	○	④	継続
Ⅱ-3 都市の中にオープンスペースや緑を確保し、やすらぎと風格を与えます	b	◎	④	継続
Ⅱ-4 交通円滑化対策の推進等により、大気汚染や騒音等による生活環境への影響の改善を図ります	b	◎	④	継続
Ⅱ-5 安全で快適な質の高い都市生活を実現します	要検討	△	④	継続
Ⅱ-6 各拠点都市の賑わいを創出します	要検討	—	④	継続
Ⅱ-7 日常活動圏の中心都市まで快適に行けるようにします	a	◎	④→①	継続
Ⅱ-8 自家用車に過度に依存しない、歩いて暮らせる、自転車も走りやすいまちを形成します	要検討	—	④	継続

※1 a:前進、b:概ね前進、c:前進とは言い難い

※2 意識調査の評価で④→①とは H15 と H20 との意識評価の変化を示している。また()は、設問内容が前回(H15)と一部異なるもの。

象限①・・・関心度、満足度ともに高い ; 今後も現状維持が望まれる

象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い ; 今後も現状維持が望まれる

象限③・・・関心度、満足度がともに低い ; 施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある

象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い ; ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

○アウトカム指標の達成度

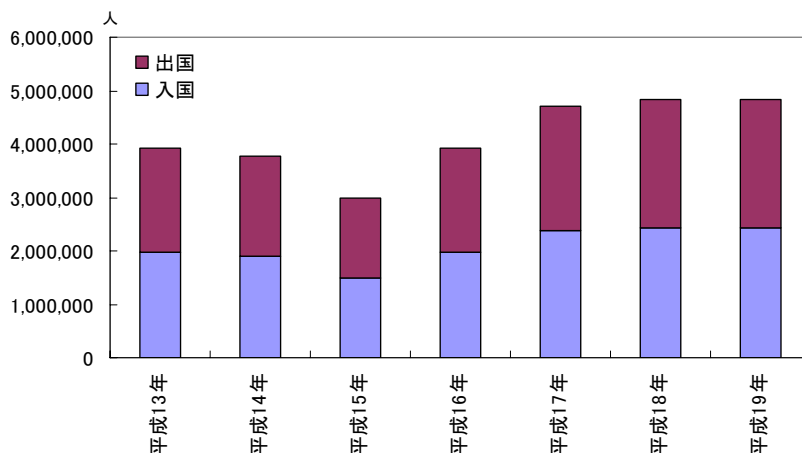
目標	指標名と目標値	初期値	実績値	目標値	達成度
Ⅱ-1	名古屋の都心域の主要な通りにおける休日の歩行者数【16.6万人(H11)→14万人(H22)】	16.6	11.8	14	—
	都心域における潤いのある水辺整備率【17%(H14)→20%(H19)】	17	20	20	達成
Ⅱ-2	名古屋で開催される国際コンベンションの件数【H14比1割増(回)(H19)】	167	194	184	達成
	名古屋における外国企業数【H13比1割増(社)(H18)】	87	87	96	未達
Ⅱ-3	都市域における潤いのある水辺整備率【17%(H14)→20%(H19)】	17	20	20	達成
Ⅱ-4	夜間騒音要請限度達成率【59%(H14)→72%(H19)】	59	74	72	達成
	路上工事時間の縮減率【752時間/km・年(H14)→約2割縮減(H19)】	752	245	602	達成
Ⅱ-5	市街地幹線道路の無電柱化率【5%(H14)→8%(H19)】	5.0	6.7	8.0	未達
	床上浸水被害を緊急に解消すべき戸数【約13,200戸(H14)→約4,300戸(H19)】	13,200	4,580	4,300	概ね達成
	下水道による都市浸水対策達成率(名古屋市)【85%(H14)→94%(H19)】	85.0	93.1	94.0	概ね達成
Ⅱ-6	(指標設定なし)	—	—	—	—
Ⅱ-7	道路渋滞損失時間【4,119万人時間/年(モニタリング区間)(H14)→約1割削減(H19)】	4,119	2,249	3,707	達成
Ⅱ-8	(指標設定なし)	—	—	—	—

※「—」はアウトカム指標の計測が困難又は計測できなかったもの、または、計測された結果が特異な値を示しているため評価できないものである。

【参考：5年間の中部の動き】

・中部国際空港の出入国者数

平成15年を底にして、平成17年にかけて増加しています。



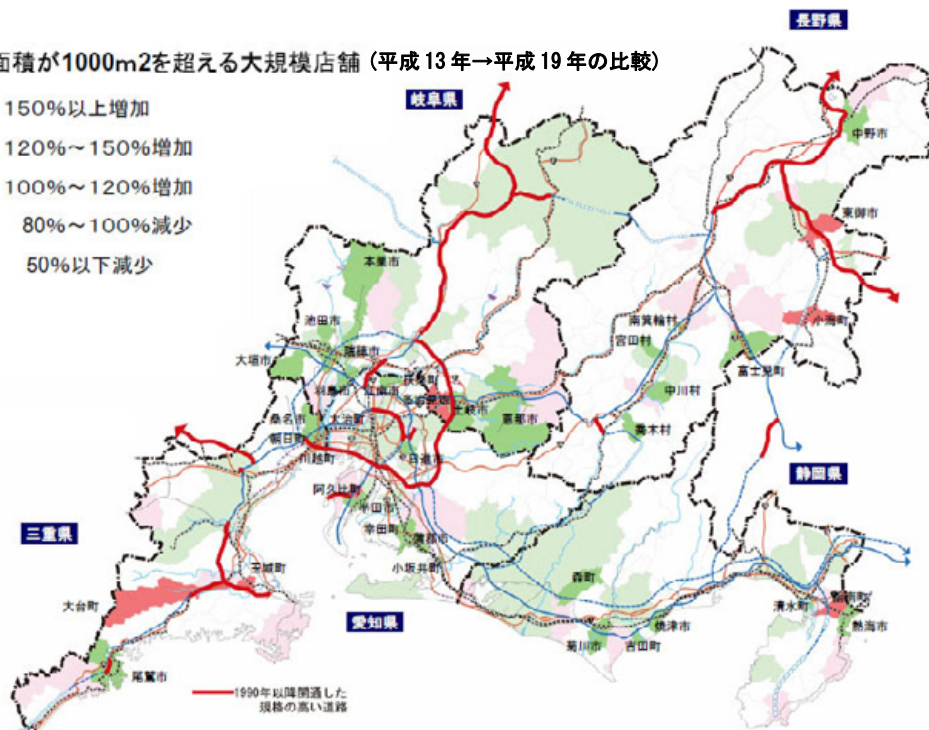
※平成16年以前は名古屋空港のもの。平成17、18年は中部国際空港と名古屋空港の合算値
データ：「出入国管理統計（法務省入国管理局）」

・大規模店舗の出店状況

全ての県で、平成13年より平成19年が増加しています。増加地域は、都市部から離れた郊外地域に多く、平成13年時点で大規模店舗が少ない地域（森町、扶桑町他）と相当程度多かった地域（浜松市、安城市他）に分かれます。

【凡例】店舗面積が1000m²を超える大規模店舗（平成13年→平成19年の比較）

- 150%以上増加
- 120%～150%増加
- 100%～120%増加
- 80%～100%減少
- 50%以下減少

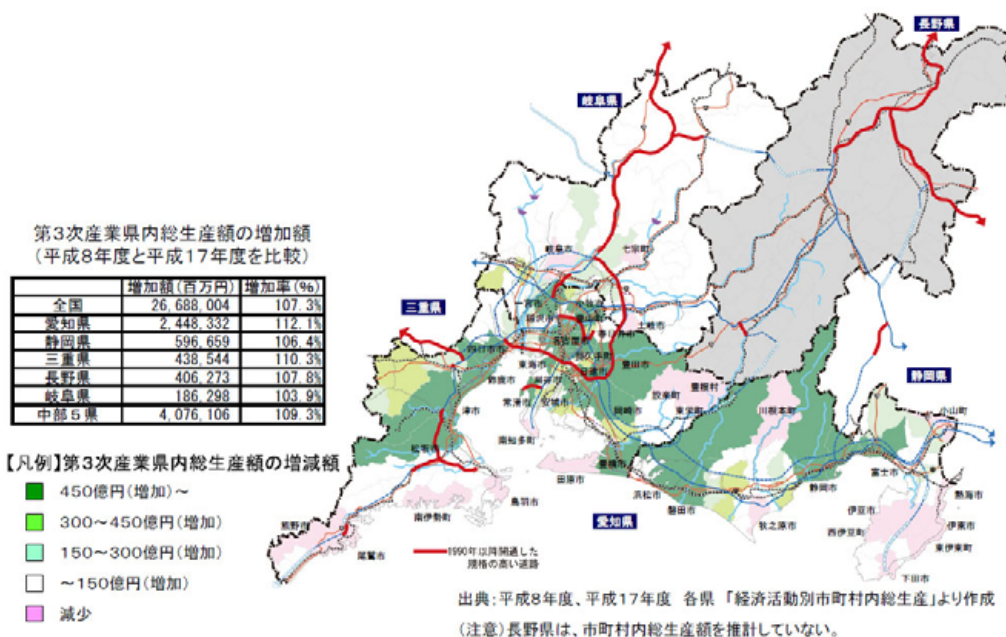


出典：東洋経済新報社「全国大型小売店舗総覧」より作成

出典：国土交通省 中部地方整備局資料

・第3次産業の変化

中部5県ともに、平成8年度と比べて平成17年度では第3次産業県内総生産額が伸びています。



出典：国土交通省 中部地方整備局資料

目標Ⅱ－１：名古屋の賑わいを創出し、都市再生を推進します

名古屋が中部地方のコアとしての中枢性を強化し、21世紀の都市活動、都市生活にふさわしい空間とするために、名古屋駅地区や栄地区をはじめとする都心部において、業務・商業・文化・交流などの複合的な機能を誘導し、多くの人が集い賑わう魅力ある名古屋を目指して都市再生を推進します。

◆総評

・目標の達成状況：おおむね前進

アウトカム指標の水辺整備については目標を達成し、それ以外にも各種開発プロジェクト・イベント、都市再生プロジェクト等が実施されました。

こうしたことから目標に向かって、おおむね前進したといえます。

・総合的評価

今後は名古屋に限らず、都市機能の集積を活用・連携して、都市空間のにぎわい・潤いの場を創出するといった都市再生を推進していく必要があります。企業の関心が高く、今後もこうした目標に対する取り組みが重要です。

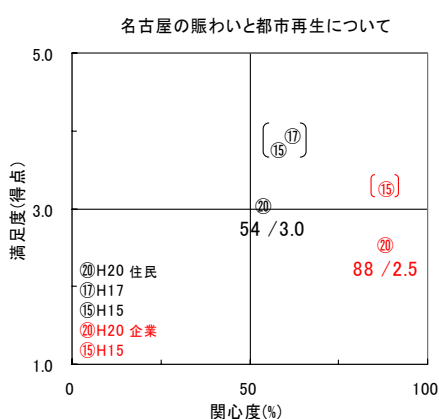
・目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（名古屋の賑わい・国際化度）

設問文(問14)：名古屋を中心とする地域は、賑わいのある国際的な都市と見えますか

※平成15・17年度の設問文：名古屋は人が集い、賑わいがある都市であると思えますか



◆満足度：中～高

住民の得点が3.0に対し、企業の得点は2.5で住民と比較して低い。

◆関心度：中

住民の関心度が5割であるのに対し、企業の関心度は9割と高い。

◆その他：

H20の設問が「国際的な都市」を主とする設問となっているため、経年変化は分析できません。

※()書きはH20の設問とH15, H17の設問が一部異なる表現をしているため参考値として記載している。

象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる

象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる

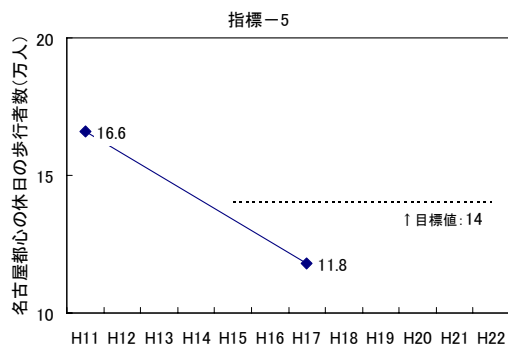
象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある

象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

※この設問は平成20年度調査では統廃合され、近似した設問で実施された。経年変化について取扱に注意を要する。

アウトカム指標の状況

【名古屋の都心域の主要な通りにおける休日の歩行者数；16.6万人(H11)→14万人(H22)】



◆状況：－

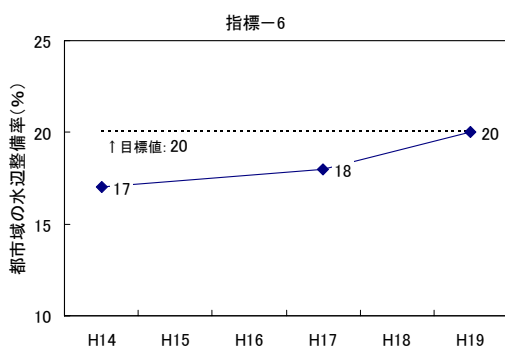
平成11年度(16.6万人)から平成17年度(11.8万人)と減少しており、目標に達していません。

※目標値の根拠であった「名古屋新世紀計画2010(名古屋市)」の第2次実施計画の目標数値が第3次実施計画(H17)で変更されたため、目標値を14万人に変更。

※H11年度の計測値がイベント等の特異日であり歩行者数が過大な数値を示していたため、H17の計測値との比較が困難なため達成状況を「－」とした。

※元データである道路交通センサスが、5年ごとに実施されるため、H17、H22年度の数値によって計測される。

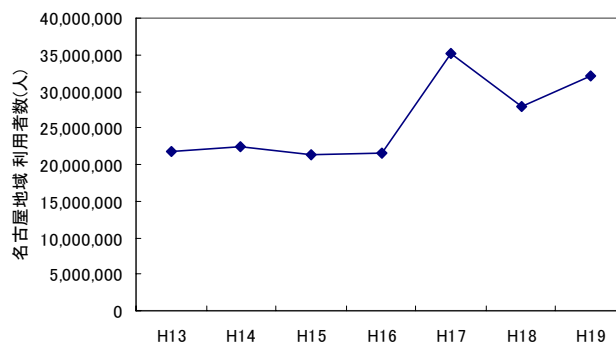
【都市域における潤いのある水辺整備率；17%(H14)→20%(H19)】



◆状況：○ 目標を達成

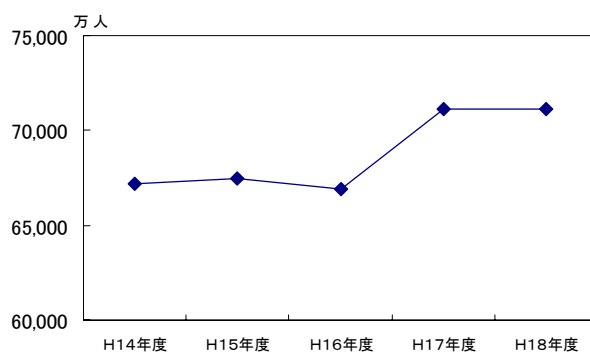
順調に整備率が向上し、目標値を達成しました。

【参考：名古屋市の観光入込み客数の推移】



出典：平成19年 愛知県観光レクリエーション利用者統計、愛知県産業労働部観光コンベンション課

【参考：名古屋市内鉄道乗車人員合計（JR、私鉄地下鉄）】



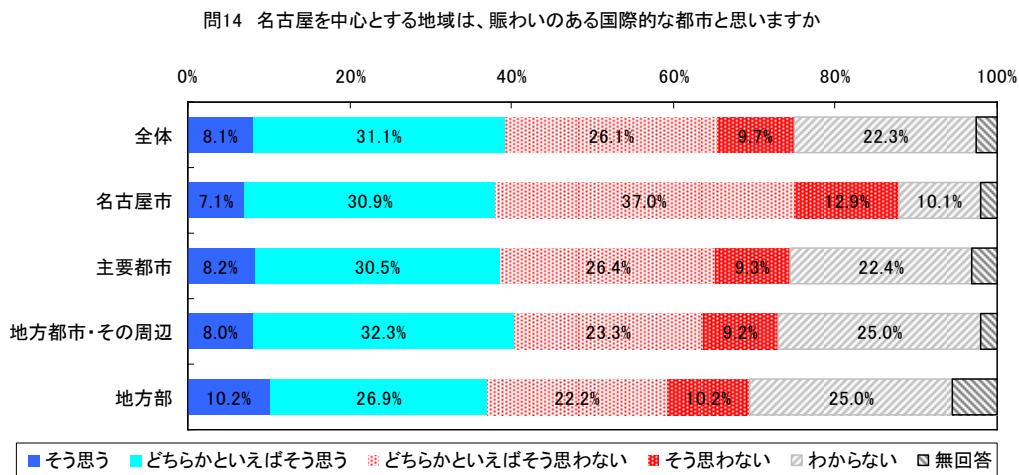
出典：統計なごや Web版「大都市比較統計年表」

◆その他：住民意識調査(平成 20 年度)

問 14 名古屋を中心とする地域に国内外の人が集い、賑わうまちづくりについて

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) 名古屋を中心とする地域は、賑わいのある国際的な都市と思いますか

【住民・都市規模別】



目標Ⅱ－２：名古屋の国際性を高めます

- ・ 名古屋での各種の会議、アフターコンベンションの機会を増やします。
- ・ 産業観光の拠点、歴史文化の遺産を活かした拠点整備やその案内を充実するとともに、「愛・地球博」の開催や中部国際空港の開港を契機に、海外でのPRを強化し、名古屋の国際的知名度を向上します。

◆総評

・ 目標の達成状況：おおむね前進

「愛・地球博」の開催、中部国際空港の開港等による企業、個人等の国際交流進展等もあって、アウトカム指標のうち国際コンベンション件数は平成17年度で既に目標を達成しています。また中部国際空港開港前後で出入国者数が増加しています。こうしたことから目標に向かって、おおむね前進したといえます。

・ 総合的評価

愛・地球博の理念を継承した国際交流、産業観光の拡大、国際的なビジネス拠点としての都市機能の向上、世界水準の文化・教育環境の実現等、総合的な都市の魅力向上が重要であり、企業の関心度は高く、今後もこうした目標に対する取り組みが重要です。

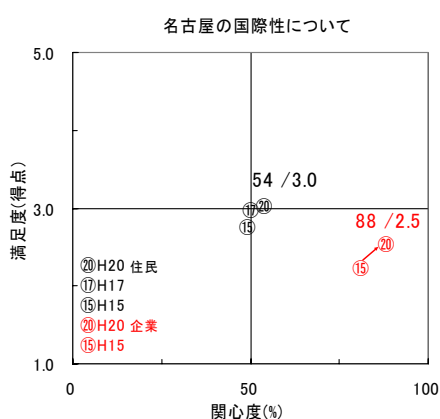
・ 目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（名古屋の賑わい・国際化度）

設問文(問14)：名古屋を中心とする地域は、賑わいのある国際的な都市と思いますか

※平成15・17年度の設問文：名古屋は各種の国際会議が開催されるなど、国際色豊かな都市だと思いますか



◆満足度：中

住民の得点が3.0前後に対し、企業の得点は中間値より低いが、満足度は増加しています。

◆関心度：中～高

住民の関心度が5割であるのに対し、企業の関心度は9割と高い。

◆その他：

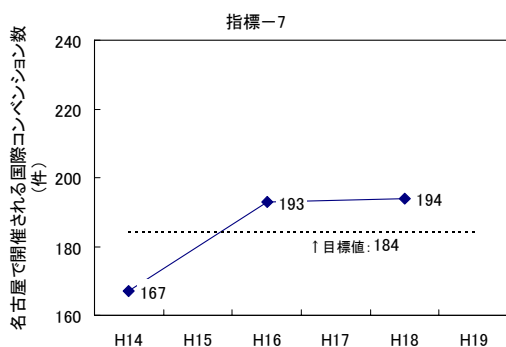
平成15年度から17年度で満足度が増加し、17年度と20年度では顕著な差は見られません。これは「愛・地球博」による交流促進や国際的な意識の向上と推察されます。

- 象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる
- 象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる
- 象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある
- 象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

※この設問は平成20年度調査では統廃合され、近似した設問で実施された。

アウトカム指標の状況

【名古屋で開催される国際コンベンションの件数；H14比1割増(H19)】

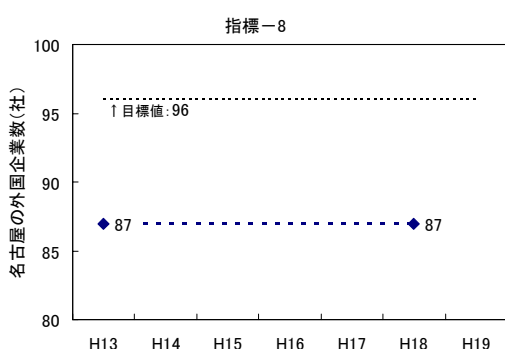


◆**状況：○** 目標を達成

平成16年度以降は目標値を上回っています。

※平成19年度の実績値は元データとなる国際観光振興機構(JNTO)「コンベンション統計(毎年調査)」が、現時点で発刊されていないためデータがない。

【名古屋における外国企業数；H13比1割増(H18)】



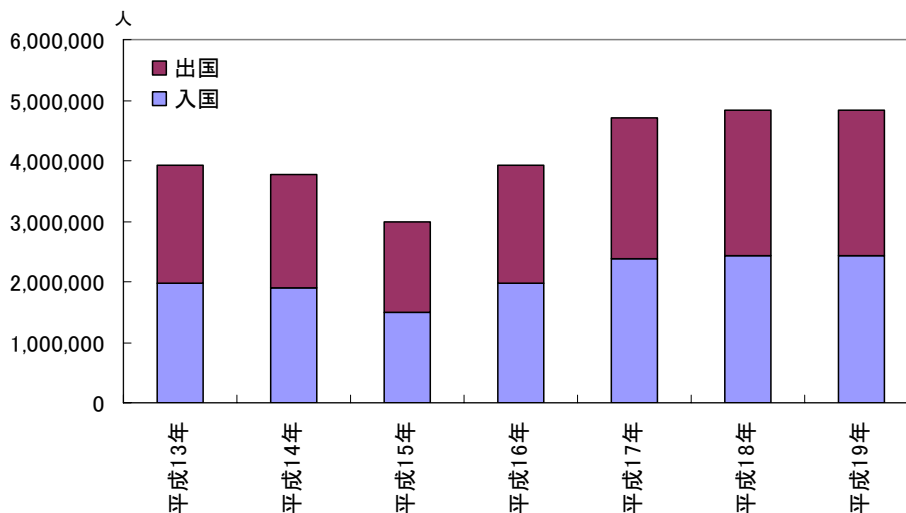
◆**状況：×** 未達成

変化がみられません。

※元データとなる総務省「事業所・企業統計年鑑」は5年毎の調査であり、H13、H18、H23に実施

【参考：中部国際空港の出入国者数】

平成15年を底にして、平成17年にかけて増加しています。



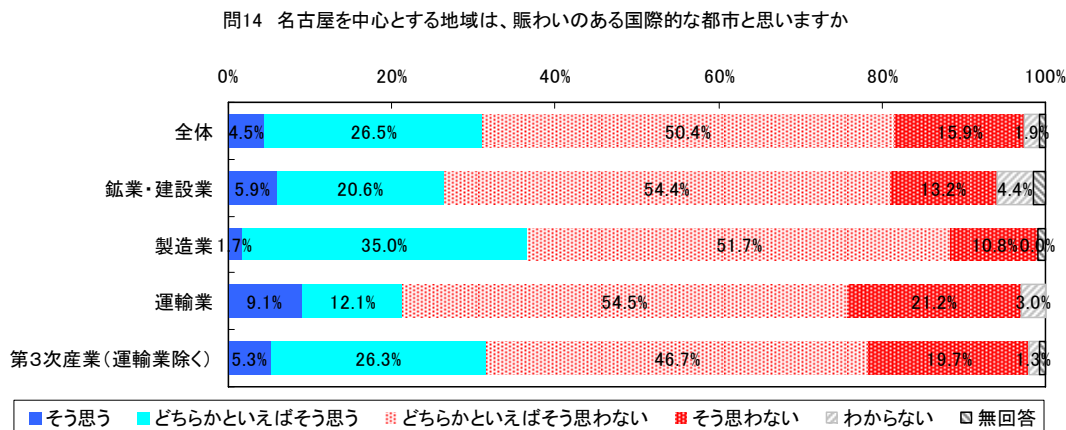
※平成16年以前は名古屋空港のもの。平成17、18年は中部国際空港と名古屋空港の合算値
データ：「出入国管理統計(法務省入国管理局)」

◆その他：住民・企業意識調査(平成 20 年度)

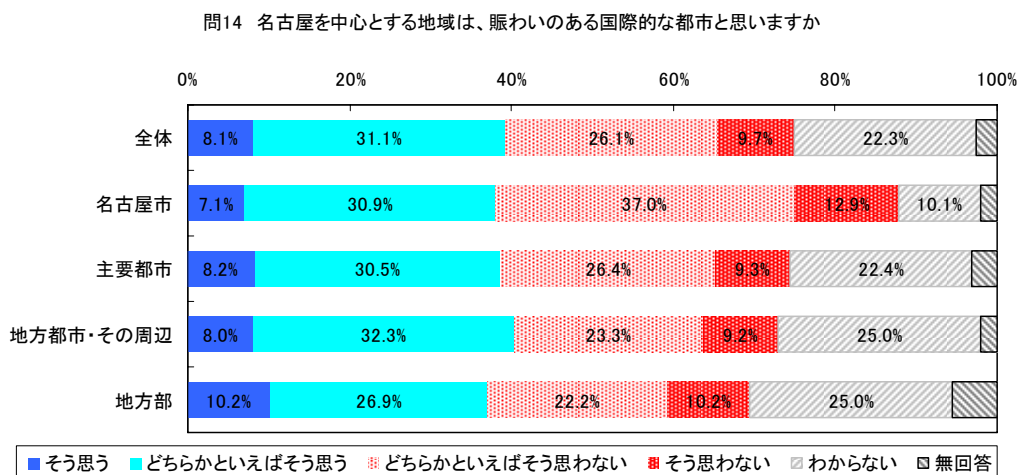
問 14 名古屋を中心とする地域に国内外の人が集い、賑わうまちづくりについて

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) 名古屋を中心とする地域は、賑わいのある国際的な都市と思いますか

【企業・業種別】



【住民・都市規模別】



目標Ⅱ－3：都市の中にオープンスペースや緑を確保し、やすらぎと風格を与えます

- ・ 公共空間や公共施設などの既存ストックの有効活用を図りながら、美しく訪れやすい水辺環境の創出や公園の整備、憩いの空間の形成を行います。

◆総評

・ 目標の達成状況：おおむね前進

都心回帰の傾向、都心域での居住空間としての魅力向上が必要とされる中で、アウトカム指標は目標を達成し、住民満足度もやや向上しています。以上から目標に向かって、おおむね前進したといえます。

・ 総合的評価

景観法等の施行により景観・緑地の保全・再生が重視される一方、近年、都市部でのヒートアイランドが問題になるなど緑の保全・創出が重要となっています。このため、都市におけるオープンスペース確保、緑地環境の向上等は重要であることから、今後もこうした目標に対する取り組みが重要です。

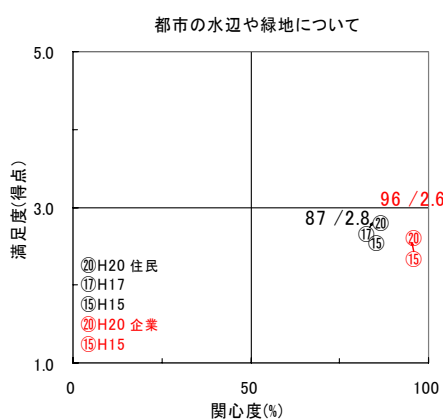
・ 目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（都市の憩いの場の豊富さ）

設問文（問 16）：中部地方の都市部は、こうした憩いの場が豊富にあると思いますか

※平成 15・17 年度の設問文：中部地方の都市部において、水辺や緑地のような心やすらげる空間（公園・歩道等）が豊富にあると思いますか



◆満足度：中

得点は 2.3～2.8 と中間値より低いですが、満足度は増加しています。

◆関心度：高

住民・企業共に 9 割前後の高い関心を示しています。

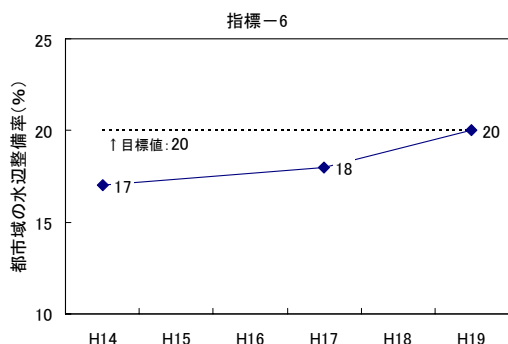
◆その他：

都市部の憩いの場に関する設問であるため、地方部の分析は対象外としました。

- 象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる
 象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる
 象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある
 象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

アウトカム指標の状況

【都市域における潤いのある水辺整備率；17% (H14)→20% (H19)】



◆状況：○ 目標を達成

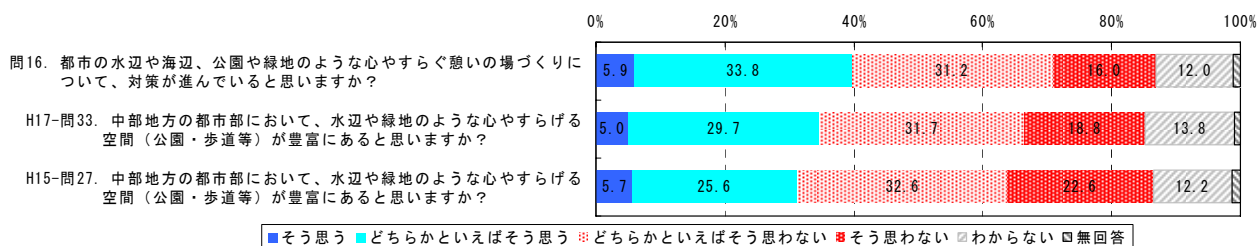
順調に整備率が向上し、目標値を達成しました。

◆その他：住民意識調査(平成 20 年度)

問 16 都市の水辺や海辺、公園や緑地のような心やすらぐ憩いの場づくりについて

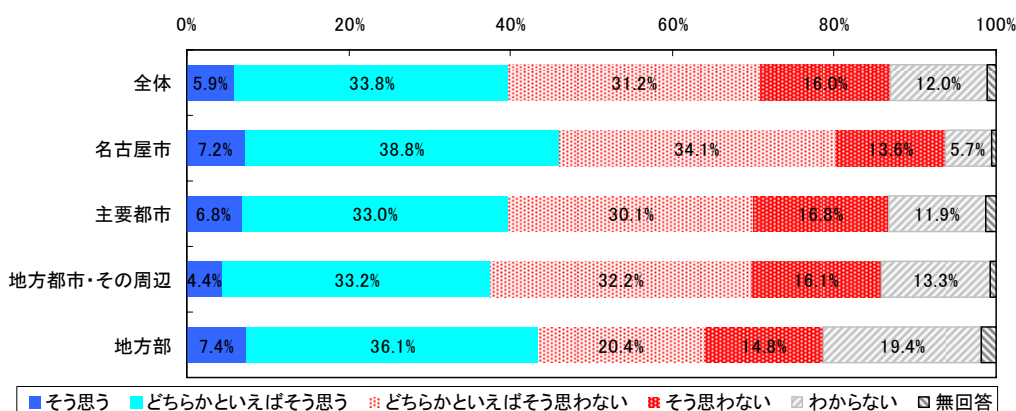
- 1) あなたは関心がありますか
- 2) 中部地方の都市部は、こうした憩いの場が豊富にあると思いますか

【住民】



【住民・都市規模別】

問16 中部地方の都市部は、水辺や海辺、公園や緑地等の憩いの場が豊富にあると思いますか



目標Ⅱ－４：交通円滑化対策の推進等により、大気汚染や騒音等による生活環境への影響の改善を図ります

- ・ 環状道路の整備、ITS の活用などにより交通の流れを円滑にすることで、大気汚染や騒音等を減らし、生活環境の改善を図ります。
- ・ 遮音壁や低騒音舗装などにより、静かな生活を回復します。

◆総評

・ 目標の達成状況：おおむね前進

集中工事による路上工事時間の縮減や夜間騒音要請限度達成率といったアウトカム指標は目標を達成しています。以上から目標に向かって、おおむね前進したといえます。

・ 総合的評価

住民の関心度が高いにも関わらず、満足度が低い結果となっており、今後も目標として重要であると考えられ、施策・事業の強化・拡充を行う必要があります。また、自動車交通により排出される大気汚染物質によって悪化している沿道環境改善への取り組みを一層強化し、環境基準を達成する必要があることから、今後もこうした目標に対する取り組みが重要です。

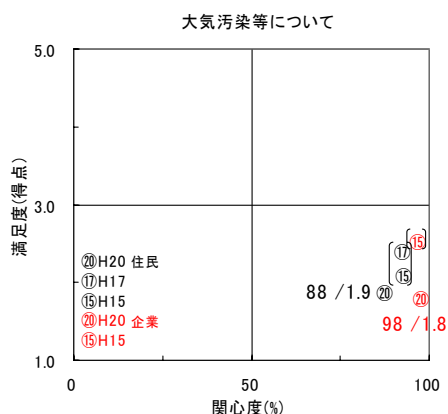
・ 目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（ヒートアイランド対策や大気汚染対策）

設問文(問 26)：あなたの住む地域では、ヒートアイランド現象によるまちの気温上昇や大気の汚染による生活への影響の対策が進んでいると思いますか

※平成15・17年度の設問文：中部地方の都市部においては、大気汚染や騒音等による生活への影響は改善されていると思いますか？



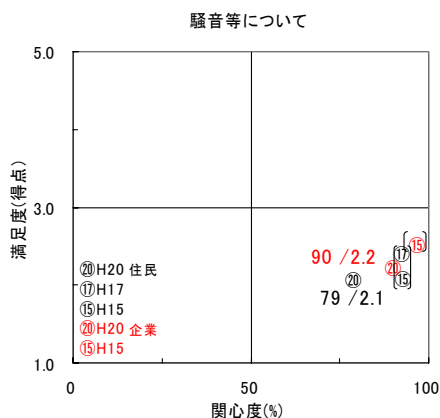
- ◆満足度：低
得点は住民・企業共に低い。
- ◆関心度：高
住民・企業共に9割前後の高い関心を示しています。
- ◆その他：

※()書きはH20の設問とH15, H17の設問が一部異なる表現をしているため参考値として記載している。

(交通騒音・振動対策)

設問文(問 27)：あなたの住む地域では、道路や鉄道などの交通騒音や振動による生活への影響の対策が進んでいると思いますか

※平成15・17年度の設問文：中部地方の都市部においては、大気汚染や騒音等による生活への影響は改善されていると思いますか



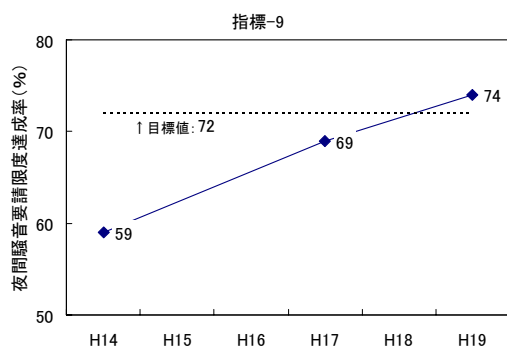
- ◆満足度：低
得点は住民・企業共に低い。
- ◆関心度：高
住民・企業共に9割前後の高い関心を示しています。
- ◆その他：

※()書きはH20の設問とH15, H17の設問が一部異なる表現をしているため参考値として記載している。

- 象限①・・・関心度、満足度ともに高い ; 今後も現状維持が望まれる
- 象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い ; 今後も現状維持が望まれる
- 象限③・・・関心度、満足度がともに低い ; 施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある
- 象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い ; ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

アウトカム指標の状況

【夜間騒音要請限度達成率；59% (H14) →72% (H19)】

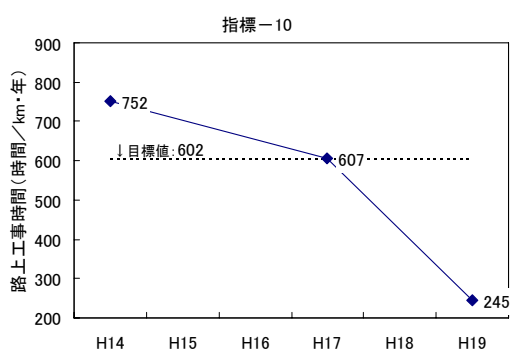


◆状況：○ 目標を達成

順調に数字を伸ばし、目標値を達成しました。

※中間評価時に目標値を再設定しています

【路上工事時間の縮減率；752時間/km・年 (H14) →約2割縮減 (H19)】



◆状況：○ 目標を達成

平成19年度は目標値を達成しました。

※中間評価時に集計方法の見直しも含め、目標値を再設定しています

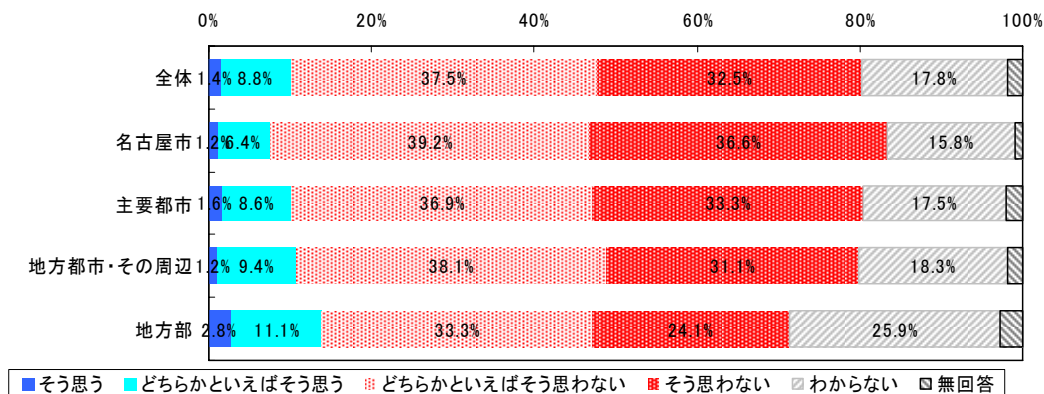
◆その他：住民意識調査(平成20年度)

問26 ヒートアイランド現象によるまちの気温上昇や大気汚染による生活への影響について

- あなたは関心がありますか
- あなたの住む地域では、こうした生活への影響の対策が進んでいると思いますか

【住民・都市規模別】

問26 ヒートアイランド現象・大気汚染等への対策が進んでいると思いますか

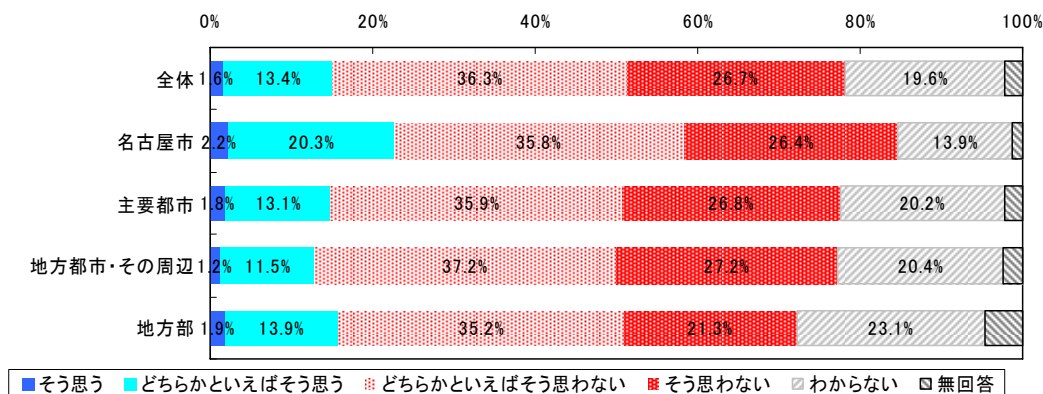


問 27 道路や鉄道などの交通騒音や振動による生活への影響について

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたの住む地域では、こうした生活への影響の対策が進んでいると思いますか

【住民・都市規模別】

問27 道路や鉄道などの交通騒音や振動の対策が進んでいると思いますか



目標Ⅱ－５：安全で快適な質の高い都市生活を実現します

- ・ 市街地の再整備、安全で快適な歩行空間の形成など、日常で豊かさを実感できる都市生活を実現します。
- ・ 雨水対策への河川と下水道の連携など総合的な取り組みやハザードマップによる情報提供、防災上危険な密集市街地の解消および駅等の主要施設周辺の避難路・避難地の確保など、都市における防災対策を推進します

◆総評

・ 目標の達成状況：要検討

下水道整備率をはじめアウトカム指標はわずかに目標に達成しておらず、住民の満足度は高くありません。目標の達成状況を判定しにくい状況にあり、検討を要するものと考えます。

・ 総合的評価

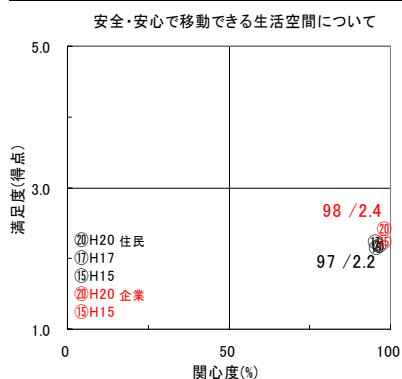
今後も引き続き、密集市街地の解消や交通事故対策を進め、高齢者や子供をはじめとして誰もが安全、快適な歩行空間を確保していく必要があります。また総合的な雨水対策への取り組みやハザードマップによる情報提供や避難路避難地の確保が必要であり、今後もこうした目標に対する取り組みが重要です。

・ 目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（歩行者や自動車の安全安心な移動）

設問文（問5）：あなたが住む地域では、歩行者も自動車も安全で安心して移動できると思いますか



◆満足度：低

得点は、住民企業共に変化はありません。

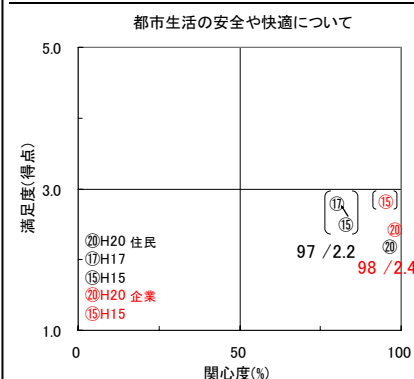
◆関心度：高

住民・企業共に9割以上の高い関心を示しています。

意識調査（都市生活の安全や快適について）

（平成20年は上記の設問で代替した）

※平成15・17年度の設問文：中部地方の都市部は、安全で快適に生活できると思いますか



◆満足度：低

得点は、住民企業共に変化はありません。

◆関心度：高

住民・企業共に9割以上の高い関心を示しています。

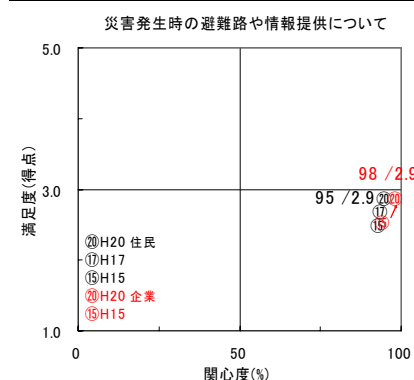
◆その他：

この設問は平成20年度調査では統廃合され、近似した設問で実施されました。経年変化について取扱いに注意を要します。

意識調査（避難路確保・災害情報提供）

設問文（問4）：あなたの住む地域では、災害が発生した時の避難地・避難路の確保や災害情報の提供について対応が進んでいると思いますか

※平成15・17年度の設問文：あなたの住む地域は、あらゆる災害に対して、避難地・避難路の整備や情報提供の対策が進んでいると思いますか



◆満足度：中

得点は2.5～2.9と中間値より低いが、満足度は増加しています。

◆関心度：高

住民・企業共に9割以上の高い関心を示しています。

◆その他：

関心度は極めて高く、また「わからない」が微減していることから、実態への理解が進みつつあることが伺えます。

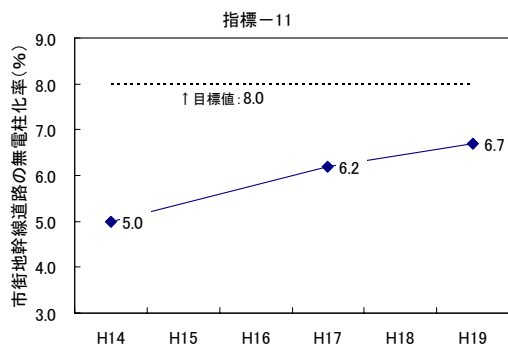
なお、企業の業種別では、運輸業の満足度が他業種よりやや高い。

象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる
 象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる
 象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある
 象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

※（）書きはH20の設問とH15、H17の設問が一部異なる表現をしているため参考値として記載している。

アウトカム指標の状況

【市街地の幹線道路の無電柱化率；5% (H14)→8% (H19)】

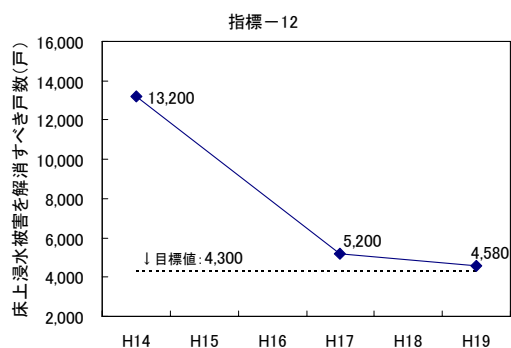


◆**状況：×** 未達成

増加していますが、目標に達していません。

※土地区画整理事業などの関連事業と併せて実施されているが、用地買収などの事業工程の遅れの影響を受けている

【床上浸水被害を緊急に解消すべき戸数（約13,200戸 (H14)→約4,300戸 (H19)）】

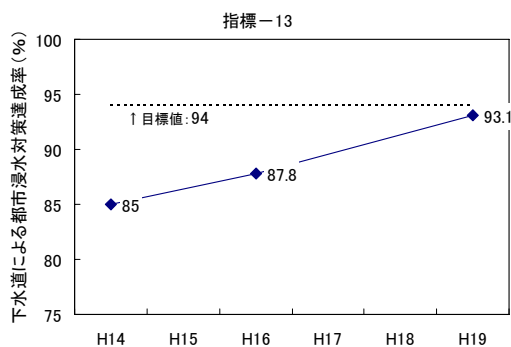


◆**状況：△** 概ね達成

わずかながら目標値に及びませんでした(目標値に対する減少率が90%以上であり、△としました)。

※当該目標設定後、幾度も発生した災害への対策に伴う集中投資により、当初予定していた事業が遅れたため
 ※中間評価時に集計方法の見直しも含め、目標値を再設定しています

【下水道による都市浸水対策達成率（名古屋市）；85% (H14)→94% (H19)】



◆**状況：△** 概ね達成

わずかながら目標値に及びませんでした(目標値に対する増加率が90%以上であり、△としました)。

※地元調整による事業実施の遅れによる

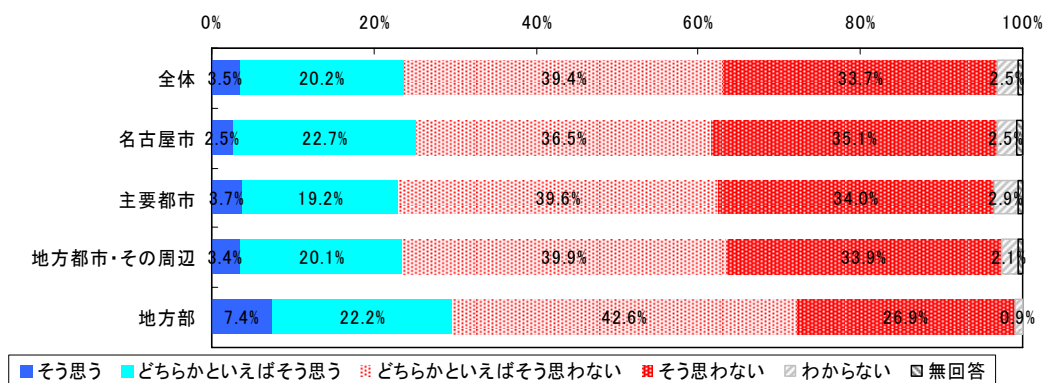
◆その他：住民・企業意識調査(平成 20 年度)

問 5 交通事故を減らし、歩行者、自転車や自動車が安全で安心して移動できる道やまちづくりについて

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたが住む地域では、歩行者も自動車も安全で安心して移動できると思いますか

【住民・都市規模別】

問5 交通事故を減らし、歩行者・自動車が安全で安心して移動できると思いますか



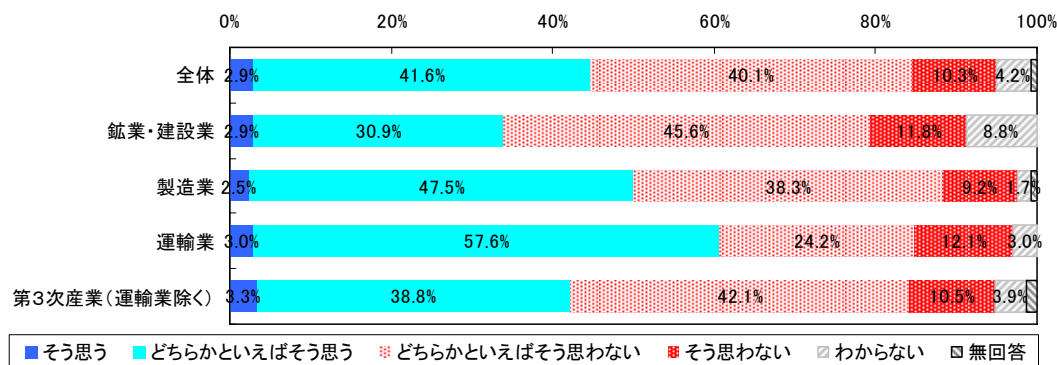
問 4 災害が発生した時の避難地・避難路の確保や災害情報の提供について

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたの住む地域では、このような対応が進んでいると思いますか

【企業・業種別】

運輸業の満足が6割と高い。

問4 災害発生時の避難地・避難路の確保や災害情報提供等の対応が進んでいると思いますか



目標Ⅱ－6：各拠点都市の賑わいを創出します

- ・ 都心部の駐車場の整備による路上駐車を減らし、渋滞解消を図るとともに、駅前や中心市街地等の基盤整備を推進し、人通りを増やすなど、都市に賑わいを創出します。
- ・ 潤いや賑わいのあるまちなか居住を推進し、まちなかの定住人口を増やします。

◆総評

・ 目標の達成状況：要検討

各都市の中心市街地問題の顕在化もあり、主要都市部の住民の満足度が低い。またアウトカム指標が設定されていないため、目標の達成状況を判定しにくい状況にあり、検討を要するものと考えます。

・ 総合的評価

今後、都心回帰が進展することが予想されるため、拠点都市における都心居住を推進するとともに、真に実効性のあるまちなかの活性化に向け、コンパクトシティの形成が重要です。このため、都心居住の誘導、コンパクトシティ形成のための郊外立地の抑制とともに、都市災害や環境保全等の観点から、流域圏を基本とした中山間地域等との一体的管理の推進などが重要であり、今後こうした目標に対する取り組みが重要です。

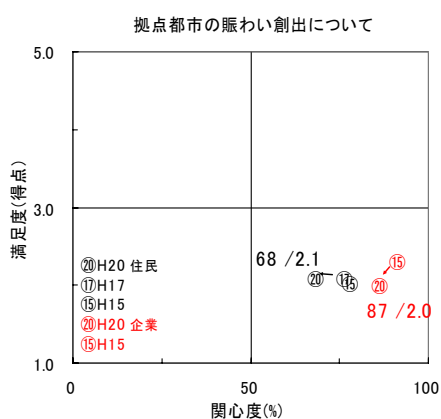
・ 目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（名古屋以外の都市の賑わい度）

設問文(問15)：名古屋以外の都市のまちの中心部は、賑わいがあると思いますか

※平成15・17年度の設問文：あなたの住む地域の中心的な都市の駅前等は賑わっていると思いますか



◆満足度：低

得点は、住民企業共に変化はありません。また、「そう思わない」が3割あり、強い不満が伺えます。

◆関心度：中～高

住民の関心度が6～7割に対し、企業の関心度は9割と高い。

◆その他：

主要都市部において「どちらかといえばそう思う」が1割に対して、「そう思わない」が3割を上回り、主要都市部の満足度が低い。

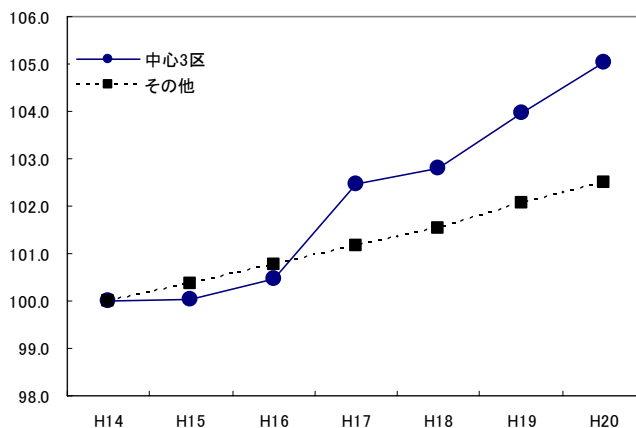
- 象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる
- 象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる
- 象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある
- 象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

アウトカム指標の状況

本目標に対するアウトカム指標は設定されていません。

ただ名古屋市を例に見ても、中心3区(東区,中村区,中区)とそれ以外では、人口の伸びが中心3区で大きく、またここ5年間のオフィスの空室率は減少傾向にあるなど、都心回帰が進んでいるといえます。

【参考：名古屋市の人口の推移】

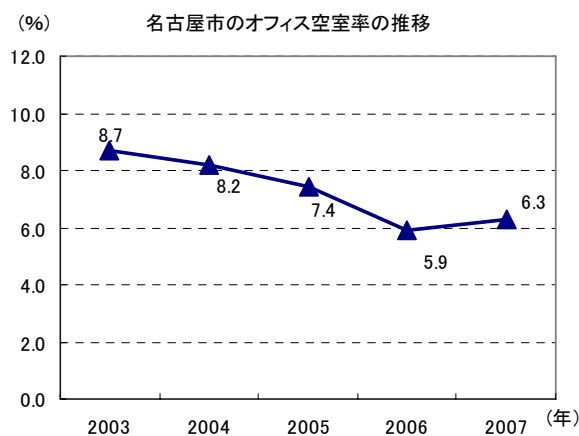


名古屋市中心3区とそれ以外の人口増加のようす

※平成14年を100とした場合

データ：統計なごや Web 版(各年とも10月1日現在の住民基本台帳人口及び外国人登録人口)

【参考：名古屋市のオフィス空室率の推移】



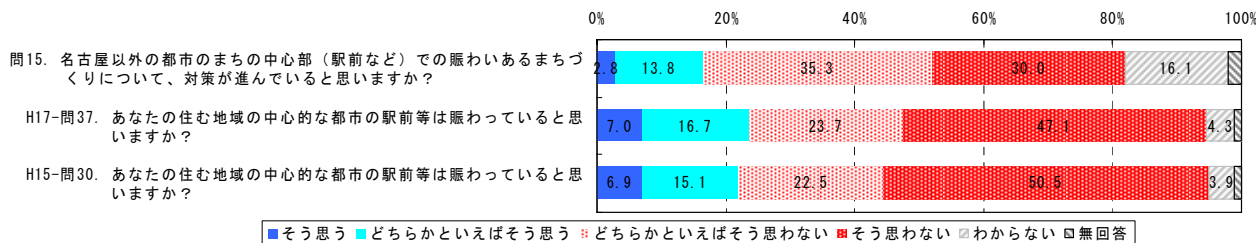
出典：「中日新聞社・三菱UFJリサーチ&コンサルティング編：東海エリアデータブック 2009」
(データ：シービー・リチャードエリス総合研究所(株))

◆その他：住民・企業意識調査(平成 20 年度)

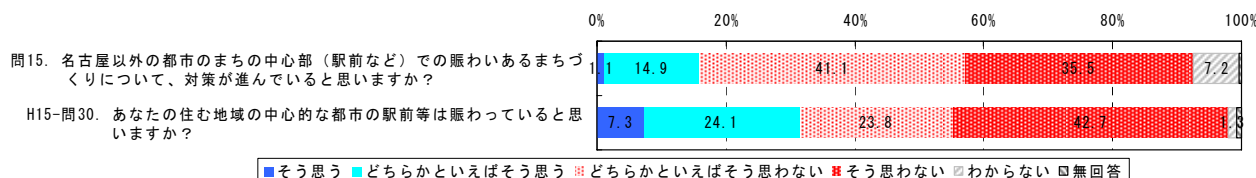
問 15 名古屋以外の都市のまちの中心部（駅前など）での賑わいあるまちづくりについて、対策が進んでいると思いますか

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) 名古屋以外の都市のまちの中心部は、賑わいがあると思いますか

【住民】

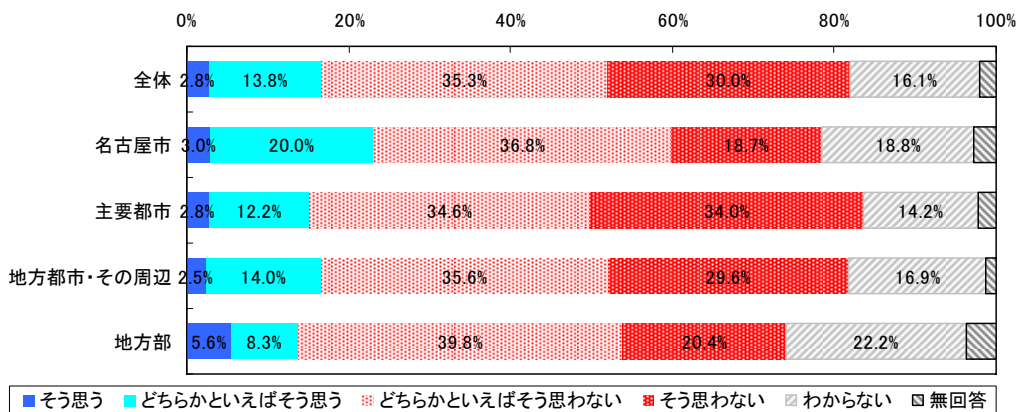


【企業】



【住民・都市規模別】

問15 名古屋以外の都市のまちの中心部は、賑わいがあると思いますか



目標Ⅱ－７：日常活動圏の中心都市まで快適に行けるようにします

- ・ 鉄道やバスなどの公共交通機関を充実するとともに、パークアンドライドなどの導入により公共交通との交通結節性を向上します。
- ・ 幹線道路の整備や交差点改良、鉄道の高架化等の推進により、日常活動圏の中心都市までの渋滞を解消します。

◆総評

・ 目標の達成状況：前進

東海環状自動車等の道路網整備によって道路渋滞損失時間といったアウトカム指標は目標を達成しました。また住民の満足度も増加したことから、目標に向かって前進したといえます。

・ 総合的評価

東海環状自動車等の整備による東海環状都市圏の渋滞が緩和される一方で、その他郊外地域では、バイパス機能、交通結節機能の不足、あるいは施策・事業の効果に関する住民理解の不足などが要因となっている可能性があります。また、高齢化社会の進行によって、地方都市・地域において、自動車に依存できない高齢者が今後急激に増加するため、鉄道、バスなどの公共交通の利便性確保が重要であり、今後もこうした目標に対する取り組みが重要です。

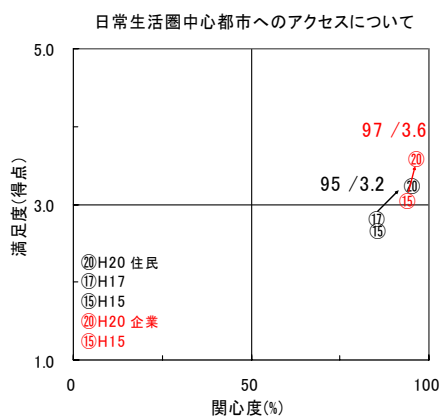
・ 目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（日常生活中心地への行きやすさ）

設問文(問 10-3)：あなたが住む地域では、日常生活に欠かせない商店や病院・職場などがある、まちまで行きやすいと思いますか

※平成 15・17 年度の設問文：あなたの住む地域から、日々の生活の中心的な都市まで渋滞することなく快適に行くことができますか



◆満足度：中～高

得点は、住民・企業共に増加しています。

◆関心度：高

住民・企業共に高い関心を示し、平成 20 年度では 9 割以上となりました。

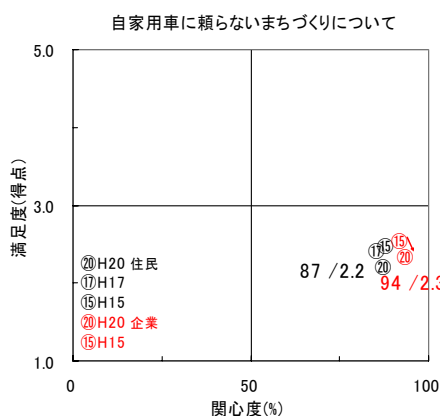
◆その他：

都市規模別では、大都市から地方部へと都市規模が小さくなるにつれ、満足度が低くなっています。

(公共交通機関の使いやすさ)

設問文(問 29)：あなたが住む地域は、鉄道やバス・自転車などの交通手段を用いて暮らせると思いますか

※平成 15・17 年度の設問文：あなたの住む地域は、自家用車に頼らなくても、バス、自転車などの他の交通手段を用いて暮らせると思いますか



◆満足度：中～低

得点は、住民企業共に変化はありません。

◆関心度：高

住民・企業共に 9 割前後の高い関心を示しています。

◆その他：

都市規模別では名古屋市で満足が高く、都市規模が小さくなるにつれて「そう思わない」が増加しています。

象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる

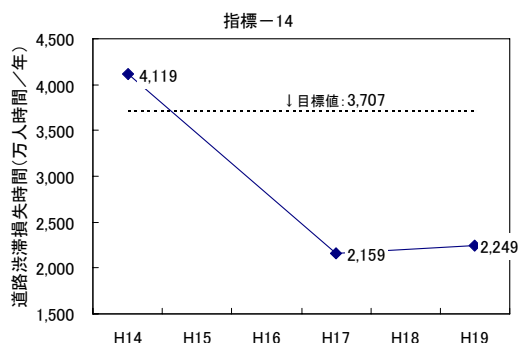
象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる

象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある

象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

アウトカム指標の状況

【道路渋滞による損失時間；4,119万人時間/年(モニタリング区間)(H14)→約1割削減(H19)】



◆状況：○ 目標を達成

東海環状自動車道等の整備もあって平成17年度には目標値を達成しました。

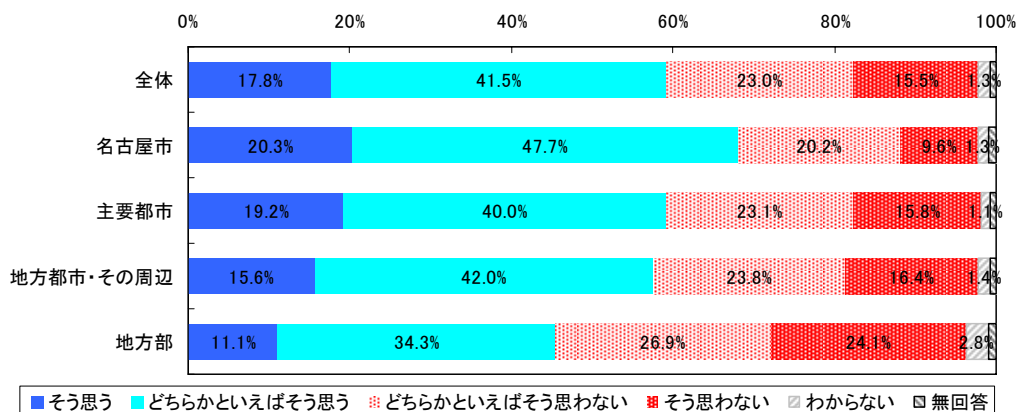
◆その他：住民意識調査(平成20年度)

問10-3 日常生活に欠かせない商店や病院・職場などがある、まちまでの行きやすさについて

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたが住む地域では、そのようなまちまで行きやすいと思いますか

【住民・都市規模別】

問10-3 あなたが住む地域は、中心市街地まで行きやすいと思いますか

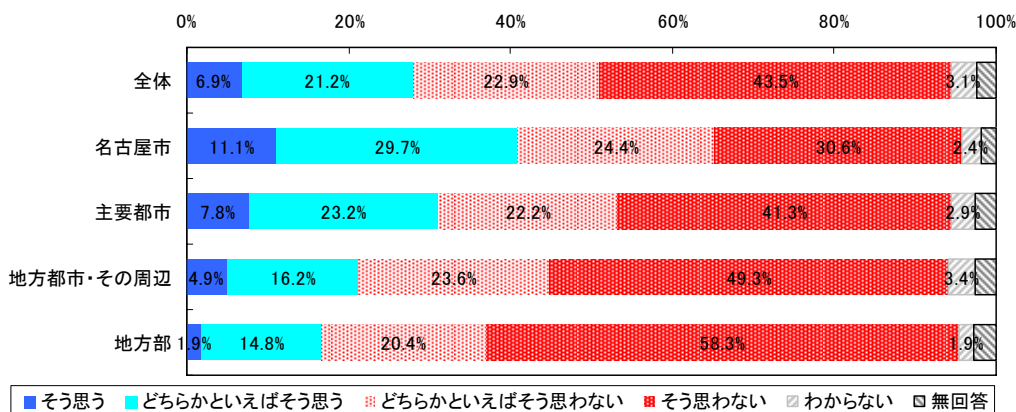


問29 自家用車に頼らなくても、鉄道やバス・自転車などの交通手段を用いて暮らせるまちづくりについて

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたが住む地域は、こうした交通手段を用いて暮らせると思いますか

【住民・都市規模別】

問29 あなたが住む地域は、鉄道やバス・自転車などの交通手段を用いて暮らせると思いますか



目標Ⅱ－８：自家用車に過度に依存しない、歩いて暮らせる、自転車も走りやすいまちを形成します

- ・ 歩道のバリアフリー化を推進や ITS の活用など、高齢世代や子育て世代が安心して快適に移動できるようにします。
- ・ 自転車道や自転車駐車場の整備を進め、自転車で移動しやすい環境および歩行者の交通安全を確保します。
- ・ コミュニティバスなど地域に密着した公共交通機関の導入やトランジットモールの整備などのTDMの推進による自動車交通量の低減を図ります。

◆総評

・ 目標の達成状況：要検討

中部地方の多くの地方都市で、車社会の進展や少子高齢化による通勤・通学等の利用者の減少が鉄道・路線バス事業の経営悪化によるサービス水準の低下を招いていると考えられ、また、鉄道・バス等の公共交通機関の利便性について地域差があることが住民の意識調査からもうかがえます。コミュニティバスの導入は進んでいるものの、住民と企業の関心は高いが満足度は中間値より低いレベルで一定しています。更に、歩行者や自転車、自動車の安全安心な移動についての住民意識に変化が無く全体的に低くなっています。

以上から目標の達成状況を判定しにくい状況にあり、評価に検討を要するものと考えます。

・ 総合的評価

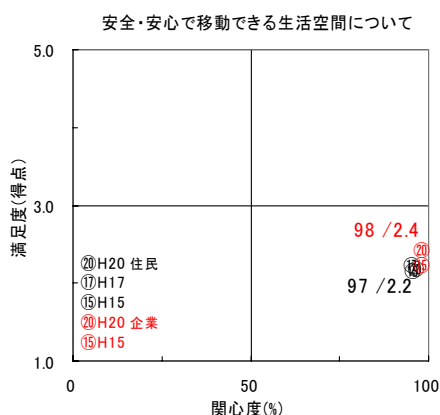
高齢化社会の進行によって、自動車に依存できない高齢者が今後急激に増加するため、鉄道、バスなどの公共交通の利便性確保とともに歩行者や自転車が安全に移動しやすい環境の整備が重要であり、地域特性（都市と地方）に留意した公共交通の利便性確保等について成果指標の検討も含め、今後もこうした目標に対する取り組みが重要です。

・ 目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（歩行者や自動車の安全安心な移動）

設問文（問5）：あなたが住む地域では、歩行者も自動車も安全で安心して移動できると思いますか



◆満足度：低

得点は、住民企業共に変化はありません。

◆関心度：高

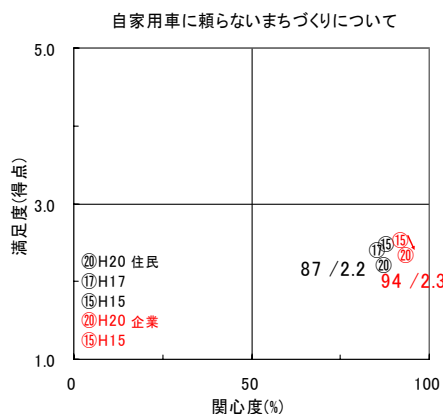
住民・企業共に9割以上の高い関心を示しています。

◆その他：

（公共交通機関の使いやすさ）

設問文（問29）：あなたが住む地域は、鉄道やバス・自転車などの交通手段を用いて暮らせると思いますか

※平成15・17年度の設問文：あなたの住む地域は、自家用車に頼らなくても、バス、自転車などの他の交通手段を用いて暮らせると思いますか



◆満足度：中～低

得点は、住民企業共に変化はありません。

◆関心度：高

住民・企業共に9割前後の高い関心を示しています。

◆その他：

都市規模別では名古屋市で満足が高く、都市規模が小さくなるにつれて「そう思わない」が増加しています。

地域グループ別では、「伊勢～紀伊半島中南部」や「飛騨～長野～北陸沿岸」で満足度が低い。

象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる
 象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる
 象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある
 象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

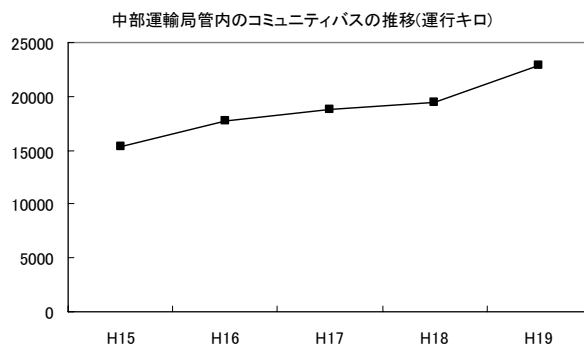
※この設問は平成20年度調査では統廃合され、近似した設問で実施された。

アウトカム指標の状況

本目標に対してアウトカム指標は設定されていないため、評価できません。

しかし、同時期の中部運輸局管内のコミュニティバスの運行キロは年々、延伸しており、地域に密着した公共交通機関の導入が着実に進んでいることが伺えます。

【参考：中部運輸局管内のコミュニティバス導入の推移】



出典：数字で見る「中部の運輸」

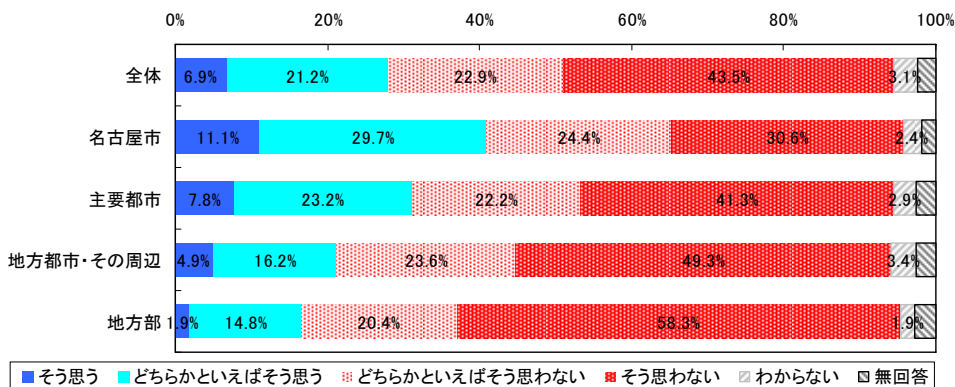
◆その他：住民意識調査(平成 20 年度)

問 29 自家用車に頼らなくても、鉄道やバス・自転車などの交通手段を用いて暮らせるまちづくりについて

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたが住む地域は、こうした交通手段を用いて暮らせると思いますか

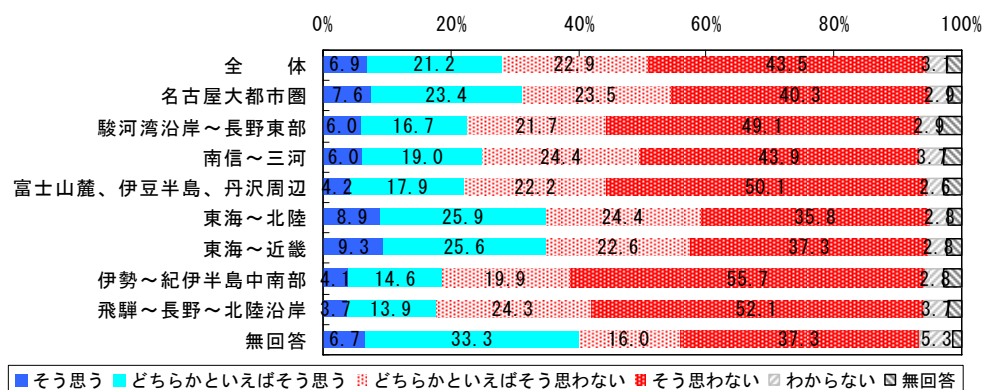
【住民・都市規模別】

問29 あなたが住む地域は、鉄道やバス・自転車などの交通手段を用いて暮らせると思いますか



【住民・地域グループ別】

問29 あなたが住む地域は、鉄道やバス・自転車などの交通手段を用いて暮らせるといいますか

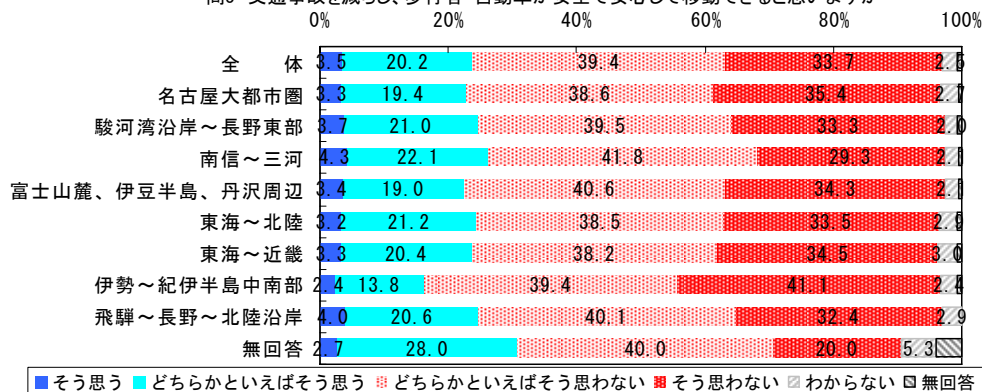


問5 交通事故を減らし、歩行者、自転車や自動車が安全で安心して移動できる道やまちづくりについて

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたが住む地域では、歩行者も自動車も安全で安心して移動できると思いますか

【住民・地域グループ別】

問5 交通事故を減らし、歩行者・自動車が安全で安心して移動できると思いますか



◆方向Ⅲ：東海環状都市圏・環伊勢湾広域交流圏などの形成による新たな交流の拡大

方向Ⅲの達成状況

東海環状自動車道をはじめとする道路網の整備もあって、東海環状都市間のアクセス時間短縮のアウトカム指標が目標達成しており、住民満足度も増加しました。

また新たな企業立地や観光客の増加など他地域との交流が活発となっていることから「東海環状都市圏・環伊勢湾広域交流圏などの形成による新たな交流が拡大した」といえます。

東海環状都市圏の中で岐阜県西濃地域から三重県北勢地域では、IT企業や自動車関連産業の集積がみられますが、南北軸が脆弱であることから、東海環状自動車道(西回り)の整備による南北軸の強化の期待が高い。さらに東海北陸自動車道が全線開通した今日、東海環状都市圏の環状道路が完成すれば、放射状道路とリング状に結ばれることで、より一層の関東・北陸・近畿などの他地域との交流連携が期待できることから、今後も新たな交流の拡大に向けて更なる取り組みが重要です。

○主要プロジェクト

プロジェクト7 東海環状ものづくり回廊プロジェクト

○各目標の達成度（アウトカム指標と意識調査の評価）

40の具体的な目標	目標の達成度	評価		目標の継続性
		アウトカム指標(総合)	意識調査の評価	
Ⅲ-1 環伊勢湾及び東海環状都市間のアクセス時間を短縮します	a	◎	④・③→①	継続
Ⅲ-2 環伊勢湾及び東海環状都市間の経済・社会活動の交流拡大を図ります	要検討	—	③・④	継続

※1 a:前進、b:概ね前進、c:前進とは言い難い

※2 意識調査の評価で④→①とはH15とH20との意識評価の変化を示している。また()は、設問内容が前回(H15)と一部異なるもの。

象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる

象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる

象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある

象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

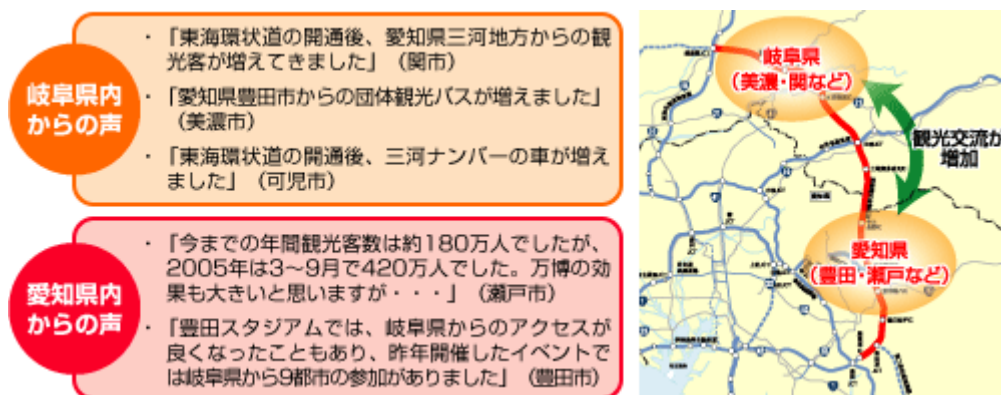
○アウトカム指標の達成度

目標	指標名と目標値	初期値	実績値	目標値	達成度
Ⅲ-1	東海環状自動車道沿線の隣接する主要都市間の時間短縮【約70分(H14)→約30分短縮(H19)】	70	40	40	達成
Ⅲ-2	(指標設定なし)	—	—	—	—

【参考：5年間の中部の動き】

・東海環状自動車道(東回り)の整備効果

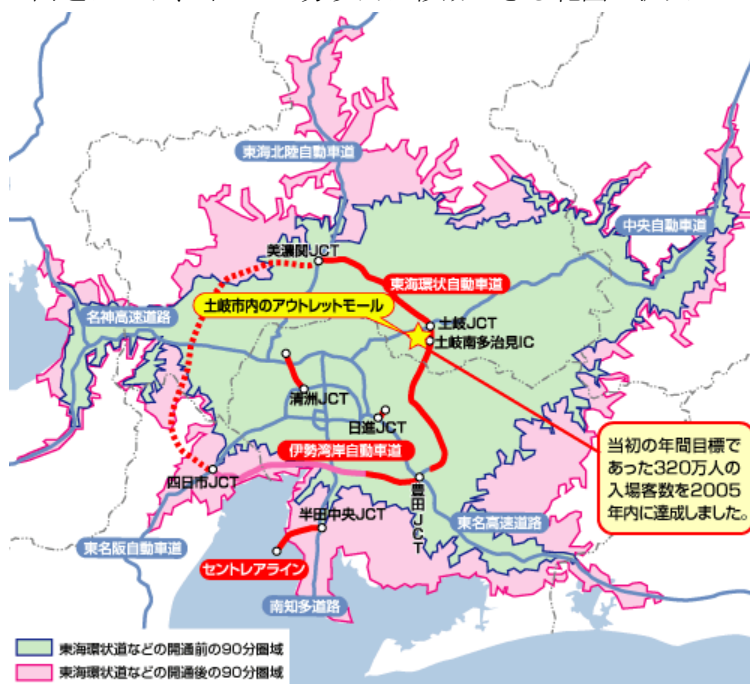
ヒアリング結果から交流拡大の傾向がうかがえます。



(出典：国土交通省中部地方整備局 HP より)

・土岐市内のアウトレットモールから 90 分圏域の変化

東海環状道などの開通により、車で 90 分以内に移動できる範囲が拡大しました。



(出典：国土交通省中部地方整備局 HP より)

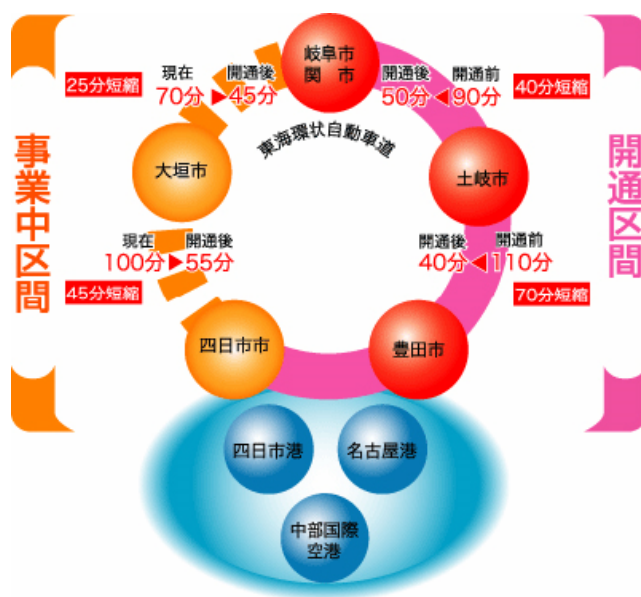
・東海環状自動車道(西回り)の産業集積と効果

西回り区間は、日本を代表するIT産業や自動車関連産業が立地する岐阜県、三重県を結ぶ初の高規格幹線道路です。環状道路の新たな連携が可能となる環状道路の完成で企業活動がより活発化するなど、大きな効果が期待できます。また、既存の高速道路の通行止めや災害時の代替路(リダンダンシー路)としても機能を発揮します。



出典：国土交通省中部地方整備局 HP

西回りの開通で、諸都市の移動時間が半分に。通勤通学をはじめ、工業製品や農産物の輸送エリアが大きく広がります。



出典：国土交通省中部地方整備局 HP

目標Ⅲ－１：環伊勢湾及び東海環状都市間のアクセス時間を短縮します

名古屋都市圏の外周部をリング状につなぐ環状道路や環状鉄道の整備・充実、高速化などを通して交通ネットワークの強化を図り、環伊勢湾および東海環状都市間のアクセス時間を様々なモードで短縮していきます。

◆**総評**

・**目標の達成状況：前進**

東海環状自動車道(東回り)の整備効果により、アウトカム指標を達成しました。また、住民・企業共に都市から都市への行きやすさの満足度が増加しました。以上から、目標に向かって前進したといえます。

・**総合的評価**

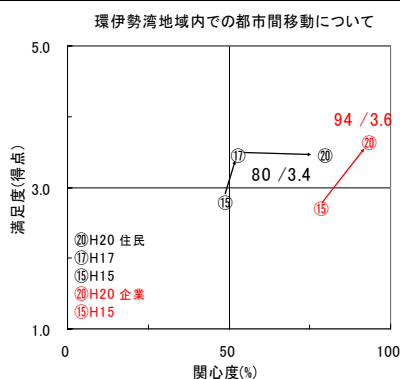
東海環状自動車道の整備によって、沿線都市の産業・商業地需要が喚起され、地域経済の活性化に寄与していることが伺えるため、引き続き、東海環状自動車道(西回り)の整備によるアクセス時間の短縮など、今後もこうした目標に対する取り組みが重要です。

・**目標の継続性：継続**

◆**指標の達成状況**

意識調査（都市から都市への行きやすさ）

設問文(問 10-2)：中部地方の主要な都市から都市までは、道路や鉄道などを使って行きやすいと思いますか
 ※平成 15・17 年度の設問文：環伊勢湾地域内(名古屋・豊田・岐阜・四日市など)での都市と都市との間の移動はしやすいと思いますか



◆**満足度：中～高**

得点は住民・企業共に増加しています。

◆**関心度：中**

住民は平成 17 年度から 20 年度にかけて増加しています。

◆**その他：**

企業の業種別では、特に運輸業の満足度が高い。都市規模別では名古屋市で満足が高く、都市規模が小さくなるにつれて「そう思わない」が増加しています。

象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる

象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる

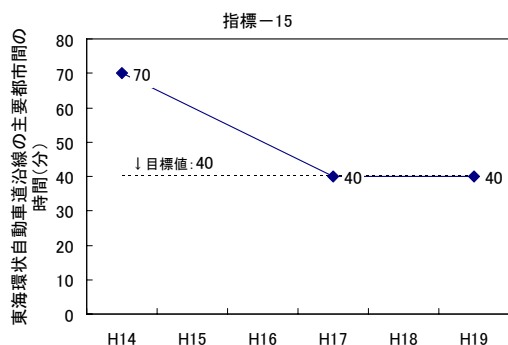
象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある

象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

※ この設問は平成 20 年度調査では統廃合され、近似した設問で実施された。

アウトカム指標の状況

【東海環状自動車道沿線の隣接する主要都市間の時間短縮；約 70 分(H14)→約 30 分短縮(H19)】



◆状況：○ 目標を達成

平成 17 年度に目標値を達成しました。

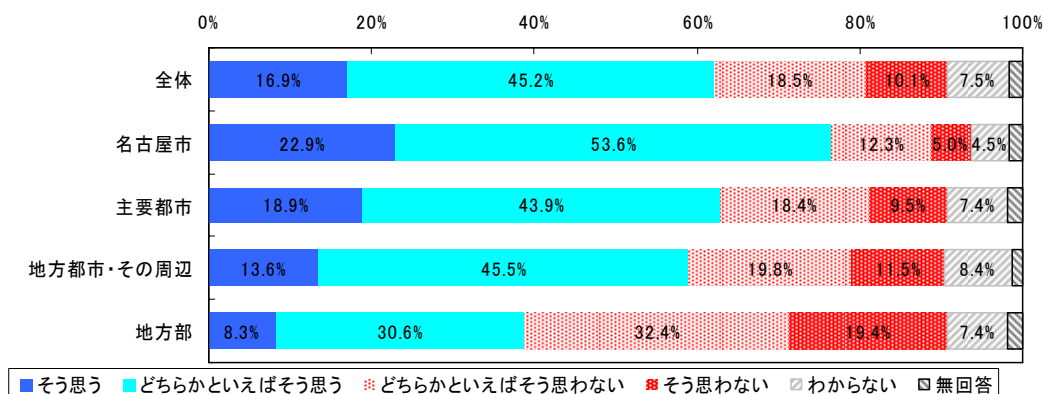
◆その他：住民・企業意識調査(平成 20 年度)

問 10-2 中部地方の主な都市から都市までの行きやすさについて

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) 中部地方の主要な都市から都市までは、道路や鉄道などを使って行きやすいと思いますか

【住民・都市規模別】

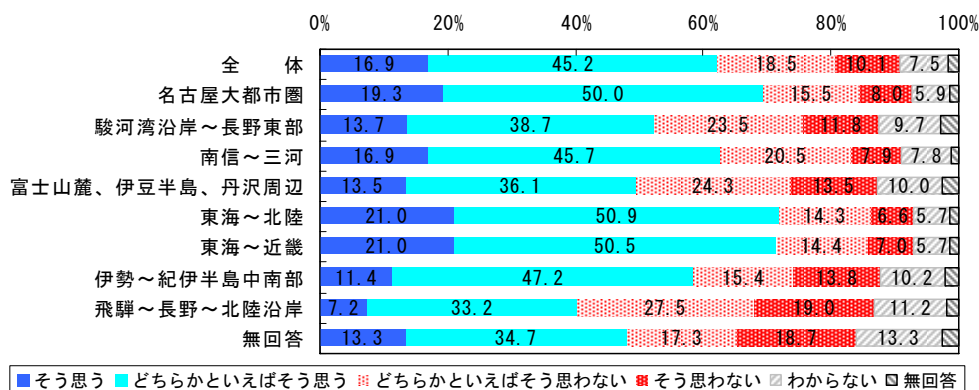
問10-2 中部地方の主要な都市から都市までは、道路・鉄道等を使って行きやすいと思いますか



【住民・地域グループ別】

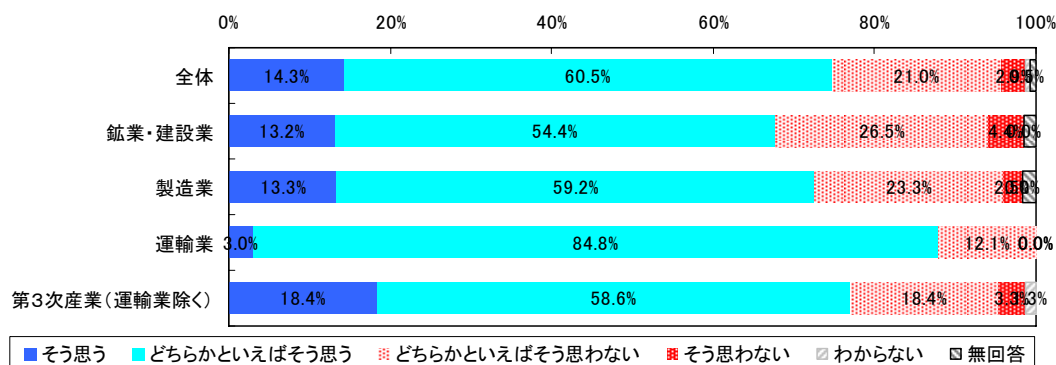
地域グループ別は、「名古屋大都市圏」「東海～北陸」「東海～近畿」の満足度が高く、「駿河湾沿岸～長野東部」「富士山麓、伊豆半島、丹沢周辺」「伊勢～紀伊半島中南部」「飛騨～長野～北陸沿岸」で満足度が低い。

問10-2 中部地方の主要な都市から都市までは、道路・鉄道等を使って行きやすいと思いますか



【企業・業種別】

問10-2 中部地方の主要な都市から都市までは、道路・鉄道等を使って行きやすいと思いますか



目標Ⅲ－２：環伊勢湾及び東海環状都市間の経済・社会活動の交流拡大を図ります

- ・ 各拠点都市間の経済活動、文化活動、観光など、多様な分野における交流活動の活性化を図る仕組みづくりを図ります。
- ・ 交流拠点を整備し、交流人口の拡大などの地域の活性化を推進します。

◆総評

・ 目標の達成状況：要検討

アウトカム指標での評価はできませんが、住民満足度では、名古屋市をはじめ主要都市や地方都市、その他周辺地域の6割の方が、主要な都市から都市までの道路や鉄道を使って行きやすいと思われており、地域間の交流を拡大できる状況であると考えます。

・ 総合的評価

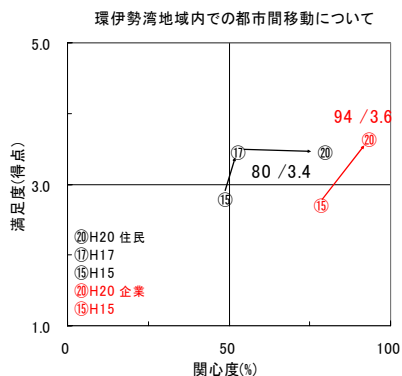
東海環状自動車道の整備によって沿線都市の産業・商業地需要が喚起され、地域経済の活性化に寄与していることから、今後もこうした目標に対する取り組みが重要です。

・ 目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（都市から都市への行きやすさ）

設問文（問 10-2）：中部地方の主要な都市から都市までは、道路や鉄道などを使って行きやすいと思いますか
 ※平成 15・17 年度の設問文：環伊勢湾地域内（名古屋・豊田・岐阜・四日市など）での都市と都市との間の移動はしやすいと思いますか



◆満足度：中～高

得点は住民・企業共に増加しています。

◆関心度：中

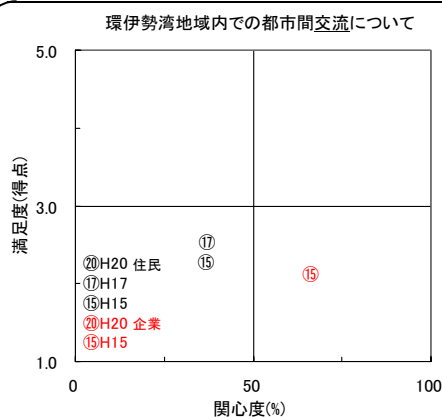
住民は平成 17 年度から 20 年度にかけて増加しています。

◆その他：

（都市から都市への行きやすさ）

（平成 20 年は上記の設問に代替したため、実施していない）

※平成 15・17 年度の設問文：環伊勢湾地域内（名古屋・豊田・岐阜・四日市など）での都市と都市との間の経済や文化の交流について、あなたは関心をお持ちですか？



◆満足度：低

2.1～2.5 と中間値(3 点)をやや下回る値で一定しています。

◆関心度：低～中

住民は 37% で一定であり、企業も他の指標と比べて高くない。

◆その他：

「わからない」が全体で半数近くありました。

このため、値は参考程度とするなど取り扱いには注意を要します。この設問は見直しの結果、平成 20 年度調査では実施されていません。

象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる

象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる

象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある

象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

アウトカム指標の状況

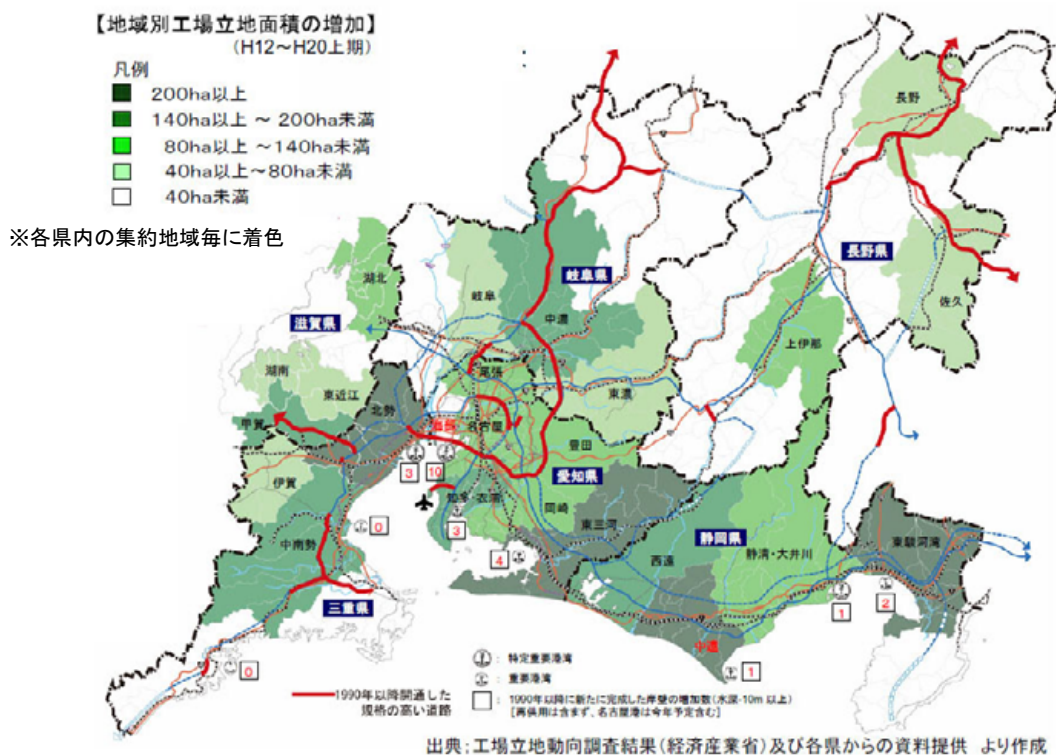
本目標に対してアウトカム指標が設定されていません。

しかし東海環状自動車道(東回り)周辺地域と環伊勢湾地域に工場進出が多く、また観光入込客も増加していることから、交流が活発化していることがうかがえます。

【参考】

・各県地域別にみた工場立地面積の状況(平成12年～平成20年上半期)

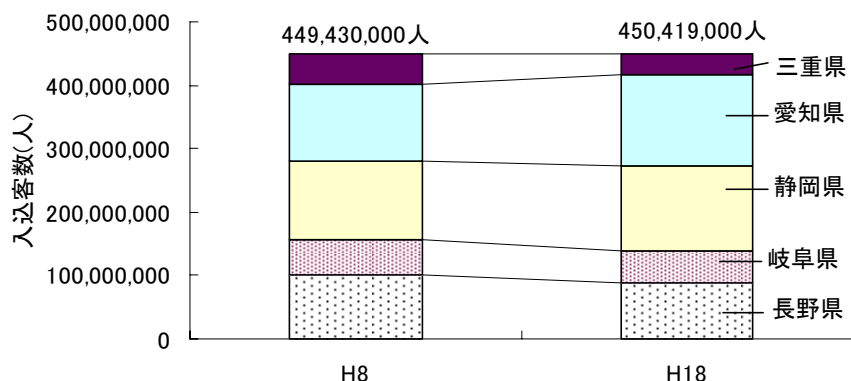
新名神高速道路、伊勢湾岸自動車道、東海環状自動車道、東海北陸自動車道などのインフラ整備に伴い、沿線で工場立地の促進が見られます。



出典：国土交通省 中部地方整備局資料

・中部5県別観光客数

平成8年と平成18年の中部5県の観光入込客数をみると、愛知県・静岡県の伸びが目立ちます。



※長野・静岡・愛知県は延べ数。岐阜・三重県はH8が実数、H18は「全国観光統計基準」に基づいた値
出典：「平成18年度 全国観光動向」(社)日本観光協会、H20.11発行

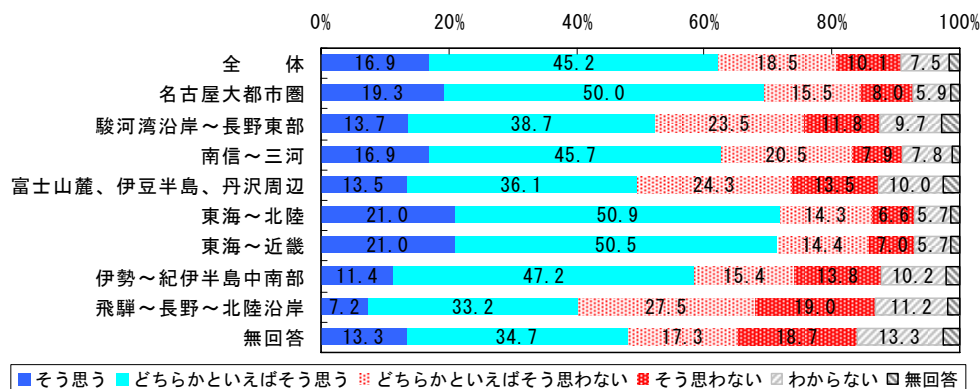
◆その他：住民意識調査(平成20年度)

問10-2 中部地方の主な都市から都市までの行きやすさについて

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) 中部地方の主要な都市から都市までは、道路や鉄道などを使って行きやすいと思いますか

【住民・地域グループ別】

問10-2 中部地方の主要な都市から都市までは、道路・鉄道等を使って行きやすいと思いますか



◆方向Ⅳ：日本のまんなかである優位性を活かし、国土の東西・南北軸の強化や交流拠点整備による国内外交流の拡大

方向Ⅳの達成状況

東海北陸自動車道、第二東名・名神高速道路の一部開通や中部国際空港の開港といった国内外交流の拡大に寄与する社会インフラが整備されました。また 2005 年愛・地球博は予想を上回る約 2,205 万人が来場し盛大に開催され、その他、歴史的な風情のある旧街道沿いのまちなみの再生も進められました。最寄りのインターチェンジへ 30 分到達率(人口)などのアウトカム指標も目標達成し、他地域への移動性に関する住民満足度も増加しました。以上から、「日本のまんなかである優位性を活かし、国土の東西・南北軸の強化や交流拠点整備による国内外交流が拡大した」といえます。

そうした中、大雪や新潟県中越沖地震による被災により、中部地方のみならず全国各地のものづくり産業活動が停滞を余儀なくされました。住民意識はその時代や社会的背景の影響を受けやすいものの、住民と企業ともに災害時でも寸断されることのない交通網が確保されていると思う人は全体の 2 割弱にとどまるなど、ユーザーの交通網に関する信頼性は低くなっています。また中山間地域や半島地域では経済・社会活動の基盤となる広域交通網の整備が重要であることから、より一層のリダンダンシーを含めた広域交通網整備が重要となる。さらに世界のゲートウェイである中部国際空港の利用が近年、伸び悩んでいることから、地元関係者の努力による需要の拡大を図りつつ、地域と連携して空港機能の拡充に向けた取り組みが重要です。

○主要プロジェクト

プロジェクト 8 東海道・南北大交流プロジェクト

プロジェクト 9 「愛・地球博」まち・ウエルカムプロジェクト

○各目標の達成度（アウトカム指標と意識調査の評価）

40の具体的な目標	目標の達成度	評価		目標の継続性
		アウトカム指標(総合)	意識調査の評価	
IV-1 日本の東西大動脈の信頼性を向上します	要検討	—	(①→)④	継続
IV-2 南北軸のスムーズな交通環境を整備し、信頼性・快適性を確保します	要検討	—	(④→)①	継続
IV-3 東西・南北軸と国内外交流拠点を活用した、東京・大阪圏や環日本海等の国内外と中部の経済・社会活動の交流拡大を図ります	a	◎	④→①	継続
IV-4 旧東海道・旧中山道等のまちなみ整備により、街道沿いのまちなみを再生します	要検討	—	④	継続
IV-5 「愛・地球博」来場者のスムーズな移動を実現します	要検討	—	④→①	—
IV-6 中部国際空港の開港と「愛・地球博」を契機とした観光客の定着及び国内外交流の拡大を図ります	a	◎	①	継続

※1 a:前進、b:概ね前進、c:前進とは言い難い

※2 意識調査の評価で④→①とは H15 と H20 との意識評価の変化を示している。また()は、設問内容が前回(H15)と一部異なるもの。

象限①・・・関心度、満足度ともに高い ; 今後も現状維持が望まれる

象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い ; 今後も現状維持が望まれる

象限③・・・関心度、満足度がともに低い ; 施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある

象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い ; ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

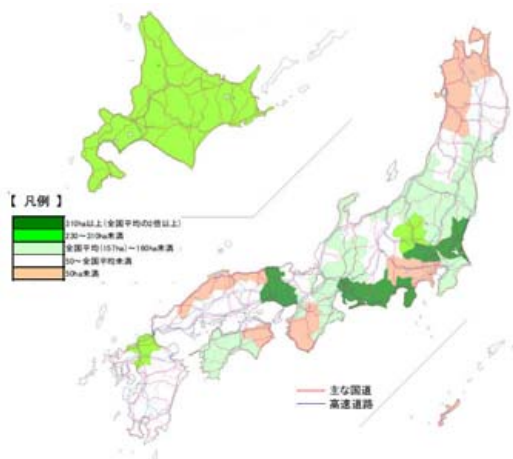
○アウトカム指標の達成度

目標	指標名と目標値	初期値	実績値	目標値	達成度
IV-1	(指標設定なし)	—	—	—	—
IV-2	(指標設定なし)	—	—	—	—
IV-3	高規格幹線道路・地域高規格道路のIC30分到達率(人口) 【91%(H14)→93%(H19)】	91	93	93	達成
IV-4	(指標設定なし)	—	—	—	—
IV-5	(指標設定なし)	—	—	—	—
IV-6	「愛・地球博」目標入場者数 【1,500万人】	—	2,205	1,500	達成

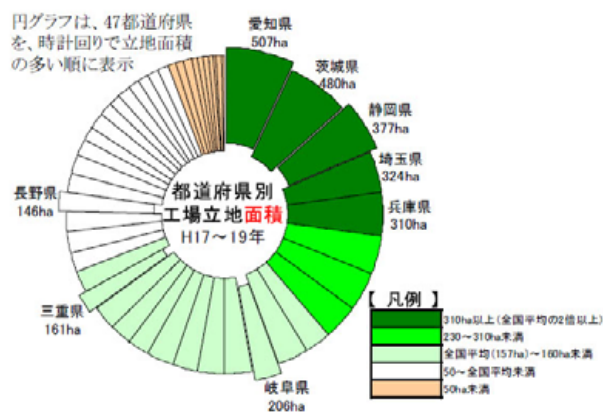
【参考：5年間の中部の動き】

・工場立地面積

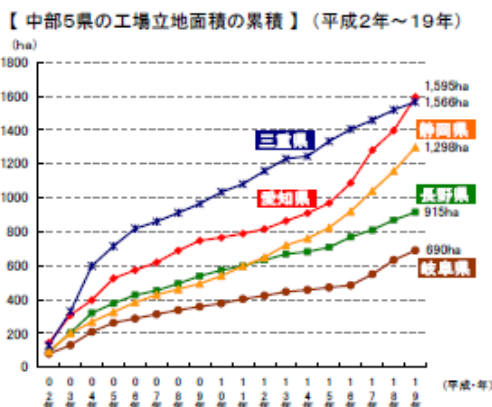
平成 17～19 年に立地した工場の敷地面積では、愛知県が 507ha と全国トップで、静岡県が 377ha で 3 位。中部地方の平成 2 年以降の工場立地面積の累積推移は、静岡は平成 11 年以降、愛知は平成 14 年以降、岐阜は平成 16 年以降から、立地件数が伸びています。



工場立地面積の都道府県別図



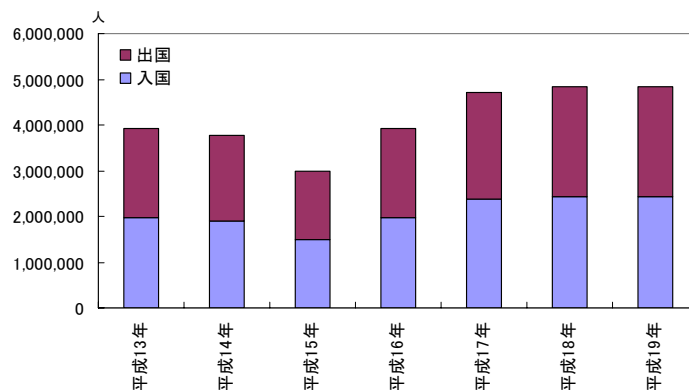
都道府県別の工場立地面積



データ：「工場立地動向調査（経済産業省・日本立地センター）」
出典：国土交通省 中部地方整備局資料

・中部国際空港の出入国者数

平成 15 年を底にして、平成 17 年にかけて増加しています。



※平成 16 年以前は名古屋空港のもの。平成 17、18 年は中部国際空港と名古屋空港の合算値
データ：「出入国管理統計（法務省入国管理局）」

・新潟県中越沖地震に伴う操業停止を報じる記事

地震によって工場の操業停止は新潟県内に限らず中部地方に及び、また地震による道路の寸断は部品等の流通にも大きな影響を及ぼしました。

系列メーカーにも波及

新潟県中越沖地震に伴う十九日のトヨタ自動車全工場操業停止が、部品メーカーにも影響している。トヨタグループの部品メーカーは、操業停止した工場は二十八に達した。一部のメーカーでは、危機管理の一環として、工場が集中する愛知県三河地方で大規模地震が起きた場合のシミュレーションに着手した。

トヨタ紡織は十九日夕方二十一日まで十四工場の操業を停止。二十一日も取りやめた。アイシン精機は生産機器などの三工場を除き、西尾など八工場を止め、トヨタ車体は全三工場を、豊田自動織機も重組み立ての長草工場を停止した。

車体メーカーの関東自動車工業も東草土(静岡県裾野市)と草土(自手県袋井市)の両工場を停止した。デンソーは十九日夕方、三十四割の減産に臨み切った。輸出向けの製品なども多く、完全に工場を止めることはしない。愛知製鋼も自動車向けの鍛造場でも減産するが、工場の稼働は続ける。

また豊田合成は十九日夕方から、従業員六割を休みとし、一部ラインの停止に努めた。ある事業者を重く見て、あるトヨタ系の部品メーカーは、三河地方で大規模地震が起きたらどうなるか、社内でシミュレーションを始めた。

中越沖地震で稼働停止に陥ったリケンのように、自社の本拠地が大きな打撃を受けるケースは「想定外」だったからだ。シミュレーションの結果、この会社の幹部は「地方拠点で稼働しても、三河地方の生産拠点は壊れない。また道路が寸断されれば、部品を運ぶのもままならず、調達はかたまり」と厳しい表

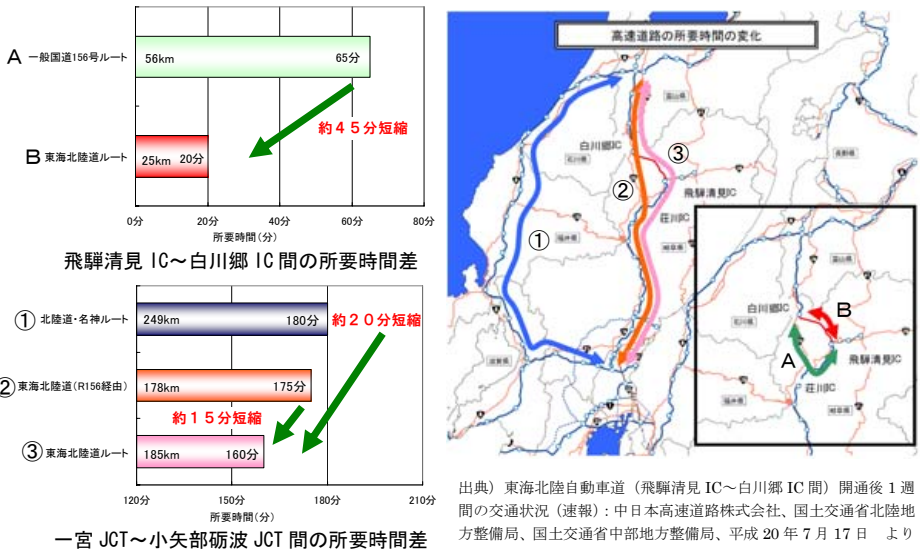
28工場が停止

地震シミュレーション着手も

【中日新聞H19.7.20(9面)】※この記事は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。

・東海北陸自動車道全線開通による時間短縮

東海北陸自動車道の全線開通により、国道156号だけでなく、北陸自動車道と比べても時間短縮が確認されました。



出典) 東海北陸自動車道(飛騨清見 IC～白川郷 IC間)開通後1週間の交通状況(速報): 中日本高速道路株式会社、国土交通省北陸地方整備局、国土交通省中部地方整備局、平成20年7月17日より

※飛騨清見 IC～白川郷 IC 開通前は、平成20年6月22日(日)の上下線実走行による計測値の平均値。
 飛騨清見 IC～白川郷 IC 開通後は、平成20年7月13日(日)の上下線実走行による計測値の平均値。ただし、一宮 JCT～小矢部砺波 JCT 間については、下り線のみ計測値。
 ※東海北陸道ルートでは、美並 IC～郡上八幡 IC 間(7月18日4車線化完成予定区間)上り線の渋滞により、通常時より約30分の遅れが発生。
 ※いずれも、乗用車による測定。
 出典) 中日本高速道路(株)・国土交通省北陸地方整備局・国土交通省中部地方整備局記者発表資料(H20.7.17)

目標Ⅳ－１：日本の東西大動脈の信頼性を向上します

- ・ 東名・名神高速道路、国道１号、JR 東海道新幹線や東海道本線などの機能維持を図り、我が国経済の大動脈としての安全性や円滑性を高めます。
- ・ 交通量の増大への対応と東海・東南海・南海地震をはじめとする災害を想定した代替路を確保し、その信頼性を高めます。

◆総評

・ 目標の達成状況：要検討

アウトカム指標での評価はできないが、第二東名・名神高速道路の一部開通や東海環状自動車道(東回り)などのプロジェクトが実現し、東西軸の強化とリダンダンシーの確保が進み、都市から都市への行きやすさの住民満足度は向上しています。しかし、災害時の交通網確保については、住民・企業ともに高い関心があるにもかかわらず、満足度は低い状況から、今後さらに検討を要します。

・ 総合的評価

東海・東南海・南海地震、台風・集中豪雨等の大規模災害の発生が懸念されていることに変わりはなく、また住民・企業ともに災害に伴う交通網の信頼性について関心が高く、今後こうした目標に対する取り組みが重要です。

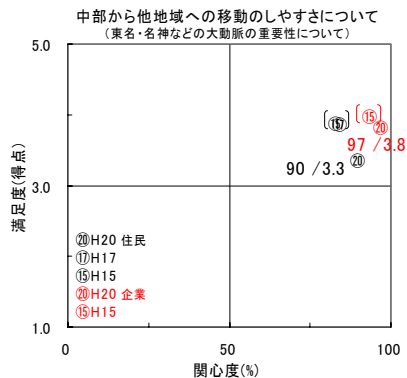
・ 目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（中部から国内各地への行きやすさ）

設問文(問 9): 中部地方から他地域へは、バスや自動車・鉄道・船舶、航空といった交通手段を使って行きやすいと思いますか

※平成 15・17 年度の設問文: 東名・名神高速道路、JR東海道新幹線などは、わが国の大動脈として安全・円滑・快適で信頼性が高いと思いますか



◆満足度：中～高

得点は、住民が 3.3、企業が 3.8 となっています。

◆関心度：高

住民・企業共に 9 割以上の高い関心を示しています。

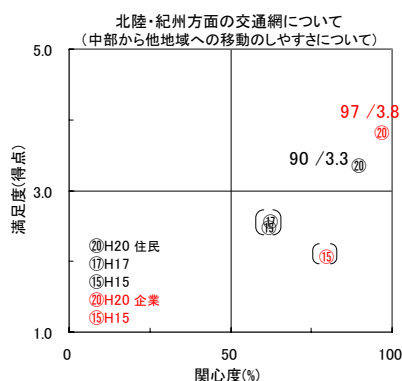
◆その他：

※()書きは H20 の設問と H15, H17 の設問が一部異なる表現をしているため参考値として記載している。

(中部から国内各地への行きやすさ)

設問文(問 9): 中部地方から他地域へは、バスや自動車・鉄道・船舶、航空といった交通手段を使って行きやすいと思いますか

※平成 15・17 年度の設問文: 北陸方面や紀州方面へ向かう交通網(道路や鉄道)について、あなたは関心をお持ちですか？



◆満足度：中～高

得点は、住民が 3.3、企業が 3.8 となっています。

◆関心度：高

住民・企業共に 9 割以上の高い関心を示しています。

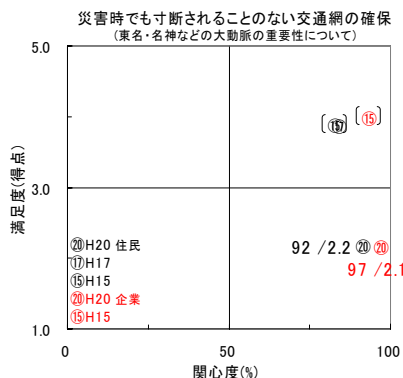
◆その他：

※()書きは H20 の設問と H15, H17 の設問が一部異なる表現をしているため参考値として記載している。

(寸断されない交通の確保)

設問文(問 3): あなたは、災害時でも寸断されることのない交通網が確保されていると思いますか

※平成 15・17 年度の設問文: 東名・名神高速道路、JR東海道新幹線などは、わが国の大動脈として安全・円滑・快適で信頼性が高いと思いますか



◆満足度：低

住民の得点は 2.2 と低い。

◆関心度：高

住民・企業共に 9 割以上の高い関心を示しています。

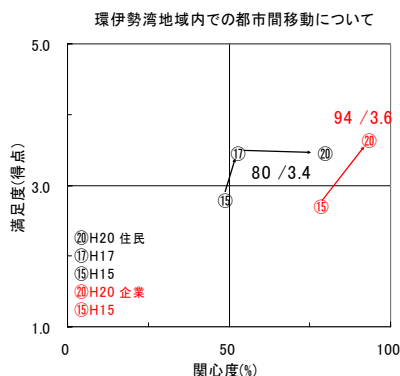
◆その他：

近年の新潟地震などによる交通遮断の現状を目の当たりにしていることから、満足度が低いと推察されます。

※()書きは H20 の設問と H15, H17 の設問が一部異なる表現をしているため参考値として記載している。

(都市から都市への行きやすさ)

設問文(問 10-2)：中部地方の主要な都市から都市までは、道路や鉄道などを使って行きやすいと思いますか
 ※平成 15・17 年度の設問文：環伊勢湾地域内(名古屋・豊田・岐阜・四日市など)での都市と都市との間の移動はしやすいと思いますか



◆満足度：中～高

得点は住民・企業共に増加しています。

◆関心度：中

住民は平成 17 年度から 20 年度にかけて増加しています。

◆その他：

都市規模別では名古屋市で満足が高く、都市規模が小さくなるにつれて「そう思わない」が増加しています。

象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる

象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる

象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある

象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

※この設問は平成 20 年度調査では統廃合され、近似した設問で実施された。経年変化について取扱に注意を要する。

アウトカム指標の状況

本目標に対するアウトカム指標が設定されていません。

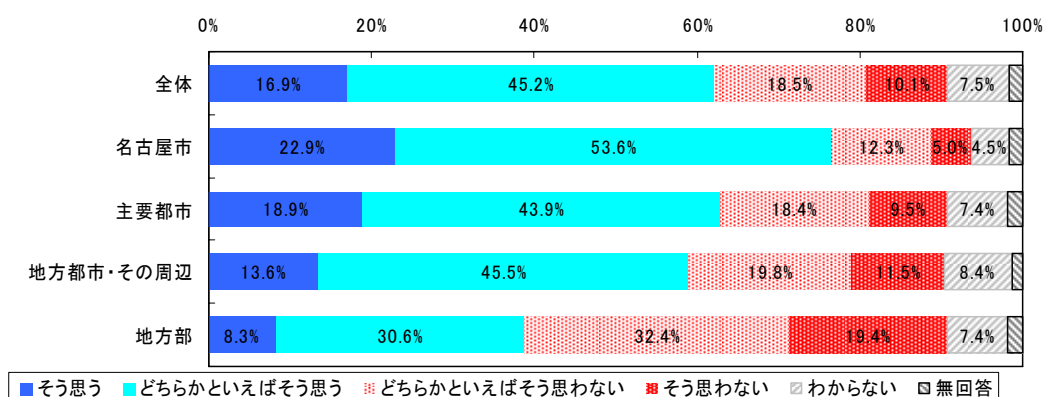
◆その他：住民・企業意識調査(平成 20 年度)

問 10-2 中部地方の主な都市から都市までの行きやすさについて

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) 中部地方の主要な都市から都市までは、道路や鉄道などを使って行きやすいと思いますか

【住民・都市規模別】

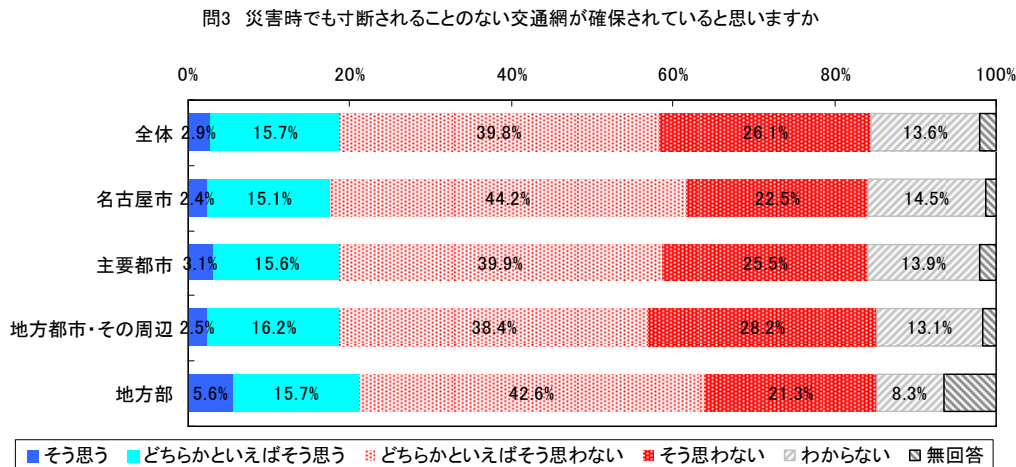
問10-2 中部地方の主要な都市から都市までは、道路・鉄道等を使って行きやすいと思いますか



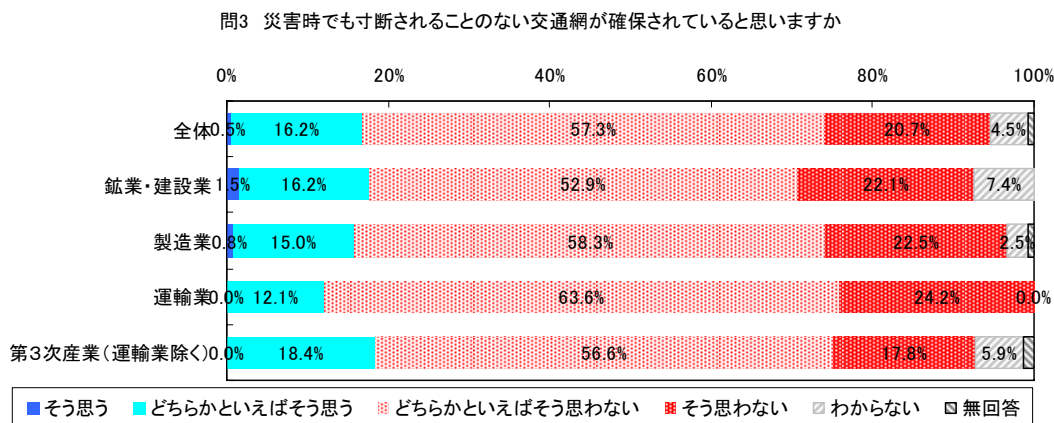
問3 災害時でも寸断されることのない交通網の確保について

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたは、このような交通網が確保されていると思いますか

【住民・都市規模別】



【企業・業種別】



目標Ⅳ－２：南北軸のスムーズな交通環境を整備し、信頼性・快適性を確保します

高速道路網などの整備により、これまで東西方向の交流に比べ少なかった南北方向の交流を増やします。

◆総評

・目標の達成状況：要検討

東海北陸自動車道は平成20年7月に全線開通したこともあり、都市やその周辺の住民の6割が中部地方から他地域への行きやすさを実感しています。しかし、地方部ではそう思う住民が4割と少ない。目標の達成状況を判定しにくい状況にあり、検討を要するものと考えます。

・総合的評価

近畿自動車道紀勢線などは未開通部分も多く、半島地域での産業活動の低下が顕在化し、今後、人口減少や高齢化の進行とともに、都市と地方の格差がより一層顕在化することも予想されます。従って、地域間の連携・交流を一層促進するために、引き続き南北軸の円滑な交通環境の形成に取り組んでいくことが重要です。

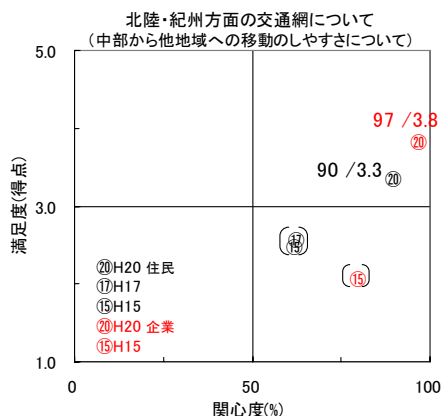
・目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（中部と国内外との活発な交流）

設問文（問7）：あなたは、中部地方と国内外の各地域との交流が活発だと思いますか

※平成15・17年度の設問文：北陸方面や紀州方面へ向かう交通網（道路や鉄道）は便利であると思いますか



◆満足度：中～高

得点は、住民が3.3、企業が3.8となっています。

◆関心度：高

住民・企業共に9割以上の高い関心を示しています。

◆その他：

※()書きはH20の設問とH15、H17の設問が一部異なる表現をしているため参考値として記載している。

象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる

象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる

象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある

象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

アウトカム指標の状況

本目標に対するアウトカム指標が設定されていないため、評価できません。

◆その他：住民意識調査(平成20年度)

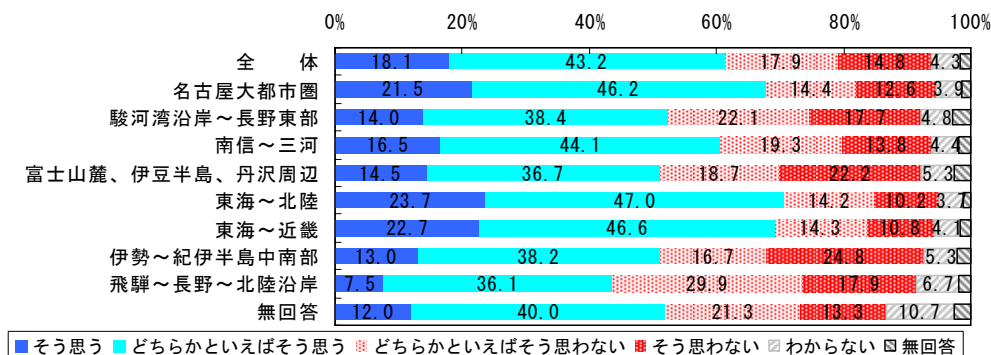
問9 国内の他地域へ行く時に、バスや自動車・鉄道・船舶、航空といった交通手段による移動のしやすさについて

1) あなたは関心がありますか

2) 中部地方から他地域へは、こうした交通手段を使って行きやすいと思いますか

【住民・地域グループ別】

問9 中部地方から他地域へは、バスや自動車・鉄道・船舶、航空等の交通手段を使って行きやすいと思いますか



目標Ⅳ－３：東西・南北軸と国内外交流拠点を活用した、東京・大阪圏や環日本海等の国内外と中部の経済・社会活動の交流拡大を図ります

東西・南北軸の交通環境と連携する道路網や交流拠点の整備及び東西・南北軸上の空港等の整備により、東京・大阪圏や環日本海等の国内外と中部の経済・社会活動の交流拡大を図ります。

◆総評

・目標の達成状況：前進

東海環状自動車道等をはじめとする規格の高い道路が平成 17 年以降、200km 以上開通したこともあり、インターチェンジからの 30 分到達率のアウトカム指標も目標を達成しているとともに、中部と国内外との交流活発化に関する住民・企業の満足度も増加しています。

以上のことから、目標に向かって前進したといえます。

・総合的評価

世界のゲートウェイである中部国際空港の利用が近年、伸び悩んでいることから、地元関係者の努力による需要の拡大と空港機能の拡充が重要となっており、今後も東京・大阪圏や環日本海経済圏、東アジア等との連携強化が重要であることから、国内外と中部の経済・社会活動の交流拡大に取り組んでいくことが重要です。

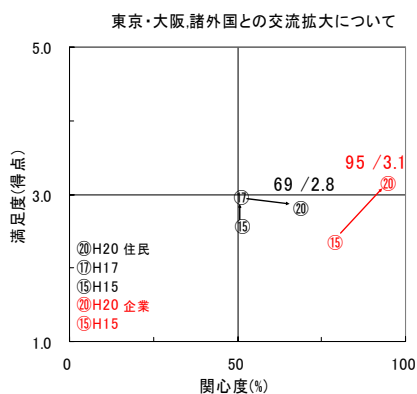
・目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（中部と国内外との活発な交流）

設問文（問 7）：あなたは、中部地方と国内外の各地域との交流が活発だと思いますか

※平成 15・17 年度の設問文：中部地方は、東京・大阪圏や日本海側、アジアをはじめとする諸外国との経済・社会活動の交流拡大が進んでいる地域であると思いますか？



◆満足度：中

企業の得点は 2.3 から 3.1 へと増加しますが、住民の得点に変化はありません。

◆関心度：中

関心度は企業・住民共に向上しています。

◆その他：

象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる

象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる

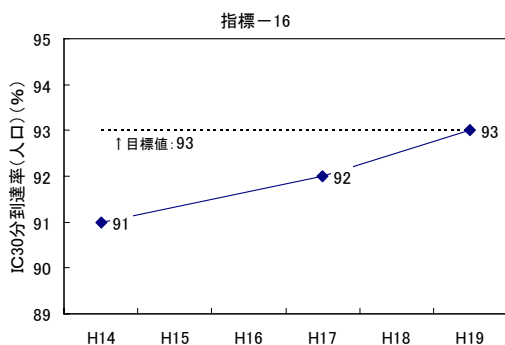
象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある

象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

※ この設問は平成 20 年度調査では統廃合され、近似した設問で実施された。経年変化について取扱に注意を要する。

アウトカム指標の状況

【高規格幹線道路・地域高規格道路のIC30分到達率(人口) ; 91%(H14)→93%(H19)】

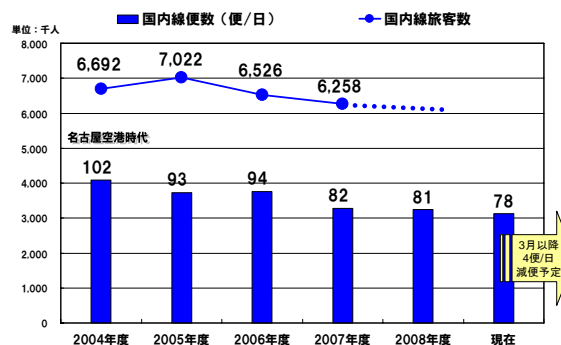
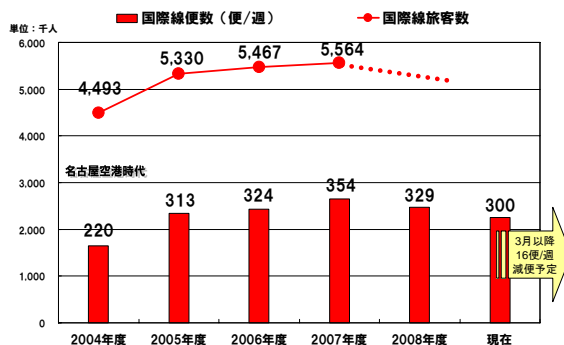


◆状況：○ 目標を達成

順調に数値を伸ばし、目標値を達成しました。

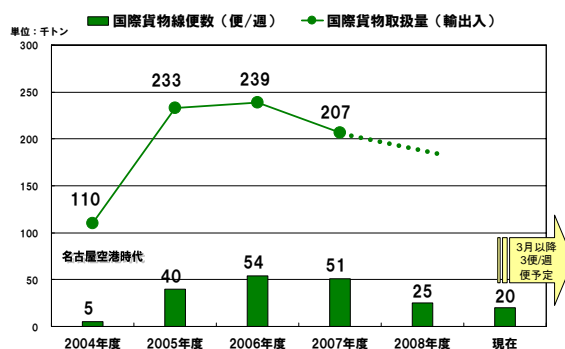
【参考：中部国際空港の旅客・貨物の推移】

国際線旅客数は開港以来順調に推移していましたが、便数は2007年冬ダイヤ以降、減便に転じています。貨物も2006年12月以降、前年割れが続いています。



中部国際空港の国際線 航空旅客数と便数の推移

中部国際空港の国内線 航空旅客数と便数の推移



中部国際空港の国際貨物取扱量と便数の推移

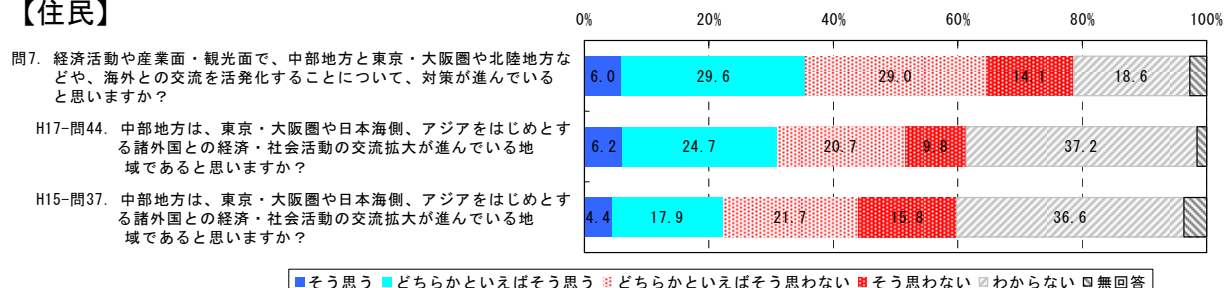
※国際線就航便数は各年度の夏ダイヤスタート時点での便数で比較。現在は09年2月9日時点。
 ※国土交通省調

◆その他：住民・企業意識調査(平成 20 年度)

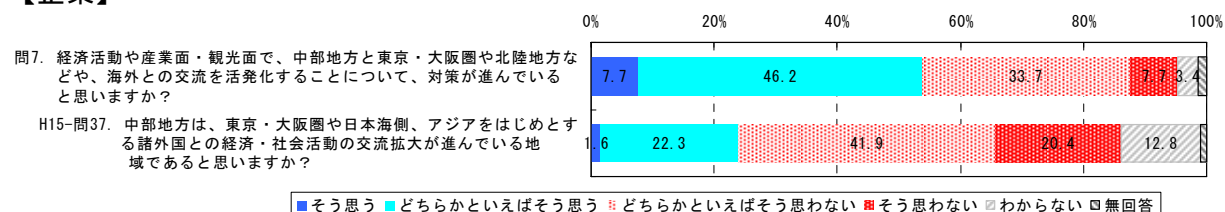
問 7 経済活動や産業面・観光面で、中部地方と東京・大阪圏や北陸地方などや、海外との交流を活発化することについて

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたは、中部地方と国内外の各地域との交流が活発だと思いますか

【住民】

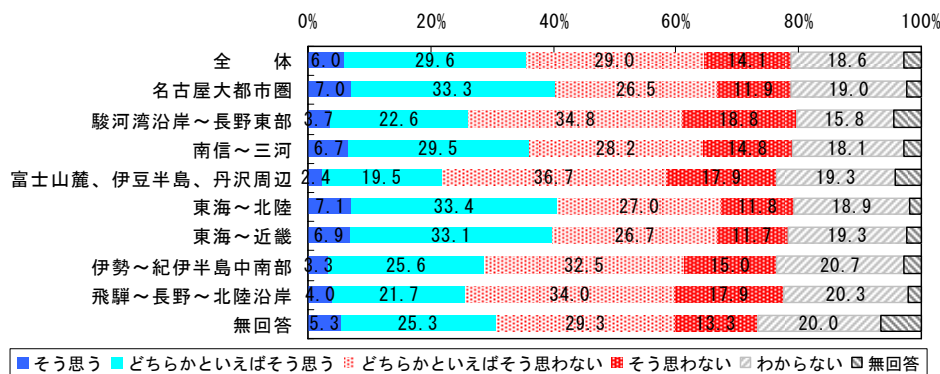


【企業】



【住民・地域グループ別】

問7 経済活動や産業面・観光面で、中部地方と国内外との交流が活発だと思いますか



目標Ⅳ－４：旧東海道・旧中山道等のまちなみ整備により、街道沿いのまちなみを再生します

東海道や中山道等の旧街道沿いのまちなみ整備を図り、街道文化の国内外への情報発信を行い交流の拡大を図ります。

◆総評

・目標の達成状況：要検討

歴史的なまちなみを活かしたまちづくりや日本風景街道の取り組みなどが、各地で実施されました。アウトカム指標で評価することができませんが、地域の自然や文化を活かしたまちづくりがなされていると思う住民は全体の４割弱で、目標の達成状況を判定するに検討を要します。

・総合的評価

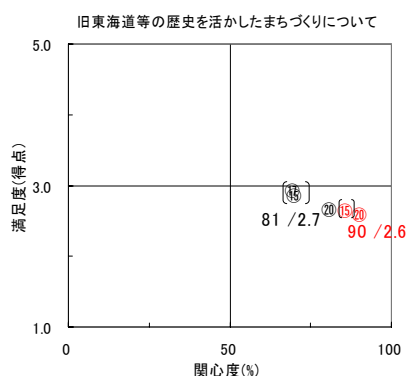
歴史を活かしたまちづくりへの関心は高く、当該目標に係る取り組みは、亀山市関宿の事例など、これまでの実績を適切に評価し、その結果を成功事例として情報発信し、その他の地域においても効果の高いまちなみ整備の推進につなげていくことが重要です。あわせて、取り組みの重要性に対する地元の理解醸成を図りながら、着実に取り組みを推進することが重要です。

・目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（地域固有の資源を活かしたまちづくり）

設問文(問 19): あなたの住む地域では、地域の自然や文化を活かしたまちなみがあると思いますか
 ※平成 15・17 年度の設問文:旧東海道・旧中山道等においては、街道を活かしたまちづくりやまちなみ整備が進んでいると思いますか



◆満足度：中

得点は住民・企業共に中間値を下回っています。

◆関心度：中～高

企業・住民共に 8～9 割と高い関心を示しています。

◆その他：

名古屋市と地方部で、「地域固有の資源を活かしていると思う」が 5 割程度あり、地域グループ別では、特に「飛騨～長野～北陸沿岸」で高い。

※() 書きは H20 の設問と H15, H17 の設問が一部異なる表現をしているため参考値として記載している。

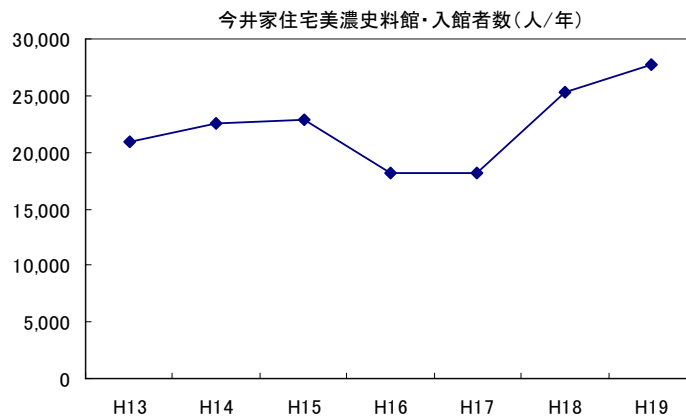
象限①・・・関心度、満足度ともに高い ; 今後も現状維持が望まれる
 象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い ; 今後も現状維持が望まれる
 象限③・・・関心度、満足度がともに低い ; 施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある
 象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い ; ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

アウトカム指標の状況

本目標に対してアウトカム指標が設定されていないため、評価できません。

【参考】

- ・うだつのある街並み(岐阜県美濃市)での観光入込客数の推移



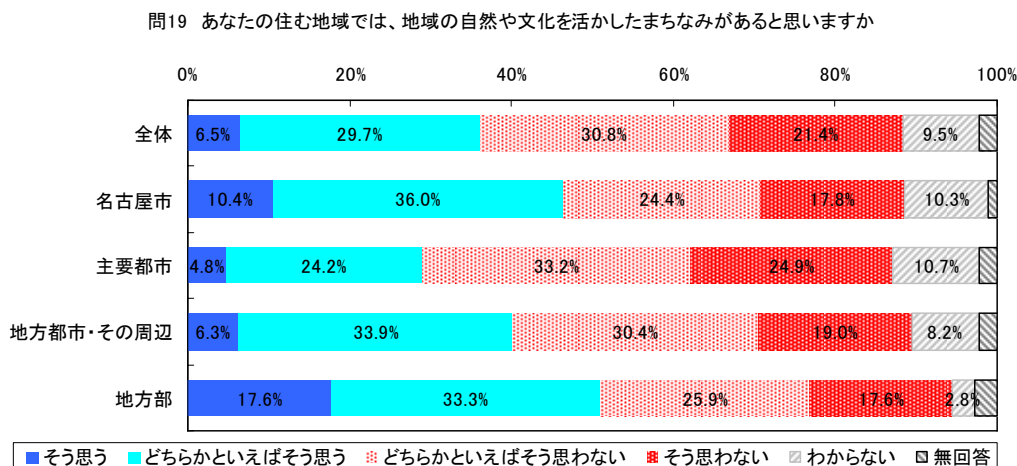
出典：平成 19 年度版 美濃市統計書

◆その他：住民意識調査(平成 20 年度)

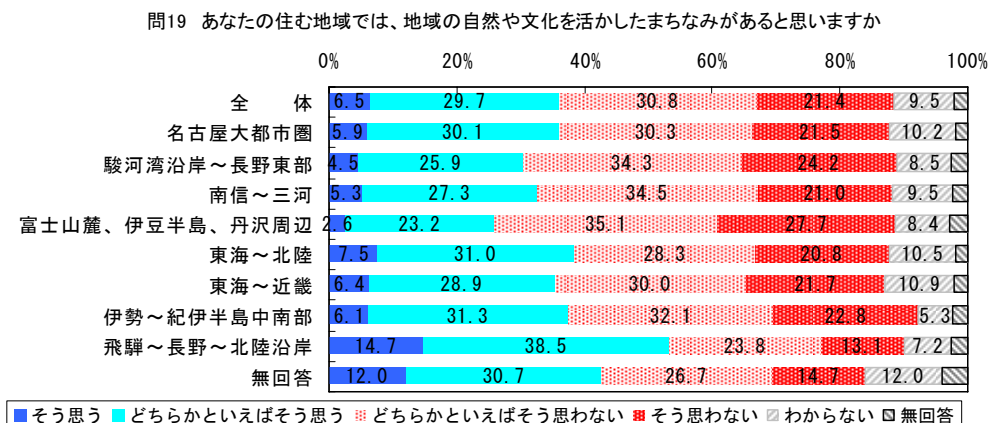
問 19 豊かな自然や地域固有の景観や歴史・文化を活かしたまちづくりについて

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたの住む地域では、そうした地域の自然や文化を活かしたまちなみがあると思いますか

【住民・都市規模別】



【住民・地域グループ別】



目標Ⅳ－５：「愛・地球博」来場者のスムーズな移動を実現します

- ・ 中部国際空港や周辺地域から「愛・地球博」会場までの円滑な移動を確保します。
- ・ 来場者の集中から会場近隣の住環境を保全します。

◆総評

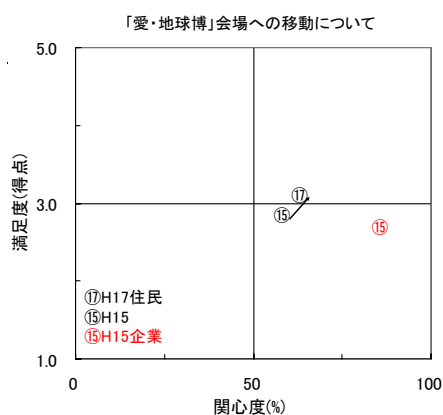
・総合的評価：要検討

アウトカム指標での評価はできませんが、意識調査の結果からは、「愛・地球博」の成功（目標来場者数の達成等）と相まって、愛知県を中心に、静岡県、三重県も含めた広域圏で住民の満足度の高めることができました。目標以上の来場者を支障なく輸送できたことは大きな成果を収めたものと評し得ます。「愛・地球博」時を契機として施策・事業の成果を活かして、今後も他地域への展開等を検討する必要があります。

◆指標の達成状況

意識調査（「愛・地球博」会場への移動について）

設問文：（平成20年は同様の内容の設問は実施していない）



会場には、スムーズに移動できたと思いますか
会場には、スムーズに移動できるようになるとと思いますか

◆満足度：中

中間値となっています。

◆関心度：中～高

◆その他：

- 象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる
- 象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる
- 象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある
- 象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

アウトカム指標の状況

本目標に対するアウトカム指標が設定されていません。

目標Ⅳ－６： 中部国際空港の開港と「愛・地球博」を契機とした観光客の定着及び国内外交流の拡大を図ります

- ・ 「愛・地球博」を契機に、中部地方が有する地域資源を様々な情報メディアを通して国内外に発信するとともに、交流拠点を整備し、交流の拡大を図ります。
- ・ 観光関係者や交通事業者、自治体や住民など様々な関係者が一体となって来訪者に多様なサービスを提供します。

◆**総評**

・ **目標の達成状況：前進**

アウトカム指標の計測結果から政策目標は実現されたものと評価でき、「愛・地球博」等を契機とした観光客の定着及び国内外交流の拡大に関する住民の満足度も高めることができました。

・ **総合的評価**

今後は、世界のゲートウェイである中部国際空港の利用が近年、伸びなやんでいることから、地元関係者の努力による需要の拡大と、道路ネットワーク、公共交通機関等の資源も活かし、中部の有する優れた観光資源（歴史・文化・産業等）をネットワーク化し、更なる交流拡大を進めることが重要です。

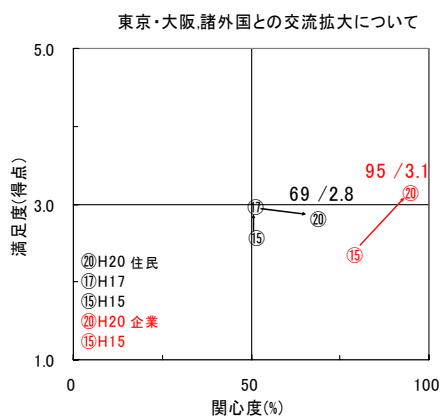
・ **目標の継続性：継続**

◆指標の達成状況

意識調査（中部と国内外との活発な交流）

設問文（問7）：あなたは、中部地方と国内外の各地域との交流が活発だと思いますか

※平成 15・17 年度の設問文：北陸方面や紀州方面へ向かう交通網（道路や鉄道）は便利であると思いますか



◆満足度：中

企業の得点は 2.3 から 3.1 へと増加していますが、住民の得点に変化はありません。

◆関心度：中

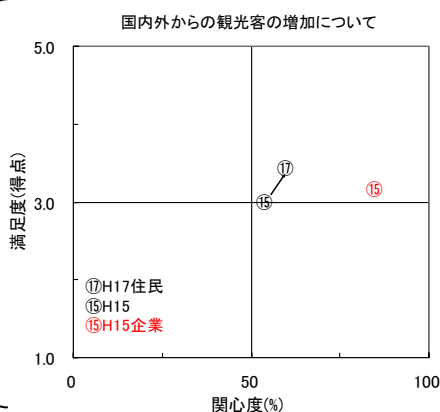
関心度は企業・住民共に向上しています。

◆その他：

（セントレア・「愛・地球博」国内外からの観光客の増加について）

（平成 20 年は同様の内容の設問は実施していない）

※平成 15・17 年度の設問文：中部国際空港や「愛・地球博」をきっかけに、国内外からの観光客は増えたと思いますか



◆満足度：中

中間値を上回っています。

◆関心度：中～高

◆その他：

象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる

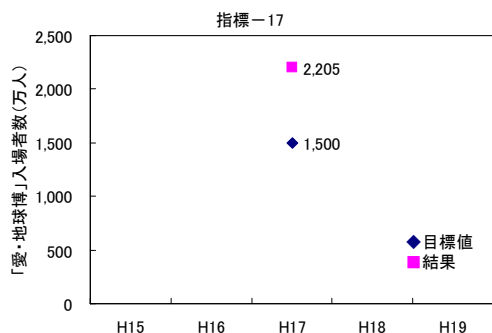
象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる

象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある

象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

アウトカム指標の状況

【「愛・地球博」目標入場者数の達成；1,500 万人】

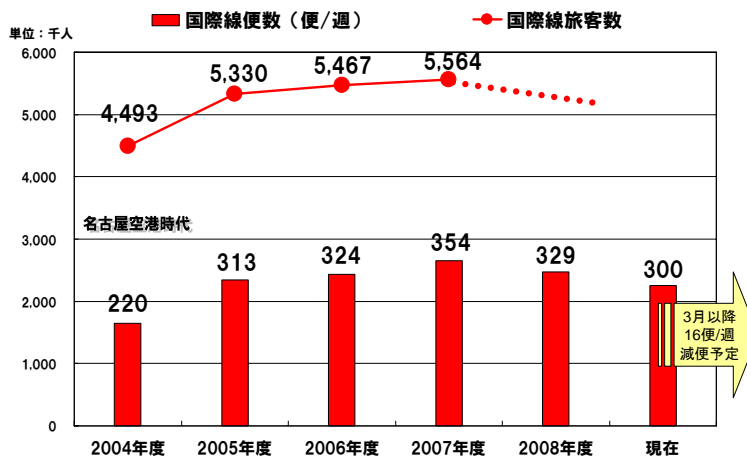


◆状況：○ 目標を達成

「愛・地球博」の入場者数は、目標の 1,500 万人に対し約 2,205 万人と目標値を大きく上回って達成しています。

【参考：中部国際空港の旅客の推移】

国際線旅客数は開港以来順調に推移していたが、便数は2007年冬ダイヤ以降、減便に転じています。



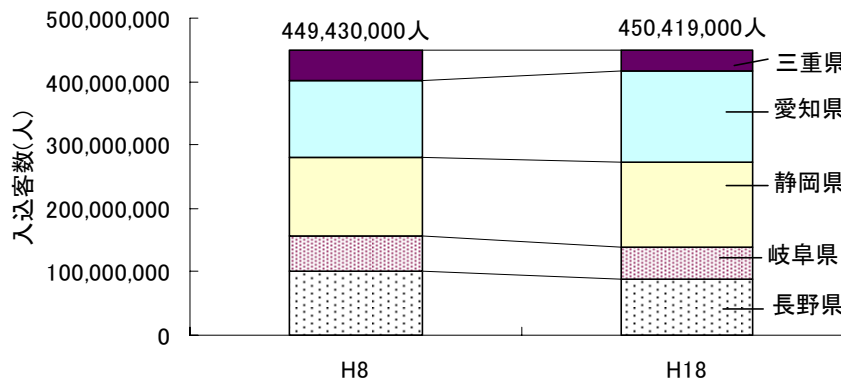
中部国際空港の国際線 航空旅客数と便数の推移

※国際線就航便数は各年度の夏ダイヤスタート時点での便数で比較。現在は09年2月9日時点。

※国土交通省調

・中部5県別観光客数

平成8年と平成18年の中部5県の観光入込客数をみると、愛知県・静岡県伸びが目立ちます。



※長野・静岡・愛知県は延べ数。岐阜・三重県はH8が実数、H18は「全国観光統計基準」に基づいた値

出典：「平成18年度 全国観光動向」(社)日本観光協会、H20.11発行

◆方向V：中部の豊かな自然環境、歴史、文化などを活かした地域づくり、観光振興

方向Vの達成状況

水質・水量改善にむけた下水処理施設等の整備や水辺の再生事業、地球温暖化対策として官庁施設のグリーン改修やリサイクルの促進、自然環境や歴史など地域固有の資源を活かした地域づくりが実施されました。また伊那木曾連絡道路や近畿自動車道紀勢線の一部など、日常生活に必要な病院などがある中心地へのアクセス道路も整備されました。

また、農山漁村の魅力向上など一部に今後の検討が必要な項目がありますが、アウトカム指標では下水道処理人口普及率をはじめ、目標値を概ね達成しており、住民満足度も増加傾向にあることから、一部に今後の検討が必要な項目はありますが「中部の豊かな自然環境、歴史、文化などを活かした地域づくり、観光振興は概ね前進した」といえます。

そうした中、住民意識はその時代や社会的背景の影響を受けやすいものの、住民意識調査での自然環境、生活環境に関する満足が全体的に低く、特にヒートアイランド、大気汚染、騒音などの生活環境対策が進んでいると思う住民は全体の2割弱となっています。また農山漁村の魅力や富士山麓・伊豆周辺での地域資源を活かしたまちづくりに対する満足度が低い。

こうしたことから、今後も生物の多様性を育む環境の破壊や生活環境の悪化に対する更なる環境対策と農山漁村と都市部との交流の促進による魅力向上が重要です。

○主要プロジェクト

プロジェクト10 伊勢湾等再生プロジェクト

プロジェクト11 エコ・中部プロジェクト

プロジェクト12 歴史・文化・自然を活かした中部観光交流拡大プロジェクト

○各目標の達成度（アウトカム指標と意識調査の評価）

40の具体的な目標	目標の達成度	目標の達成度		目標の継続性
		アウトカム指標(総合)	意識調査の評価	
V-1 水質・水量改善を図り、良好な水環境を保全・回復します	b	○	④	継続
V-2 自然環境の保全・再生・創出及びダム周辺の山林保全措置制度の活用等による森林管理を推進します	b	○	④	継続
V-3 温室効果ガス排出削減等の地球温暖化対策を推進します	b	◎	④	継続
V-4 循環型経済社会を構築します	a	◎	④→①	継続
V-5 農山漁村地域の魅力を向上します	要検討	—	④	継続
V-6 生活圏域や流域、沿岸域の連携を強化します	要検討	△	(③→)④	継続
V-7 自然環境・歴史・文化資源を再生・活用した魅力ある地域づくりを進めます	b	○	④	継続
V-8 もう一度訪れたいと思う魅力ある地域づくりを進めます	b	○	④	継続

※1 a:前進、b:概ね前進、c:前進とは言い難い

※2 意識調査の評価で④→①とはH15とH20との意識評価の変化を示している。また()は、設問内容が前回(H15)と一部異なるもの。

象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる

象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる

象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある

象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

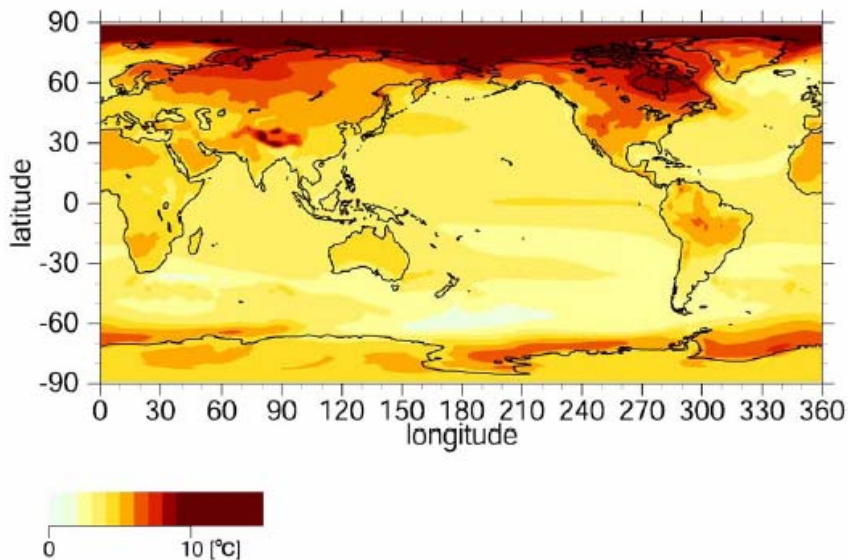
○アウトカム指標の達成度

目標	指標名と目標値	初期値	実績値	目標値	達成度
V-1	下水道処理人口普及率(岐阜県、静岡県、愛知県、三重県) 【52%(H14)→61%(H19)】	52.0	60.9	61.0	達成
	河川水量を改善する目的をもつダム完成数 【14箇所(H14)→17箇所(H19)】	14	17	17	達成
	三河湾における苦潮(青潮)発生期間の短縮 【H14比約5%減(H19)】	100	97	95	未達
V-2	過去に失われた湿地や干潟のうち、回復可能な湿地や干潟の面積 に対する再生されたものの割合【H19までに約5割再生】	3.4	4.4	5	未達
	過去に失われた自然の水辺のうち、回復可能な自然の水辺延長に 対する、再生された自然の水辺の割合【H19までに約1割再生】	0.4	1.0	1	達成
	海辺に親しめる水際線の延長【約441km(H14)→約449km(H19)】	441	450	449	達成
V-3	既存官庁施設のグリーン改修の整備棟数 【11棟(H14)→36棟(H19)】	11	45	36	達成
	天然ガス(CNG)を用いた道路維持管理車両の保有率 【20%(H14)→30%(H19)】	20	30	30	達成
V-4	循環資源の管内港湾における取扱量の増大 【H14比1割増(万t)(H19)】	147.8	232.2	185.2	達成
	建設副産物のリサイクル率【87%(H12)→91%(H17)】	87	95	91	達成
V-5	(指標設定なし)	-	-	-	-
V-6	日常生活中心都市30分到着率【82%(H14)→88%(H19)】	82	87	88	概ね達成
V-7	都市域における潤いのある水辺整備率【17%(H14)→20%(H19)】	17	20	20	達成
	自然環境・地域づくりに貢献する海岸線の延長 【約229km(H14)→約243km(H19)】	229	234	243	未達
	人が海にふれあえる港湾緑地の面積【H19までに約55ha増加】	35	87	90	概ね達成
	水辺交流体験拠点数【27箇所(H14)→52箇所(H19)】	27	44	52	未達
V-8	中部地方(5県)への国内来訪者数【H12比1割増(千人)(H17)】	156,657	207,793	172,323	達成
	海外旅行者の中部地方への訪問率【H13比5割増(%) (H19)】	18	19.9	27	未達
	地域に開かれたダム(ダム湖)利用者数 【約143千人(H14)→約256千人(H19)】	143	147	256	未達

【参考：5年間の中部の動き】

・地球温暖化

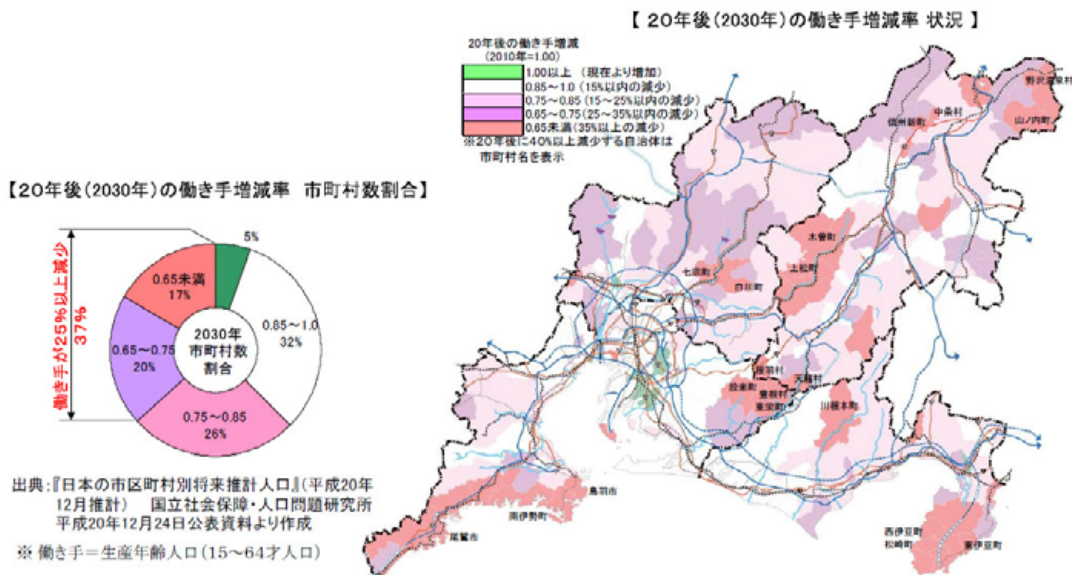
気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第4次評価報告書(平成19年)では21世紀末の世界平均地上気温は1.8℃～4℃上昇し、海面も0.26～0.59m上昇する等と予測されています。



出典：海洋研究開発機構 地球シミュレータセンター

・将来人口の予測

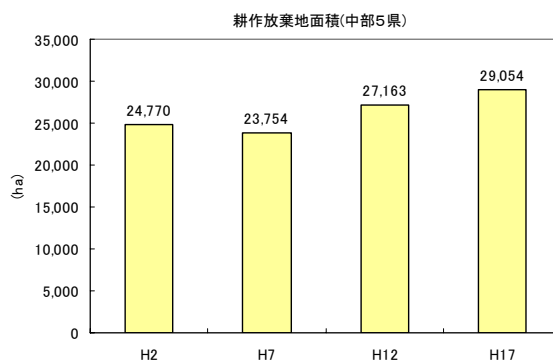
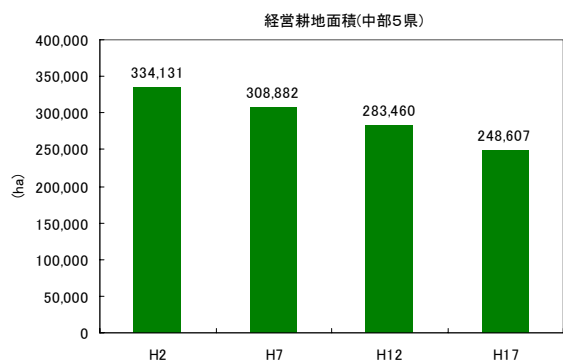
中部全体では、20年後の働き手は、現在より14%減少します。その中でも働き手が4人中1人以上も減少（25%以上減少）する市町村は、中部全体の4割に達します。



出典：国土交通省 中部地方整備局資料

・耕作放棄地面積の推移

中部5県の経営耕地面積は平成2年から同17年にかけて約3/4程度まで減少しています。耕作放棄地は平成7年以降、増加しています。



データ：「農林業センサス（農林水産省）」

目標V-1：水質・水量改善を図り、良好な水環境を保全・回復します

多様な生態系を育み、人々の心にうるおいと安らぎを与える森から海につながる豊かで美しい清流の回復を目指します。

◆総評

・目標の達成状況：おおむね前進

水質・水量改善にむけた対策への満足度は低いものの少しずつ向上しており、そのアウトカム指標（下水道処理人口普及率、ダム完成数）はいずれも目標を達成したことから、目標に向かって、おおむね前進したといえます。

・総合的評価

当該目標に関する住民の関心度は非常に高く、満足度が低い。特に、伊勢湾に面する地域（名古屋圏）において住民満足度が低いことから、伊勢湾等の閉鎖性水域における水質改善は喫緊の課題であり、流域と海域が一体となった水質改善への取り組みを一層強化していくことが重要です。

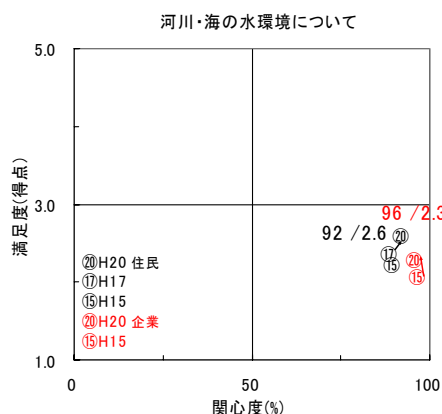
・目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（川や海の水質（きれいさ））

設問文（問25）：あなたの住む地域にある川や海などの水はきれいだと思いますか

※平成15・17年度の設問文：あなたの身近にある河川や海の水はきれいだと思いますか



◆満足度：低～中

得点は2.1～2.6と中間値より低いですが、満足度は増加しています。また、住民・企業共に「そう思わない」という強い不満が減少しています。

◆関心度：高

住民・企業共に9割前後の高い関心を示しています。

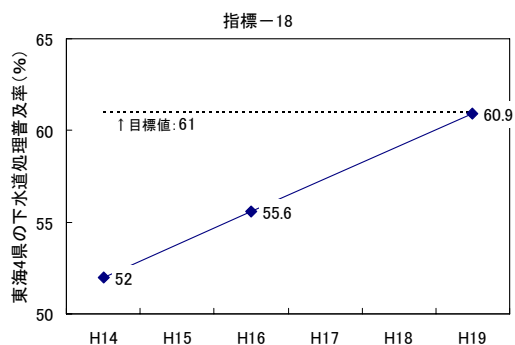
◆その他：

都市規模別では、「水はきれい」が名古屋市で1割程度と低く、地方部が5割以上と高い。

象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる
 象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる
 象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある
 象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

アウトカム指標の状況

【下水道処理人口普及率（岐阜県、静岡県、愛知県、三重県）；52%（H14）→61%（H19）】

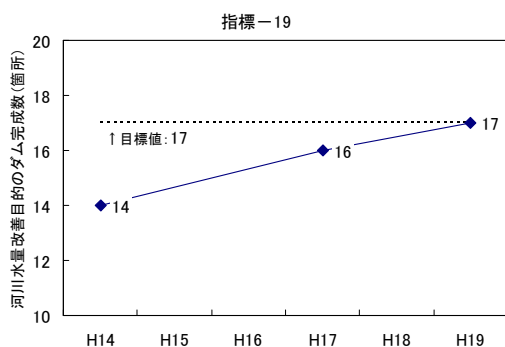


◆状況：○ 目標を達成

0.1%下回っていますが、達成したとみなしました。

着実に事業が展開されているといえます。

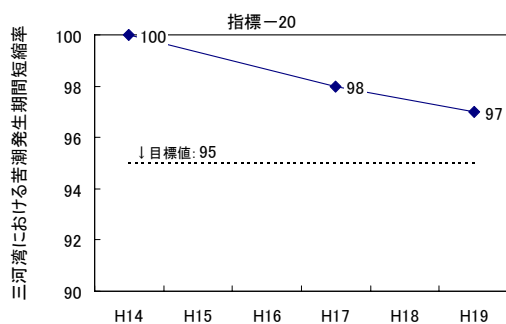
【河川水量を改善する目的をもつダム完成数（14箇所（H14）→17箇所（H19）】



◆状況：○ 目標を達成

平成19年度に目標値を達成しました。

【三河湾における苦潮（青潮）発生期間の短縮；H14比約5%減（H19）】



◆状況：× 未達成

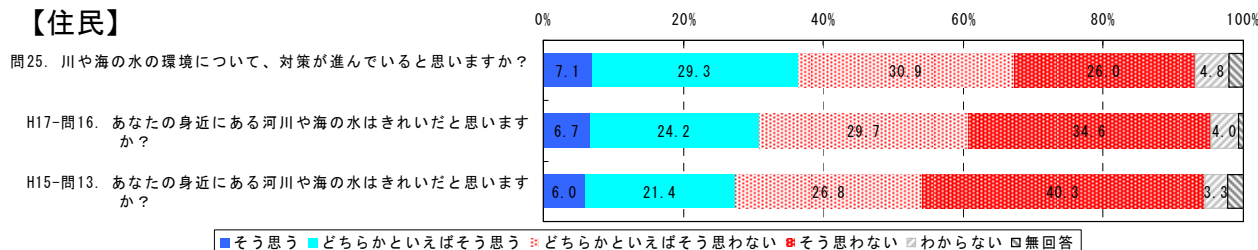
目標に達しませんでした。

◆その他：住民意識調査(平成20年度)

問25 川や海の水の環境について

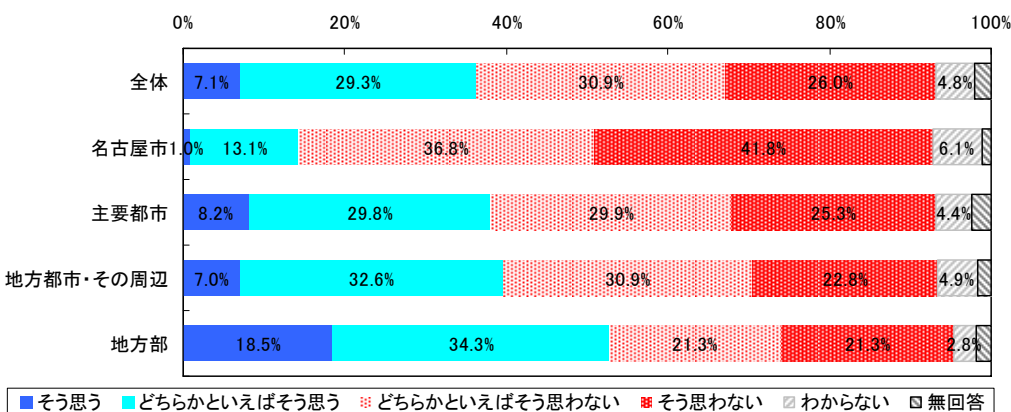
- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたの住む地域にある川や海などの水はきれいだと思いますか

【住民】



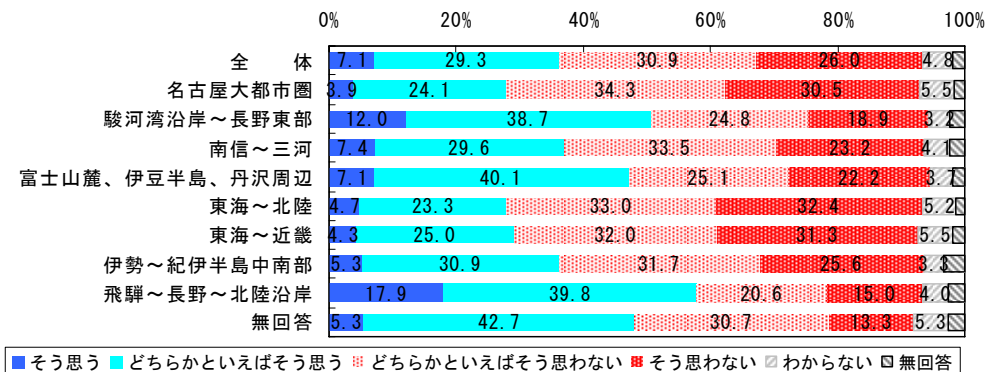
【住民・都市規模別】

問25 あなたの住む地域にある川や海などの水はきれいだと思いますか



【住民・地域グループ別】

問25 あなたの住む地域にある川や海などの水はきれいだと思いますか



目標V-2：自然環境の保全・再生・創出及びダム周辺の山林保全措置制度の活用等による森林管理を推進します

- ・ 河口域・沿岸域における干潟、藻場、ヨシ原の保全再生、砂浜の保全回復、河川における多自然化や河畔林の整備、ダム周辺の山林保全措置制度の活用などで森林の保全創出など地域固有の生物多様性の確保につとめ、豊かな自然環境を再生します。
- ・ 山地から海までの土砂管理についてダムの堆砂対策のあり方等を検討し、土砂移動の連続性確保のため必要な土砂管理対策の具体化を図ります。

◆総評

・目標の達成状況：おおむね前進

当該目標のアウトカム指標は全てアウトプット型であるものの、おおむね目標を達成しており、目標に向かっておおむね前進したといえます。

・総合的評価

住民の関心度は比較的高く、満足度が非常に低い結果となっています。森林・農地の施業放棄地が拡大し、森林の荒廃が進行しているなかで、森林が有する洪水調整や地球温暖化防止などの多面的機能を持続的に発揮させることは、国土の保全やCO2吸収量拡大の観点から重要であり、森林資源の適切な管理を通して多面的な森林資源の活用するなど、環境問題等社会的取り組みへの貢献が重要です。

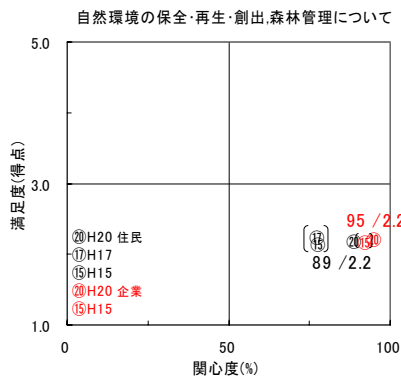
・目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（生物の住みやすい環境創出）

設問文(問 24)：あなたの住む地域では、山や川・海といった自然を保全したり本来の姿に再生したり、生き物が住みやすい環境を創出する取り組みが進んでいると思いますか

※平成 15・17 年度の設問文：あなたの住む地域は、自然環境の保全・再生・創出および森林管理が進んでいると思いますか



◆満足度：低

得点は住民・企業共に低い。

◆関心度：高

住民・企業共に 9 割前後の高い関心を示しています。

◆その他：

地域グループ別では、ほとんどの地域で「進んでいる」が 2 割程度と低い。

H15, H17 の設問が森林管理に特化しているため、前回との比較分析は対象外としました。

※ () 書きは H20 の設問と H15, H17 の設問が一部異なる表現をしているため参考値として記載している。

象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる

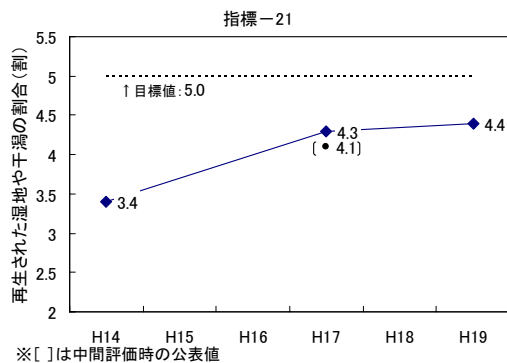
象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる

象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある

象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

アウトカム指標の状況

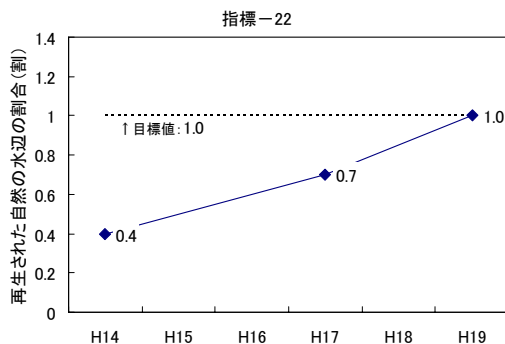
【過去に失われた湿地や干潟のうち、回復可能な湿地や干潟の面積に対する、再生されたものの割合；H19 までに約 5 割再生】



◆状況：× 未達成

平成 17 年度以降は、ほぼ横ばいであり、目標を達成できませんでした。

【過去に失われた自然の水辺のうち、回復可能な自然の水辺延長に対する、再生された自然の水辺の割合；H19 までに約 1 割再生】

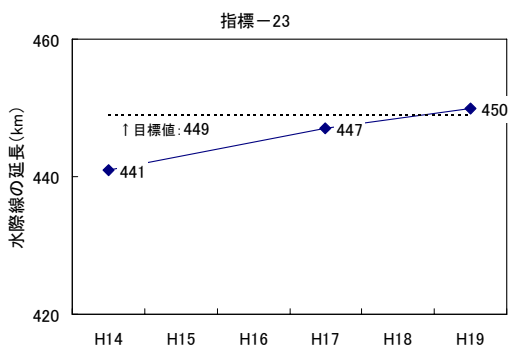


◆状況：○ 目標を達成

目標値を達成しました。

アウトカム指標の状況

【海辺に親しめる水際線の延長；約 441 km (H14) →約 449 km (H19)】



◆状況：○ 目標を達成

順調に数字を伸ばしており、目標値を達成しました。

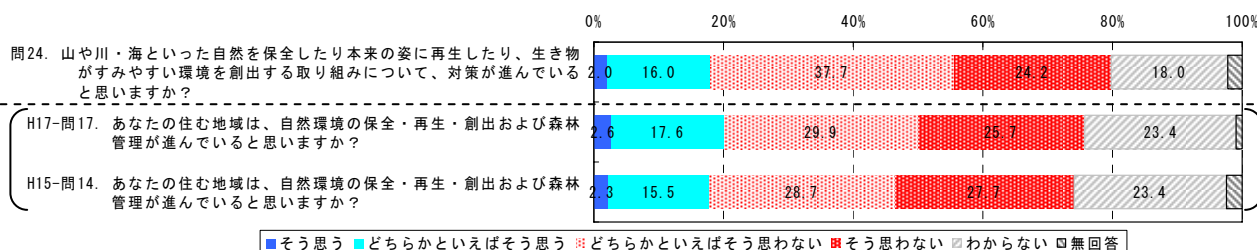
※中間評価時に集計方法の見直しも含め、目標値を再設定しています

◆その他：住民意識調査(平成 20 年度)

問 24 山や川・海といった自然を保全したり本来の姿に再生したり、生き物がすみやすい環境を創出する取り組みについて

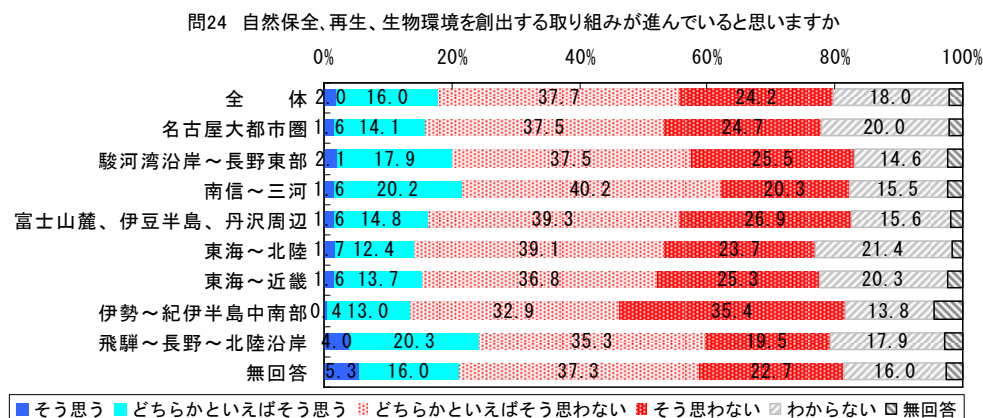
- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたの住む地域では、このような取り組みが進んでいると思いますか

【住民】



※ () 書きは H20 の設問と H15, H17 の設問が一部異なる表現をしているため参考値として記載している。

【住民・地域グループ別】



目標V-3：温室効果ガス排出削減等の地球温暖化対策を推進します

京都議定書において定めた、2008年から2012年までに温室効果ガスを6%排出削減する目標に対して、中部もその役割を積極的に果たしていきます。

◆総評

・目標の達成状況：おおむね前進

当該目標のアウトカム指標は全てアウトプット型であり、本目標の範疇において極めて限定的な指標であるものの、いずれも目標値を達成しました。

住民の満足度も増加傾向にあることから、目標に向かって、おおむね前進したといえます。

・総合的評価

温室効果ガスの削減を定量的に計測するためには、より広範な成果指標の設定が必要です。一方、住民の関心度は高く、満足度が低いことから、より一層の対策強化が重要で、CO2削減効果を一層高めるため交通・運輸等に関する成果指標等に関する取り組みも重要です。

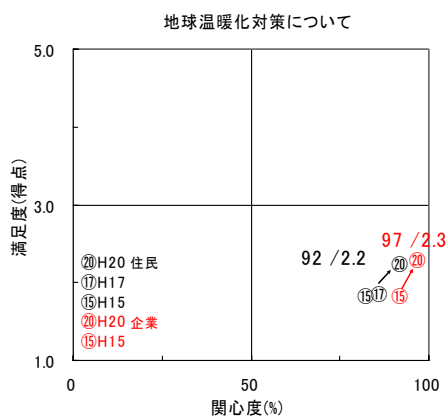
・目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（地球温暖化対策）

設問文（問23）：あなたの住む地域では、地球温暖化を防ぐため、温室効果ガスの排出を減らしたり自然エネルギーを活用するなどの地球温暖化対策が進んでいると思いますか

※平成15・17年度の設問文：あなたの住む地域は、温室効果ガスの排出削減等の地球温暖化対策が進んでいると思いますか



◆満足度：低

得点は1.8~2.3と中間値より低いが、満足度は増加しています。

◆関心度：高

住民・企業共に9割前後の高い関心を示しています。

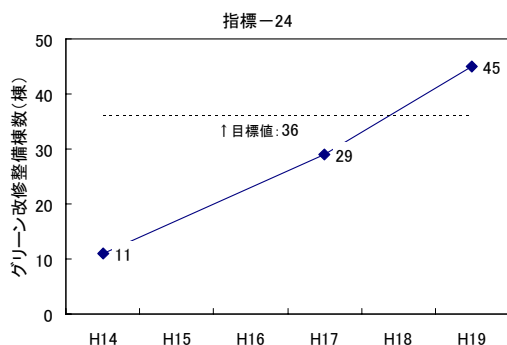
◆その他：

都市部では名古屋市で満足度が高い。

- 象限①・・・関心度、満足度ともに高い ; 今後も現状維持が望まれる
- 象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い ; 今後も現状維持が望まれる
- 象限③・・・関心度、満足度がともに低い ; 施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある
- 象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い ; ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

アウトカム指標の状況

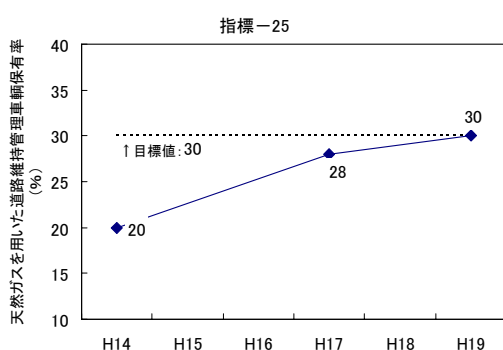
【既存官庁施設のグリーン改修の整備棟数；11棟(H14)→36棟(H19)】



◆状況：○ 目標を達成

目標値を達成しました。

【天然ガス（CNG）を用いた道路維持管理車両の保有率；20%（H14）→30%（H19）】



◆状況：○ 目標を達成

順調に整備率が向上し、平成19年に目標値を達成しました。

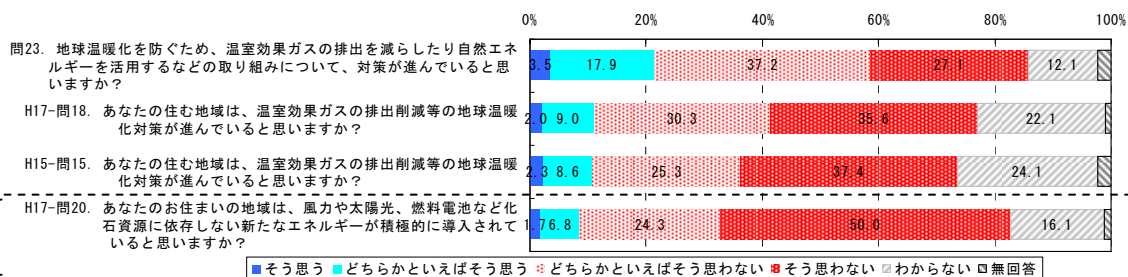
※中間評価時に目標値を再設定しています

◆その他：住民意識調査(平成20年度)

問23 地球温暖化を防ぐため、温室効果ガスの排出を減らしたり自然エネルギーを活用するなどの取り組みについて

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたの住む地域では、こうした地球温暖化対策が進んでいると思いますか

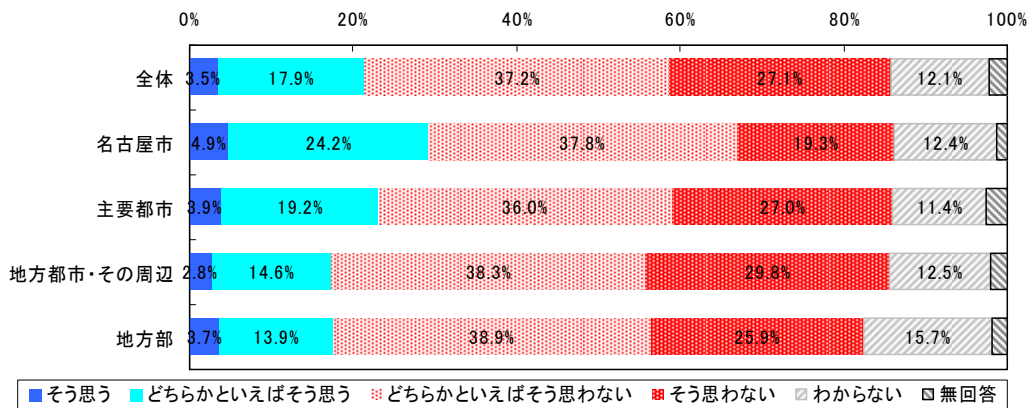
【住民】



※（ ）書きはH20の設問とH15、H17の設問が一部異なる表現をしているため参考値として記載している。

【住民・都市規模別】

問23 あなたの住む地域では、地球温暖化対策が進んでいると思いますか



標V-4：循環型経済社会を構築します

廃棄物を最小限に抑制し、資源・エネルギーを効率的に循環利用する社会経済活動や生活のしくみをつくることで、廃棄物処分場の軽減や持続可能な地域形成を目指します。

◆総評

・目標の達成状況：前進

設定された目標とアウトカム指標とが、一般市民レベルでの循環型経済社会への取り組み(生活的なりサイクル運動等)と比べて乖離しているため、評価に際しては検討が必要です。住民満足度は向上していることから、目標に向かって前進したといえます。

・総合的評価

愛・地球博の理念継承、地球環境問題への対応の観点で、当該目標に関する関心度は非常に高く、満足度も大幅に上昇していることから、循環型社会の構築に向け、一層のリサイクルの促進、建設副産物の再資源化、静脈物流ネットワークの構築等が必要であり、今後もこうした目標に対する取り組みが重要です。

・目標の継続性：継続

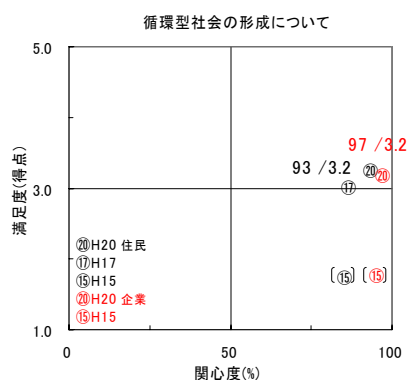
◆指標の達成状況

意識調査（リサイクルなど循環型社会の取り組み）

設問文(問 28): あなたの住む地域では、ゴミの発生を最小限に抑えるリサイクルの推進など、環境への負荷を軽減する取り組みが進んでいると思いますか

※平成 17 年度の設問文: あなたの住む地域は、廃棄物の発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)、焼却物の廃熱利用、適正処分など環境への負荷を軽減するための循環型社会の形成に向けた取り組みが進んでいると思いますか

※平成 15 年度の設問文: あなたの住む地域は、廃棄物を最小限に抑えたり、風力や太陽光などのエネルギーを効率よく利用していると思いますか



◆満足度：中

得点は住民企業共に変化はありません。

◆関心度：高

住民・企業共に 9 割前後の高い関心を示しています。

◆その他：

象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる

象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる

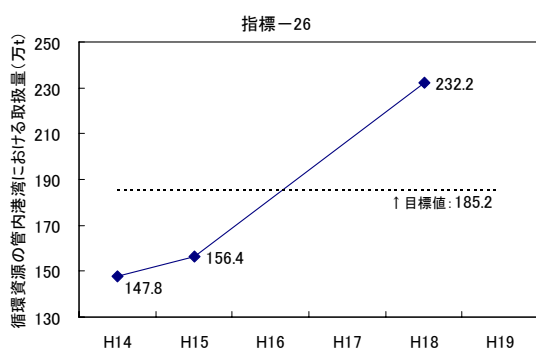
象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある

象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

※この設問は平成 20 年度調査では近似した設問で実施された。経年変化について取扱に注意を要する。

アウトカム指標の状況

【循環資源の管内港湾における取扱量の増大；H14比1割増(H19)】

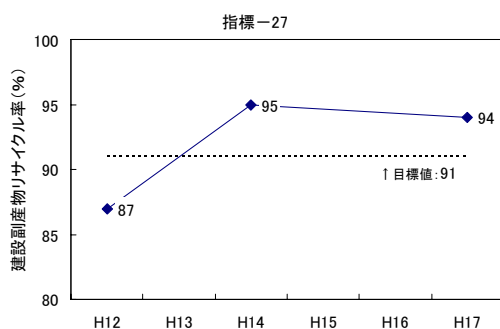


◆状況：○ 目標を達成

目標値を達成しました。

※元データである港湾統計は1年3ヶ月遅れで公表される

【建設副産物のリサイクル率；87% (H12)→91% (H17)】



◆状況：○ 目標を達成

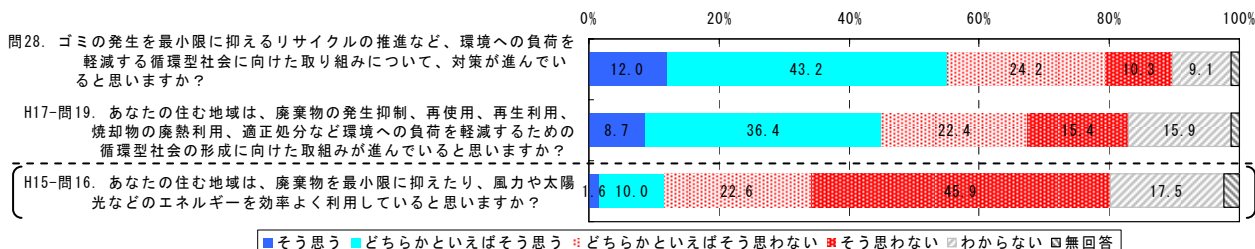
平成14年度に目標値を達成しました。

◆その他：住民意識調査(平成 20 年度)

問 28 ゴミの発生を最小限に抑えるリサイクルの推進など、環境への負荷を軽減する循環型社会に向けた取り組みについて

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたの住む地域では、このような取り組みが進んでいると思いますか

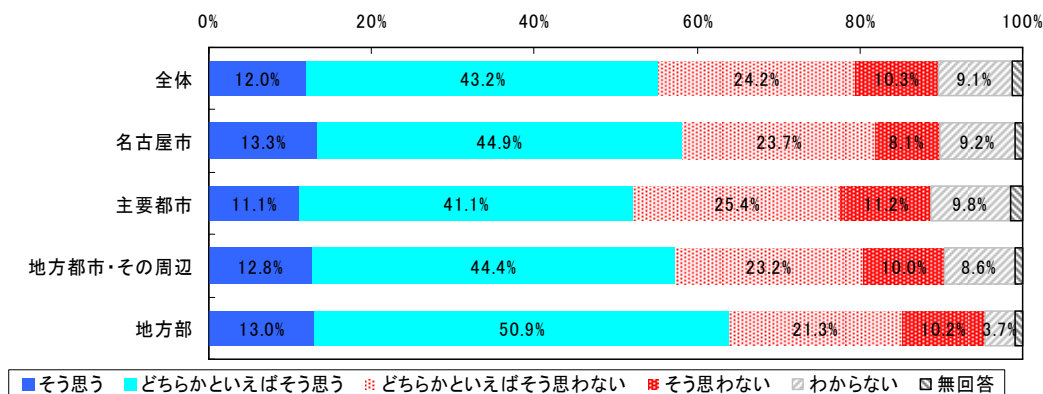
【住民】



※ () 書きは H20 の設問と H15, H17 の設問が一部異なる表現をしているため参考値として記載している。

【住民・都市規模別】

問28 リサイクルの推進など循環型社会に向けた取り組みが進んでいると思いますか



目標V-5：農山漁村地域の魅力を向上します

森林管理を担う中山間地域をはじめ農山漁村地域において、働き住み続けられる環境づくりを進め、永住地として選択可能な魅力を高めていきます。

◆総評

・目標の達成状況：要検討

アウトカム指標での評価はできないが、住民の関心度及び満足度とも地方部も含めて低下傾向にあり、その理由として、都市・地方の格差拡大の顕在化が想定されます。その背景として、東京、名古屋等を中心に都市再生の成果が現れつつあり、人、もの、情報が都市に集中しようとする傾向が浸透しつつ可能性があります。

目標の達成状況を判定しにくく、検討を要するものと考えます。

・総合的評価

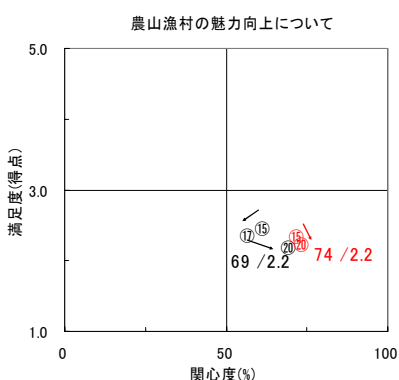
農山漁村地域は、森林、農地等国土の保全を担ってきた生活基盤であるため、生活の場が失われていくことは国土形成上、重要な問題として認識される必要があります。そのため、都市と農村の交流拡大など二地域居住人口の獲得を目指した取り組みが重要です。

・目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（農山村など地方部の魅力度）

設問文(問17)：中部地方の農山村などの地方部には、住んだり働いてみたいと思う魅力があると思いますか
 ※平成 15・17 年度の設問文：中部地方の農山村や漁村には、住んでみたい(働いてみたい)と思う魅力があると思いますか



◆満足度：低

得点は住民企業共に変化はありません。

◆関心度：中

関心度は住民企業共に変化はありません。

◆その他：

都市規模別で、地方部では「魅力があると思う」が 4 割程度あるのに対し、地方部以外では 2 割程度と、地方部の約半分程度となっています。

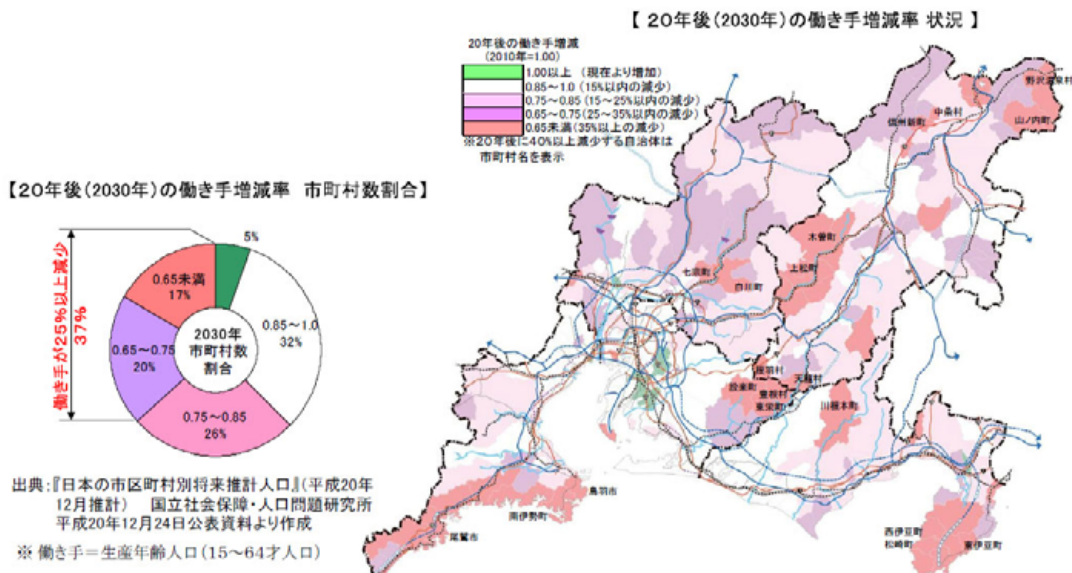
- 象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる
- 象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる
- 象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある
- 象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

アウトカム指標の状況

本目標に対してアウトカム指標が設定されていないため、評価できません。

将来推計人口でも働き手(生産年齢人口)が向こう20年で大幅に減少し、中でも中山間地域や半島地域では対象人口の3割以上の人口が減る市町村が約2割弱(対象251市町村のうち47)となっています。

【参考：将来人口の予測】



20年後に働き手が35%以上減少する市町村

地域	生産年齢人口 増減率 (2010年=1.00)		
	2010年	2020年	2030年
中部5県	1.00	0.92	0.88
20000 長野県	1.00	0.89	0.86
21000 岐阜県	1.00	0.90	0.81
22000 静岡県	1.00	0.90	0.81
24000 三重県	1.00	0.91	0.83
23000 愛知県	1.00	0.96	0.92
長野県 大鹿村	1.00	0.67	0.50
愛知県 設楽町	1.00	0.71	0.51
静岡県 西伊豆町	1.00	0.68	0.52
静岡県 川根本町	1.00	0.74	0.52
愛知県 東栄町	1.00	0.70	0.52
長野県 信州新町	1.00	0.74	0.53
長野県 中条村	1.00	0.73	0.53
三重県 南伊勢町	1.00	0.73	0.54
岐阜県 七宗町	1.00	0.74	0.56
長野県 上松町	1.00	0.77	0.57
長野県 野沢温泉村	1.00	0.77	0.57
静岡県 松崎町	1.00	0.73	0.57
長野県 根羽村	1.00	0.71	0.56
長野県 木曾町	1.00	0.76	0.58
長野県 山ノ内町	1.00	0.76	0.58
静岡県 東伊豆町	1.00	0.73	0.58
愛知県 豊田村	1.00	0.73	0.58
三重県 飯盛市	1.00	0.75	0.58
三重県 鳥羽市	1.00	0.77	0.58
岐阜県 白川町	1.00	0.77	0.59
長野県 大鹿村	1.00	0.77	0.60
長野県 木曽村	1.00	0.76	0.60
長野県 大桑村	1.00	0.77	0.60
静岡県 河津町	1.00	0.75	0.60
三重県 志摩市	1.00	0.78	0.60
三重県 紀北町	1.00	0.76	0.60
長野県 長和町	1.00	0.79	0.61
三重県 大紀町	1.00	0.77	0.61
長野県 南木曾町	1.00	0.78	0.62
長野県 飯綱町	1.00	0.78	0.62
長野県 栄村	1.00	0.78	0.62
岐阜県 関ヶ原町	1.00	0.78	0.62
静岡県 伊豆市	1.00	0.78	0.62
長野県 生坂村	1.00	0.79	0.63
静岡県 下田市	1.00	0.77	0.63
静岡県 芝川町	1.00	0.78	0.63
愛知県 南知多町	1.00	0.80	0.63
長野県 信濃町	1.00	0.78	0.64
静岡県 熱海市	1.00	0.77	0.64
静岡県 南伊豆町	1.00	0.75	0.64
愛知県 飛鳥村	1.00	0.79	0.64
三重県 飯野市	1.00	0.79	0.64

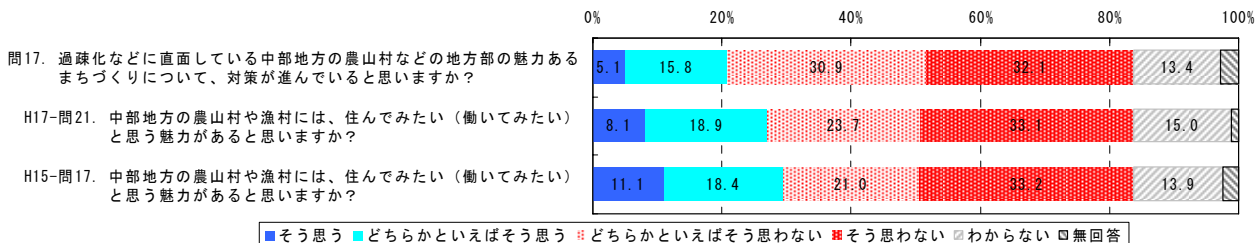
出典：国土交通省 中部地方整備局資料

◆その他：住民意識調査(平成20年度)

問17 過疎化などに直面している中部地方の農山村などの地方部の魅力あるまちづくりについて

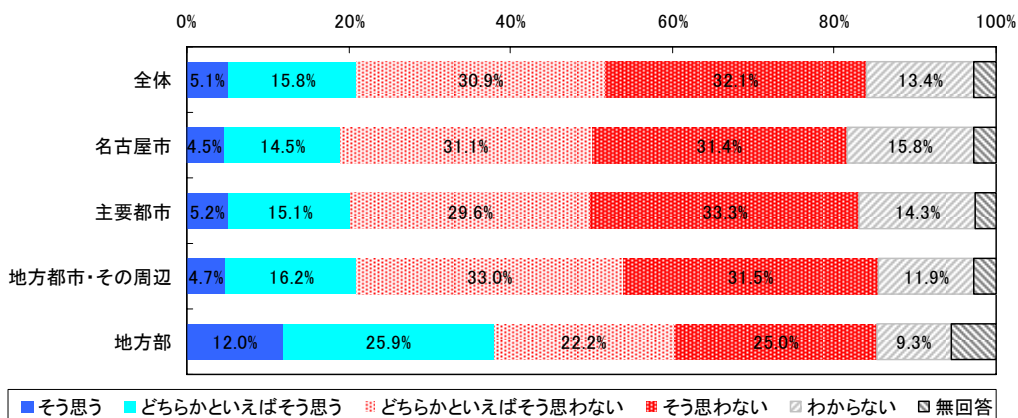
- 1) あなたは関心がありますか
- 2) 中部地方の農山村などの地方部には、住んだり働いてみたいと思う魅力があると思いますか

【住民】



【住民・都市規模別】

問17 中部地方の農山村等の地方部には、住んだり働いてみたいと思う魅力があると思いますか



目標V-6：生活圏域や流域、沿岸域の連携を強化します

- ・ 市町村の合併や広域連携事業について積極的に支援するとともに、地域の幹線道路などの整備により地域の連携交流を促進します。
- ・ 水循環機能の回復に対して水源地域と都市との一体的な取り組みを進めるために、流域の交流ネットワークの構築を推進します。

◆総評

・目標の達成状況：要検討

アウトカム指標は、わずかに目標値に達成していない状況にあります。本目標の成果指標として充足していません。これは、住民の関心度・満足度も非常に低い状況であることから伺え、農山漁村地域等における連携・交流ネットワーク形成の積極的な支援と住民理解を促進する必要があります。

以上から目標の達成状況を判定しにくい状況にあり、検討を要するものと考えます。

・総合的評価

農山漁村地域は、そこに有する森林や農地等の多面的機能によって、都市の防災機能、水量・水質の改善効果、うるおいのある緑の空間等を都市住民に提供していますが、住民意識調査から上下流の交流の必要性が下流の都市部であまり認識されていない状況にあることから、住民の生活圏の広域化等を考慮して、今後もこうした目標に対する取り組みが重要です。

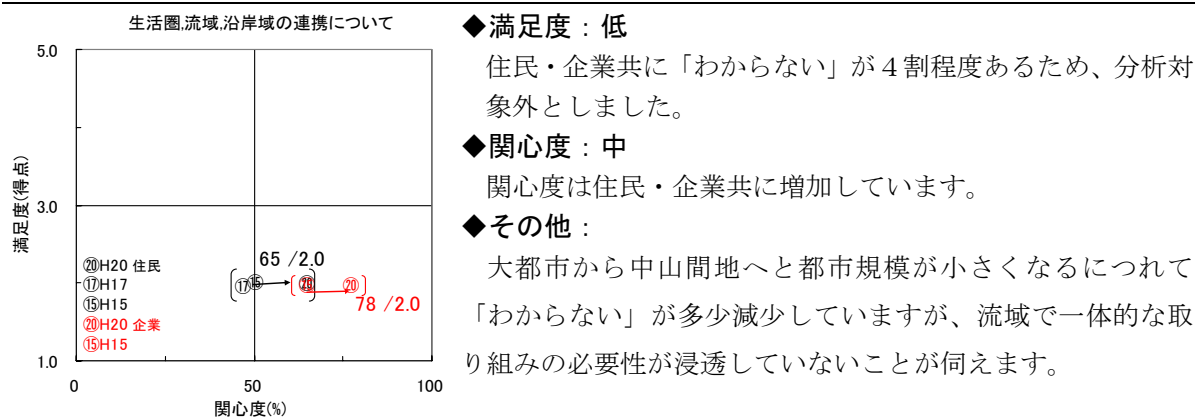
・目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（上下流の水・土砂循環）

設問文(問 18): あなたの住む地域では、川の最も上流となる森林管理や、山から海まで土砂を流し海岸侵食(砂浜が減る現象)を防ぐなどの土砂管理といった川の上流から海まで、流域の行政と住民が一体となった取り組みや交流が活発に行われていると思いますか

※平成 15・17 年度の設問文: あなたの住む地域では、近隣市町村同士や河川の上流地域と下流地域の間で連携した取り組みや交流が活発に行われていると思いますか

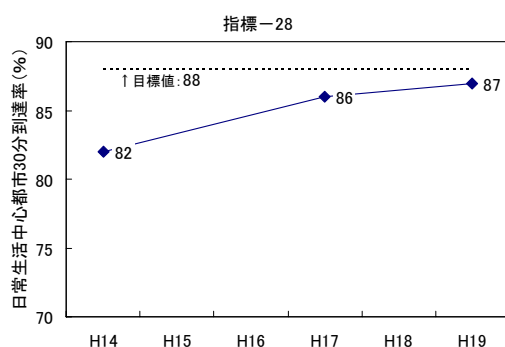


※() 書きは H20 の設問と H15, H17 の設問が一部異なる表現をしているため参考値として記載している。

- 象限①・・・関心度、満足度ともに高い ; 今後も現状維持が望まれる
 象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い ; 今後も現状維持が望まれる
 象限③・・・関心度、満足度がともに低い ; 施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある
 象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い ; ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

アウトカム指標の状況

【日常生活中心都市 30 分到着率 ; 82% (H14) →88% (H19)】



◆状況：△ 概ね達成

わずかに目標値を下回り、達成できていません(目標値に対する増加率が90%以上であり、△としました)。

※中間評価時に目標値を再設定しています

◆その他：住民意識調査(平成20年度)

問18 川の最も上流となる森林管理や、山から海まで土砂を流し海岸侵食（砂浜が減る現象）を防ぐなどの土砂管理といった川の上流から海まで、流域の行政と住民が一体となった取り組みについて

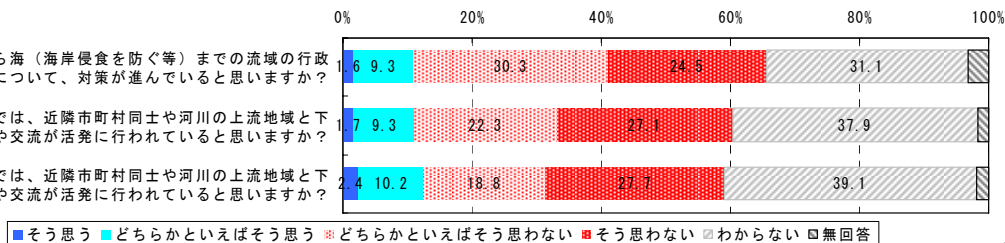
- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたの住む地域では、こうした取り組みや交流が活発に行われていると思いますか

【住民】

問18. 川の上流（森林管理）から海（海岸侵食を防ぐ等）までの流域の行政と住民が一体となった取り組みについて、対策が進んでいると思いますか？

H17-問23. あなたの住む地域では、近隣市町村同士や河川の上流地域と下流地域の間で連携した取り組みや交流が活発に行われていると思いますか？

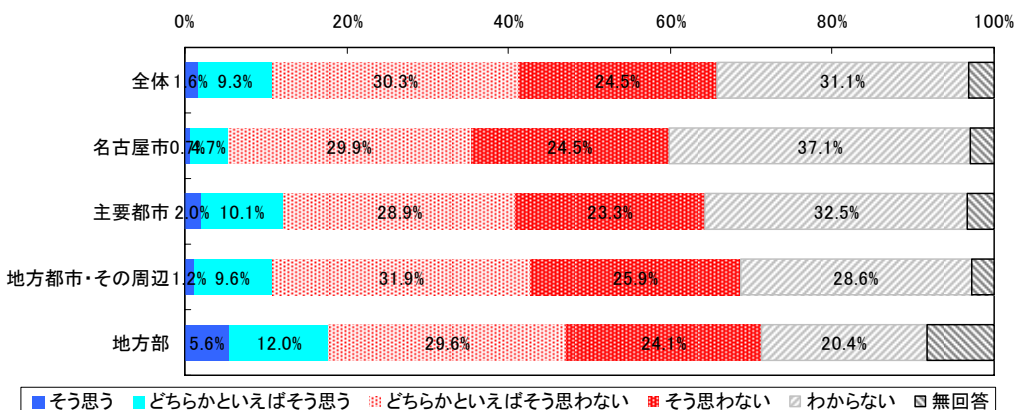
H15-問18. あなたの住む地域では、近隣市町村同士や河川の上流地域と下流地域の間で連携した取り組みや交流が活発に行われていると思いますか？



※（ ）書きはH20の設問とH15, H17の設問が一部異なる表現をしているため参考値として記載している。

【住民・都市規模別】

問18 あなたの住む地域では、流域圏の取り組みや交流が活発に行われていると思いますか



目標V-7：自然環境・歴史・文化資源を再生・活用した魅力ある地域づくりを進めます

豊かな自然環境、優れた地域固有のまちなみや景観を次世代に引き継ぐとともに、そうした資源を地域活力の重要な要素として付加価値を高めていきます。

◆総評

・目標の達成状況：おおむね前進

住民の満足度は変化がなかったが、街なみ環境整備事業などの施策が実施されたこともあって、当該目標のアウトカム指標は全てアウトプット型であるものの、いくつかの指標は目標に達しました。これより目標に向けて、おおむね前進したといえます。

・総合的評価

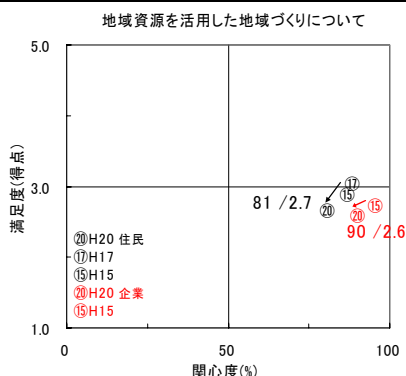
中部地方は自然・歴史・文化資源が豊かな地域ですが、住民意識では、そうした資源を活用した地域づくりがなされていると思うのは全体の4割弱と低く、特に伊豆・富士山麓周辺の満足度の低さが顕著ですが、一方で飛騨・長野地域などは高くなっています。今後もこうした地域づくりの成功事例として情報発信し、その他の地域へとつなげていくとともに、取り組みの重要性に対する地元の理解醸成をはかりながら、着実に取り組みを推進することが重要です。

・目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（自然環境・歴史・文化資源を活用した地域づくりについて）

設問文（問19）：あなたの住む地域では、地域の自然や文化を活かしたまちなみがあると思いますか
 ※平成15・17年度の設問文：あなたの住む地域は、豊かな自然や歴史・文化を活かした場所やまちなみがあると思いますか



◆満足度：中

得点は住民・企業共に変化はありません。

◆関心度：高

住民・企業共に8~9割と高い関心を示しています。

◆その他：

地域グループ別では、「地域固有の資源を活かしていると思う」が特に「飛騨～長野～北陸沿岸」で高い。

象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる

象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる

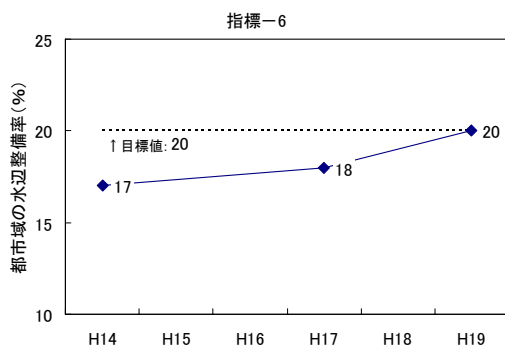
象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある

象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

※この設問は平成20年度調査では統廃合され、近似した設問で実施された。

アウトカム指標の状況

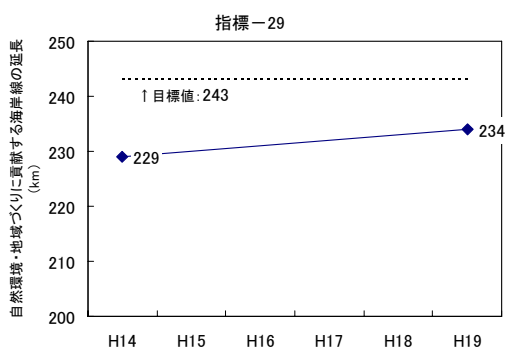
【都市域における潤いのある水辺整備率；17% (H14) →20% (H19)】



◆**状況：○** 目標を達成

順調に整備率が向上し、目標値を達成しました。

【自然環境・地域づくりに貢献する海岸線の延長；約 229 km (H14) →約 243 km (H19)】

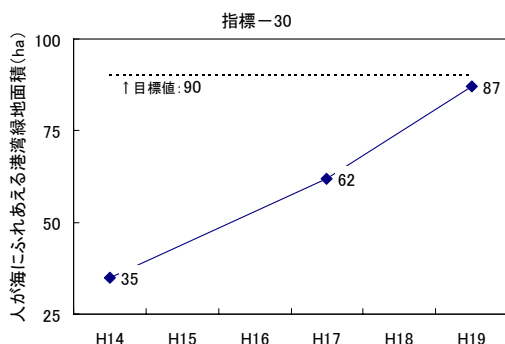


◆**状況：×** 未達成

延長は増加しましたが、目標に及びませんでした。

※自然環境・地域づくりに貢献する海岸線に資する予定していた事業進捗が遅れたため。

【人が海にふれあえる港湾緑地の面積；H19 までに約 55ha 増加】



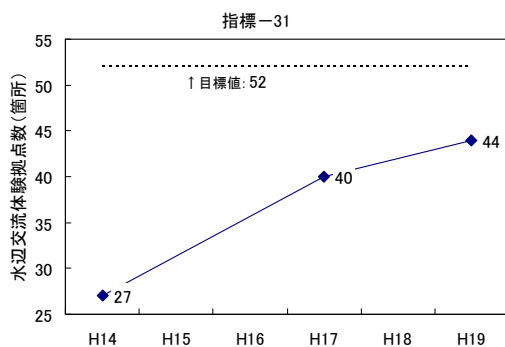
◆**状況：△** 概ね達成

順調に面積を増やしましたが、目標にわずかに及びませんでした(目標値に対する増加率が 90% 以上であり、△としました)。

※関係者との調整に時間を要したため

※H14,H17 値は中間評価時から見直しています

【水辺交流体験拠点数；27 箇所 (H14) →52 箇所 (H19)】



◆**状況：×** 未達成

増加していますが目標値には及びませんでした。

※地元調整による遅れ

※中間評価時に目標値を再設定しています

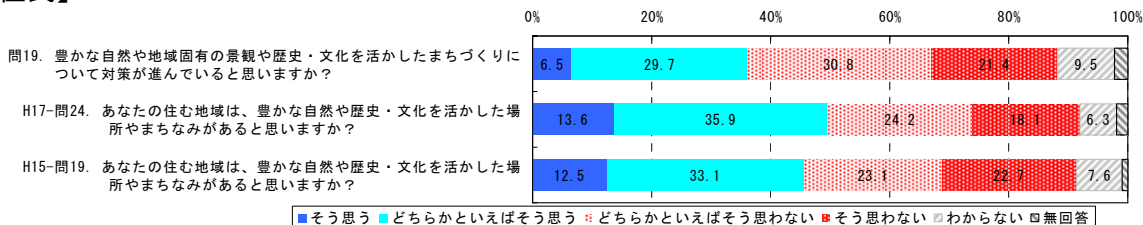
※H14,H17 値は中間評価時から見直しています

◆その他：住民意識調査(平成20年度)

問19 豊かな自然や地域固有の景観や歴史・文化を活かしたまちづくりについて

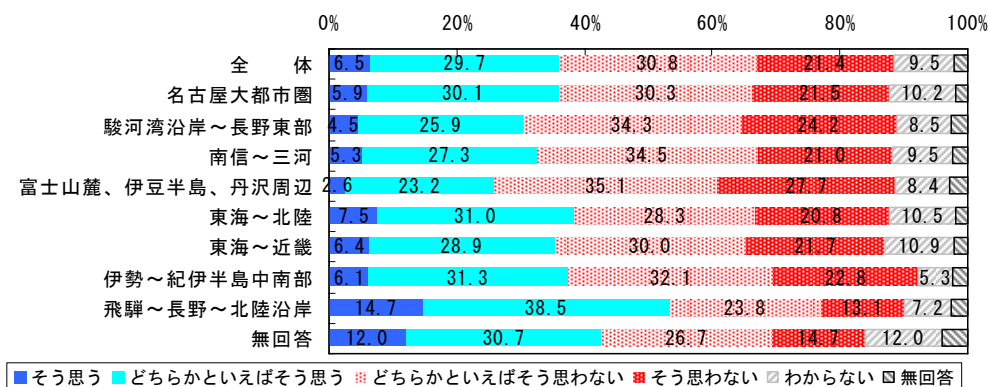
- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたの住む地域では、そうした地域の自然や文化を活かしたまちなみがあると思いますか

【住民】



【住民・地域グループ別】

問19 あなたの住む地域では、地域の自然や文化を活かしたまちなみがあると思いますか



目標V-8：もう一度訪れたいと思う魅力ある地域づくりを進めます

- ・ 観光資源の活用や地域のもてなしの心を醸成することで、国内外旅行客が多数訪れ、リピーター率の高い地域を目指します。
- ・ 地域に埋もれている観光資源を発掘し、観光交流による地域の活性化を図ります。

◆総評

・ 目標の達成状況：おおむね前進

アウトカム指標のうち、海外旅行客は増加傾向にあるが目標に及びませんでした。再訪したいと思う住民満足度は微増していることと、中部地方（5県）への国内来訪者数は目標を上回る達成状況となっていることから、目標に向けておおむね前進したといえます。

・ 総合的評価

もう一度訪れたいと思う魅力ある地域づくり活動が行われていると思う人が3割弱と低く、まちづくりリーダー育成が地方部以外では1割と極めて低い。しかしフランスの「ミシユラン」が発行しているガイドブック「ボワイヤジェ・プラティック・ジャポン」で三ツ星（わざわざ旅行する価値がある）となった高山を含む飛騨～長野～北陸沿岸では満足が5割と高く、高山への観光客も平成9年と同19年とでは約1.4倍となっています。

こうした成功事例を他地域にも応用発展させて、もう一度訪れたいと思う魅力ある地域づくりを進めることが重要です。

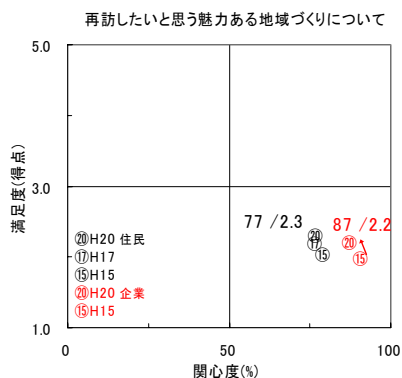
・ 目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（もう一度訪れたいくなるまちへの取り組み）

設問文(問 20)：あなたが住む地域では、もう一度訪れたいと思われるような魅力あるまちづくりの取り組みが行われていると思いますか

※平成 15・17 年度の設問文：あなたの住む地域は、もう一度訪れたいと思われるような魅力ある地域づくりの活動が進められていると思いますか



◆満足度：低

得点は住民・企業共に変化はありません。

◆関心度：高

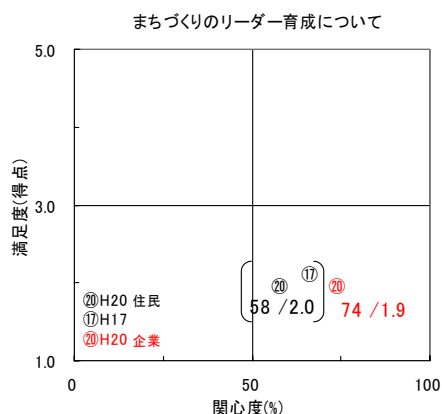
住民・企業共に 8~9 割と高い関心を示しています。

◆その他：

(まちづくりリーダーの育成)

設問文(問 22)：あなたの住む地域では、地域に誇りや愛着が持てるまちづくりのリーダーの育成が進んでいると思いますか

(平成 15・17 年度では、同種の内容の設問は実施されていない)



◆満足度：低

「わからない」が 3 割程度あるため、分析対象外としました。

◆関心度：中

他の設問と比較して、住民・企業共に関心度が低い。

◆その他：

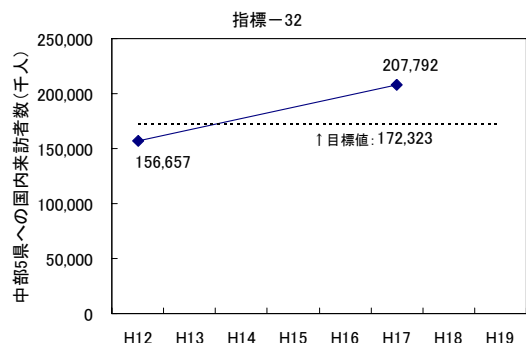
都市規模別では、大都市から都市規模が小さくなるにつれて「わからない」が減少し、満足度が増加するが、全体的に関心度は低い。

※() 書きは H20 の設問と H15, H17 の設問が一部異なる表現をしているため参考値として記載している。

- 象限①・・・関心度、満足度ともに高い ; 今後も現状維持が望まれる
 象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い ; 今後も現状維持が望まれる
 象限③・・・関心度、満足度がともに低い ; 施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある
 象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い ; ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

アウトカム指標の状況

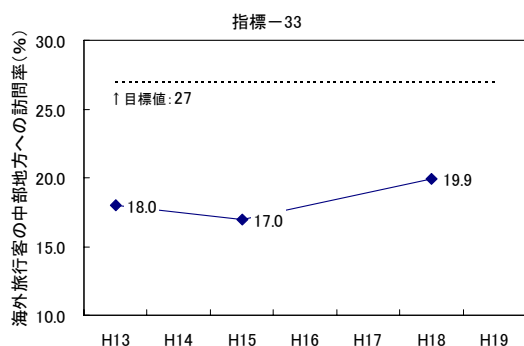
【中部地方（5県）への国内来訪者数；H12比1割増(H17)】



◆状況：○ 目標を達成

※算出の元データである「全国幹線旅客純流動調査」は5年毎の実施（平成12,17,22年度）となる。
 ※中部地方（5県）：長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県。

【海外旅行者の中部地方への訪問率；H13比5割増(H19)】

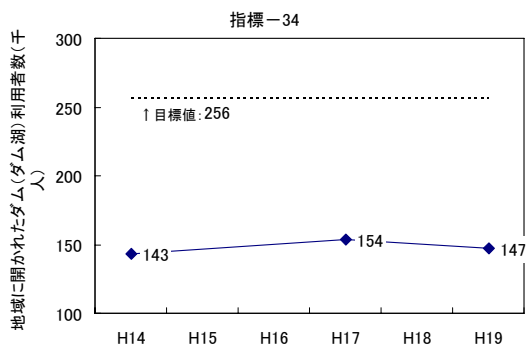


◆状況：× 未達成

平成13年度から増加していますが目標値には及びませんでした。

※算出の元データである国際観光振興機構（JNTO）「訪日外国人旅行者調査」（毎年調査）

【地域に開かれたダム（ダム湖）利用者数；約143千人(H14)→約256千人(H19)】



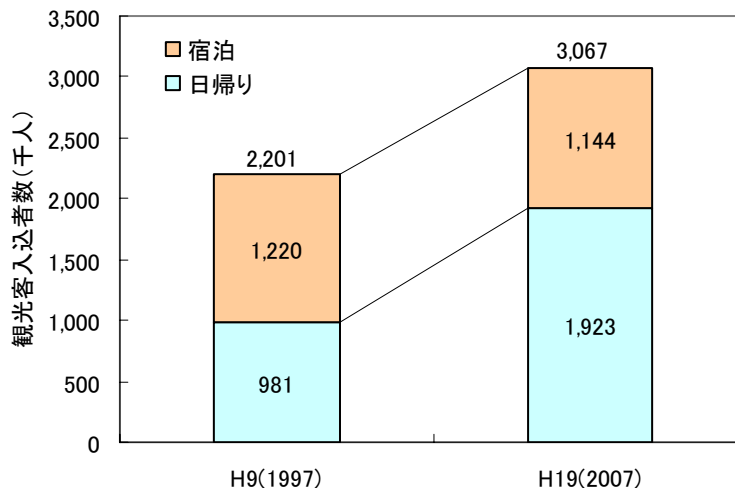
◆状況：× 未達成

目標値には及びませんでした。

【参考】

・高山地域(旧高山市)の観光入込客数の比較

高山地域(旧高山市)での年間観光客入込者数は平成9年で約220万人が平成19年には約307万人となっています。



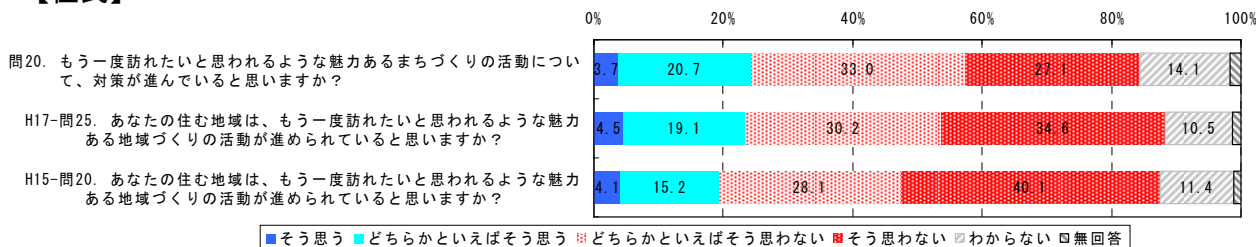
出典：高山市商工観光部「平成19年観光統計」

◆その他：住民意識調査(平成20年度)

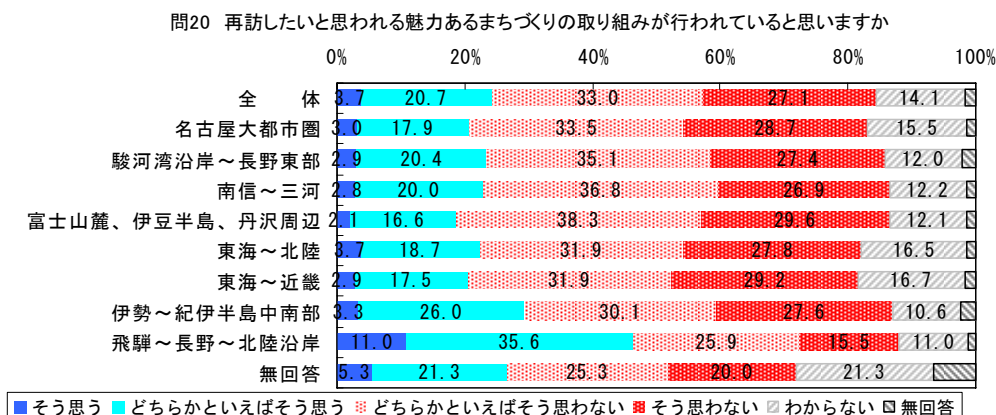
問20 もう一度訪れたいと思われるような魅力あるまちづくりの活動について

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたが住む地域では、このような取り組みが行われていると思いますか

【住民】



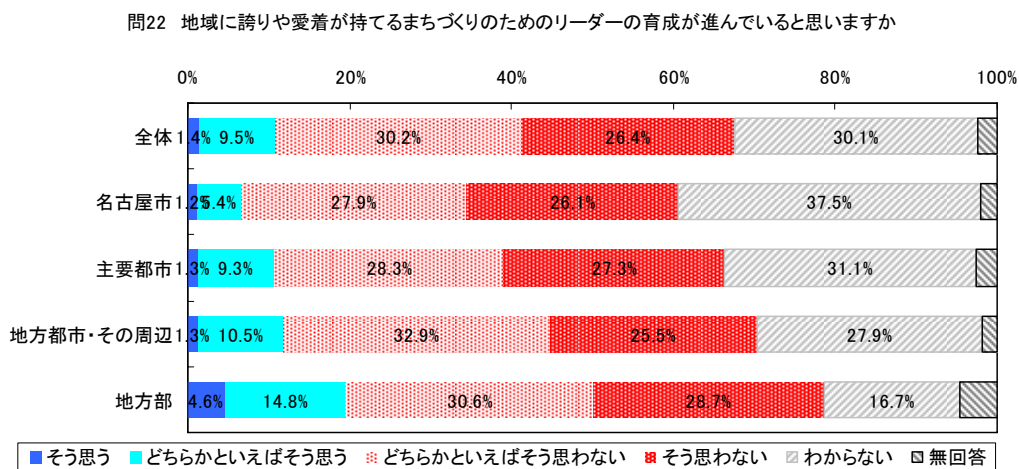
【住民・地域グループ別】



問22 地域に誇りや愛着が持てるまちづくりのためのリーダーの育成について

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたの住む地域では、そうしたリーダーの育成が進んでいると思いますか

【住民・都市規模別】



◆方向VI：誰もが生き生きと暮らせる豊かでゆったりとした生活環境の実現

方向VIの達成状況

住宅や官公庁施設のバリアフリー化や、あんしん歩行エリアや静岡駅の交通結節点をはじめとする公共空間のユニバーサルデザイン化がはかられました。また、水辺の楽校やボランティア・サポート・プログラム、住民とのワークショップ等によるまちづくりで住民と協働した地域づくりが進められました。公共空間のバリアフリー化率をはじめとするアウトカム指標も概ね達成しているものの、道路交通の死傷事故率や主要駅周辺道路のバリアフリー化など一部の目標が未達成です。また、住民満足度も増加傾向にあるものの全般的に低いことから「誰もが生き生きと暮らせる豊かでゆったりとした生活環境の実現へは課題が散見され、更なる取り組みが必要」といえます。

安全で安心して移動できる生活環境の形成では、交通事故対策に関するアウトカム目標が達成できず、かつ住民満足度も低く、さらに公共交通網の使いやすさも満足度が低いことから、交通事故多発に対するドライバー意識の向上も含め、交通事故を減らし歩行者や自転車が安心して移動できる道づくり、まちづくりが重要です。

またライフスタイルにあった住宅環境やまちづくりへの参加のしやすさについても住民満足度が低いことから、誰もがいきいきとした豊かにゆったりと暮らせる生活環境の実現に向け、更なる取り組みが重要です。

○主要プロジェクト

プロジェクト13 中部の豊かな住まいづくりプロジェクト

プロジェクト14 交通結節点（静岡等）ユニバーサルデザインプロジェクト

プロジェクト15 住民と協働した地域づくりプロジェクト

○各目標の達成度（アウトカム指標と意識調査の評価）

40の具体的な目標	目標の達成度	目標の継続性		
		アウトカム指標(総合)	意識調査の評価	
VI-1 住宅や住環境の水準を高め、健康でより豊かな住まいづくりを推進します	要検討	—	①→④	継続
VI-2 ニーズにあった住宅を安心して選択できる環境を整備します	要検討	—	(①→)④	継続
VI-3 公共交通機関の利便性を向上します	要検討	—	④	継続
VI-4 IT技術を活用した暮らしに役立つ情報を入手しやすくします	要検討	○	①→④	継続
VI-5 ユニバーサルデザインが実感できる社会を実現します	b	○	④	継続
VI-6 安全で安心に移動できる生活環境をつくります	要検討	×	④	継続
VI-7 誇りを持って住むことができる地域づくり・まちづくりを目指します	b	×	④	継続
VI-8 まちづくりや水辺・海辺づくり等を進めるグループ作りやその活動及び女性や子供の視点に立った活動を支援します	b	○	④	継続

※1 a:前進、b:概ね前進、c:前進とは言い難い

※2 意識調査の評価で④→①とはH15とH20との意識評価の変化を示している。また()は、設問内容が前回(H15)と一部異なるもの。

象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる

象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる

象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある

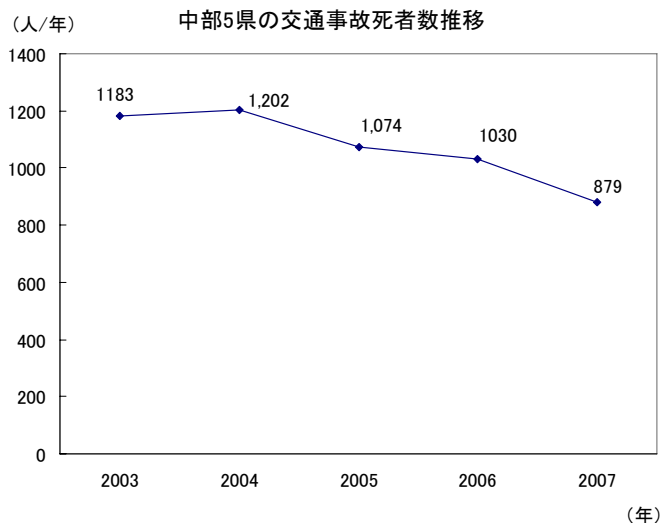
象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

○アウトカム指標の達成度

目標	指標名と目標値	初期値	実績値	目標値	達成度
VI-1	(指標設定なし)	—	—	—	—
VI-2	(指標設定なし)	—	—	—	—
VI-3	(指標設定なし)	—	—	—	—
VI-4	中部地方整備局ホームページアクセス数【H14比3割増(H19)(千件)】	1,810	45,444	2,353	達成
	施設管理用光ファイバー整備延長【約2,620km(H14)→約4,360km(H19)】	2,620	3,759	4,360	未達
VI-5	主要駅周辺道路のバリアフリー化率【32%(H14)→51%(H19)】	31	46	51	未達
	港湾旅客施設(旅客ターミナル、浮桟橋等)のバリアフリー化率【約64%(H14)→約78%(H19)】	64	79	78	達成
	既存官庁施設のハートビル改修率【73%(H14)→100%(H19)】	73	100	100	達成
	既存官庁施設のエレベータ整備率【30%(H14)→75%(H19)】	30	89	75	達成
VI-6	道路交通における死傷事故率(中部4県1市)【117件/億台km(H14)→約1割削減(H19)】	117	116	105	未達
VI-7	水辺交流体験拠点数【27箇所(H14)→52箇所(H19)】	27	44	52	未達
VI-8	住民やNPO等参加による都市域の公共空間確保量【H19までに約42%増加】	88	222	125	達成
	緑と水のある親水空間が確保された都市緑地等の割合【H19までに約14%増加】	189	222	215	達成
	川と海のクリーン大作戦参加者数【約51,000人(H14)→約61,200人(H19)】	51,000	42,000	61,200	未達
	中部地方整備局「いきいきモニター」における女性が占める割合【34%(H14)→50%(H19)】	34	36	50	未達
	中部地方整備局主催の見学会に女性及び子供が参加した人数【H14比約5割増(人)(H19)】	31,000	75,131	46,500	達成
	地域づくり討論会の実施数【H14比約5割増(H19)】	8	5~23	12	未達

【参考：5年間の動き】

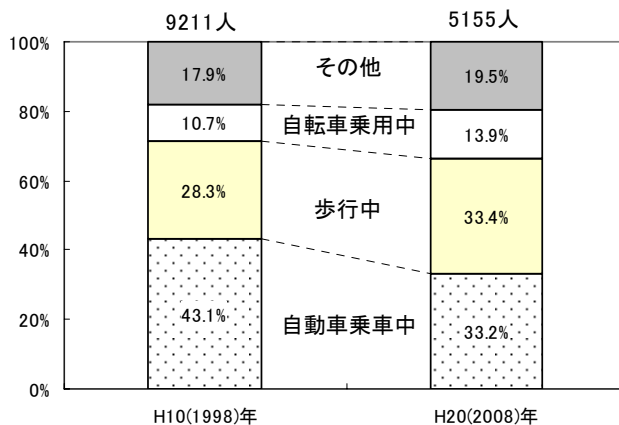
・中部5県の交通事故死者数の推移



出典：「東海エリアデータブック（データ：交通統計(警察庁)」・長野県ホームページ(統計情報)

・歩行中の交通事故死が最多

全国の平成20年の状態別の交通事故死者数について、その構成比をみると「歩行中」が33.4%となり、34年ぶりに最多となっています。



交通事故死者の状態割合

出典：警察庁交通局・平成21年1月29日記者発表資料「平成20年中の交通死亡事故の特徴及び道路交通法違反取締り状況について」

目標VI-1：住宅や住環境の水準を高め、健康でより豊かな住まいづくりを推進します

目標VI-2：ニーズにあった住宅を安心して選択できる環境を整備します

- ・ 生き生きとした少子・高齢社会を支える居住環境の整備を図ります。
- ・ 誰もが健康で豊かな生活をおくることができるよう、地域住民の多様なニーズに対応した住宅ストックの整備を図ります。
- ・ 地域住民が、それぞれのニーズに見合った住まいを多様な選択肢の中から安心して選べる住宅市場を形成します。

◆総評

・ 目標の達成状況：要検討

住民の関心はきわめて高いが、住民満足度は中位で地域的な差がなく、アウトカム指標で評価できないため、目標の達成状況を判定しにくく、検討を要するものと考えます。

・ 総合的評価

近年、住宅、住環境における耐震性、バリアフリー、環境性能等質の高い住宅、住環境が求められるようになってきていることから、引き続き、住宅性能の向上及び景観形成・保全にも配慮しつつ住環境を形成することが重要です。この際、都心居住については、住宅性能のみならず、周辺機能との連携にも配慮しつつ誘導を図り、多様なライフスタイル、ライフステージに応じて安心して選択できる環境を整えていくことが重要です。

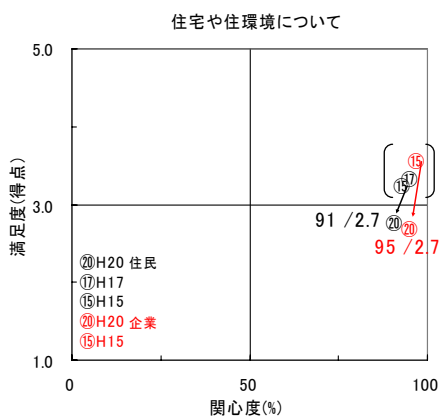
・ 目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（住宅環境の良好さ）

設問文（問 30）：あなたが住む地域の住宅環境は良好だと思いますか

※平成 15・17 年度の設問文：あなたの住む地域の住宅や住環境は、良好だと思いますか



◆満足度：中

得点は住民・企業共に減少しています。

◆関心度：高

住民・企業共に 9 割以上の高い関心を示しています。

◆その他：

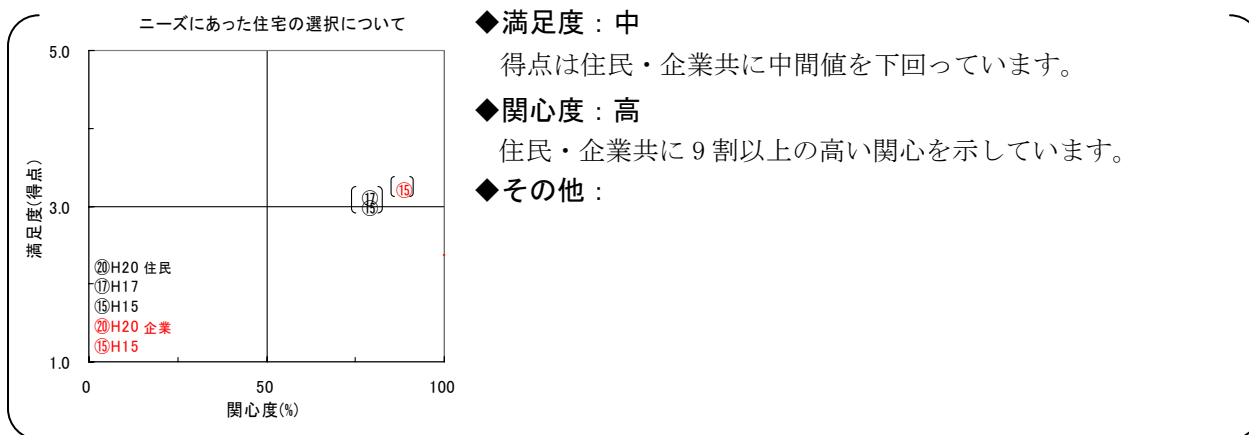
※この設問は平成 20 年度調査では、近似した設問で実施された。

※() 書きは H20 の設問と H15, H17 の設問が一部異なる表現をしているため参考値として記載している。

(ニーズにあった住宅の選択)

(平成 20 年は上記の設問に代替したため、実施していない)

※平成 15・17 年度の設問文：あなたの住む地域は、自分の暮らしぶりにあった住まいを探しやすい(選びやすい)状況にあると思いますか



◆満足度：中

得点は住民・企業共に中間値を下回っています。

◆関心度：高

住民・企業共に 9 割以上の高い関心を示しています。

◆その他：

※() 書きは H20 の設問と H15, H17 の設問が一部異なる表現をしているため参考値として記載している。

象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる

象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる

象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある

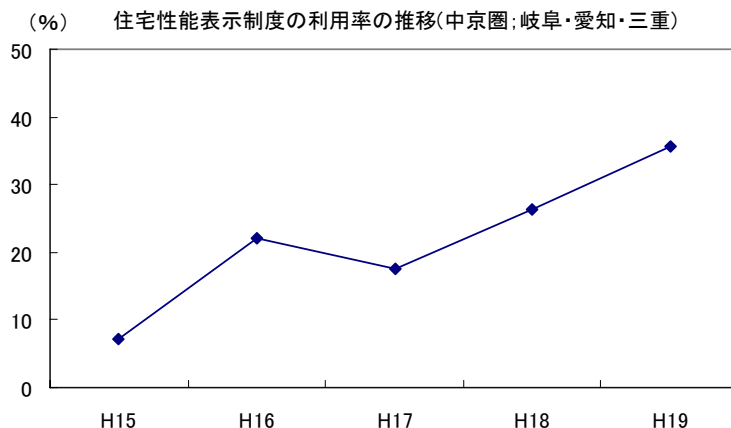
象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

アウトカム指標の状況

本目標に対してアウトカム指標は設定されていません。

しかし、同時期の中部圏（岐阜・愛知・三重）での住宅性能表示制度の利用率は高まってきていることから、安心できる住宅市場づくりは進んでいるともいえます。

【参考：中部圏における住宅性能表示制度の利用率】



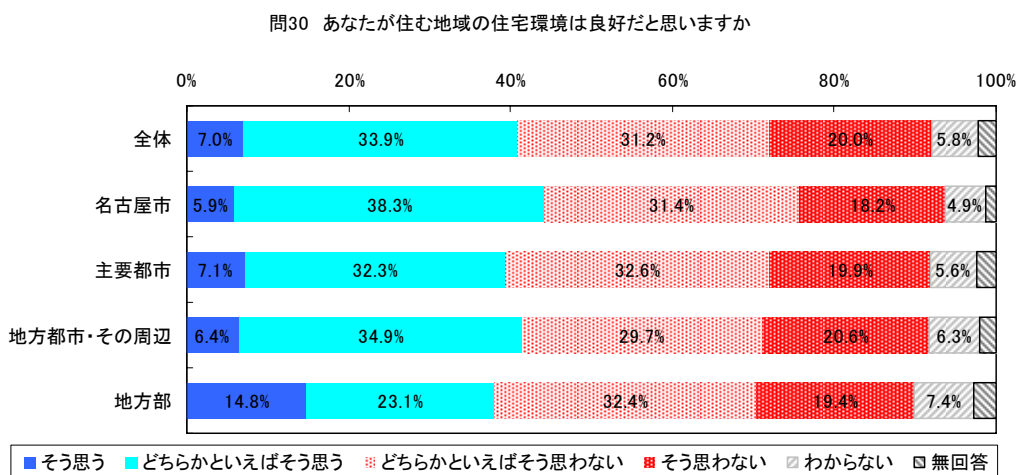
出典：「平成 19 年度住宅市場動向調査（国土交通省）」

◆その他：住民意識調査(平成 20 年度)

問 30 自分や家族の暮らし方にあった住宅環境(バリアフリーや耐震化, 住まい周辺の緑化)について

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたが住む地域の住宅環境は良好だと思いますか

【住民・都市規模別】



目標VI-3：公共交通機関の利便性を向上します

- ・ 自家用車を利用しなくても誰もが快適に移動できる公共交通輸送環境を向上させます。
- ・ コミュニティバスや乗合タクシーなど新しい輸送形態を念頭においた交通体系づくりを進めます。

◆総評

・ 目標の達成状況：要検討

本目標については住民の関心度は高いものの満足度は減少しており、地域別では地方部が都市部の半分程度の満足度となっています。アウトカム指標が設定されていないので評価はできませんが、目標の達成状況を判定しにくく、検討を要します。

・ 総合的評価

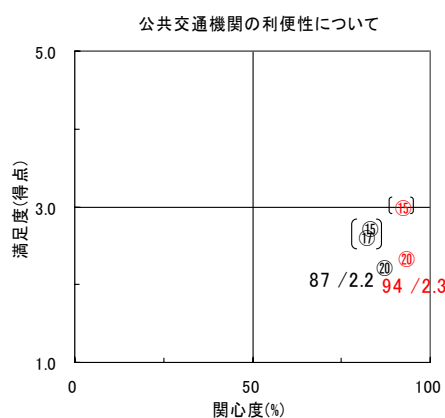
都市部と地方部の地域間の格差が生じつつあるため、地域特性に配慮した政策を講じる必要があります。超高齢社会においても高齢者が自立した生活が送れるよう、日常の移動手段として公共交通の確保が重要です。このため、都市部、地方部の特性に配慮した施策・事業の推進が、今後ますます重要です。

・ 目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（公共交通機関の使いやすさ）

設問文(問 29)：あなたが住む地域は、鉄道やバス・自転車などの交通手段を用いて暮らせると思いますか
 ※平成 15・17 年度の設問文：あなたの住む地域の公共交通機関は便利だと思いますか



◆満足度：低

得点は住民・企業共に低い。

◆関心度：高

住民・企業共に9割前後の高い関心を示しています。

◆その他：

※()書きはH20の設問とH15, H17の設問が一部異なる表現をしているため参考値として記載している。

- 象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる
- 象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる
- 象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある
- 象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

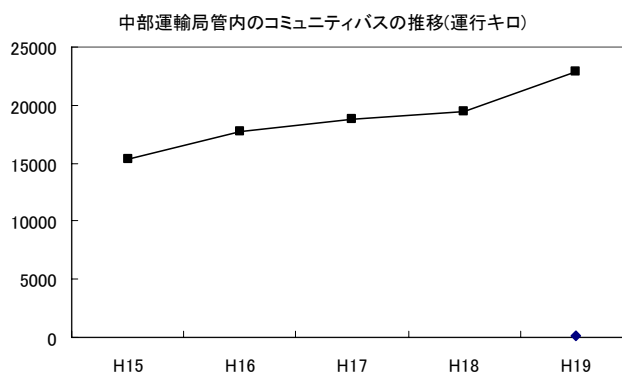
アウトカム指標の状況

本目標に対してアウトカム指標は設定されていません。

しかし、同時期の中部運輸局管内の乗合バスの走行キロがほぼ横ばいの中、コミュニティバスの運行キロは年々、延伸していて、地域の特色にあった交通体系づくりが進んでいることがわかります。

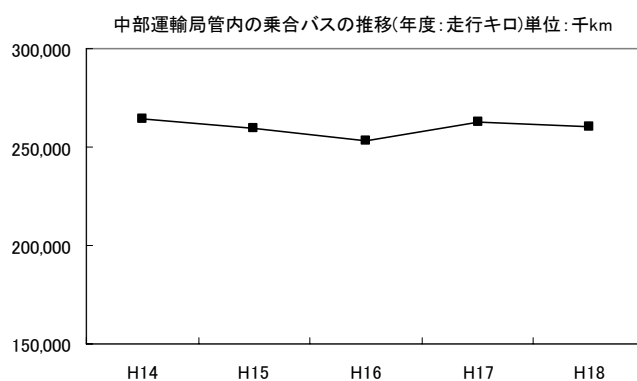
【参考】

・ 中部運輸局管内のコミュニティバス導入の推移



出典：数字で見る「中部の運輸」

・ 中部運輸局管内の乗合バスの走行キロの推移



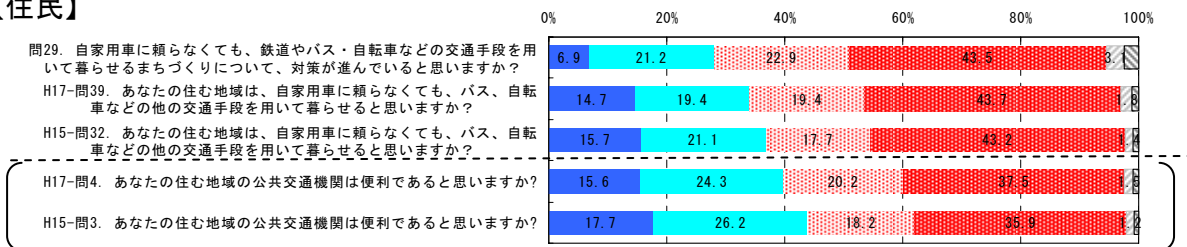
出典：数字で見る「中部の運輸 2008」

◆その他：住民意識調査(平成 20 年度)

問 29 自家用車に頼らなくても、鉄道やバス・自転車などの交通手段を用いて暮らせるまちづくりについて

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたが住む地域は、こうした交通手段を用いて暮らせると思いますか

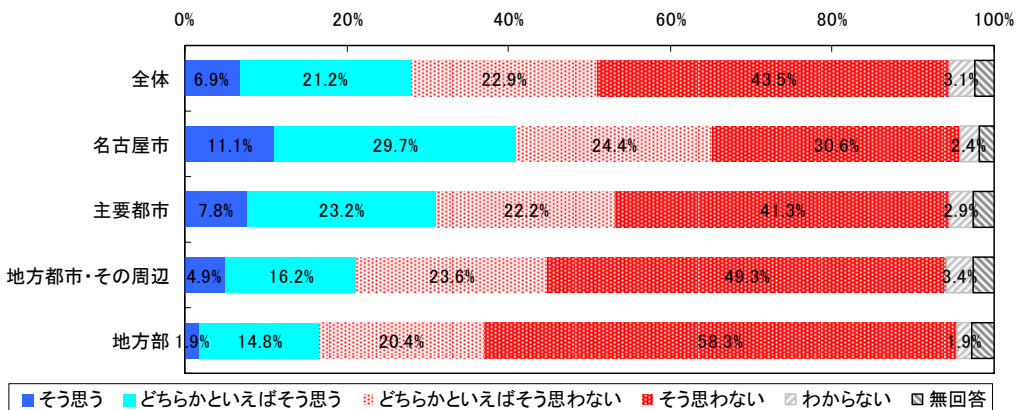
【住民】



※（ ）書きは H20 の設問と H15, H17 の設問が一部異なる表現をしているため参考値として記載している。

【住民・都市規模別】

問 29 あなたが住む地域は、鉄道やバス・自転車などの交通手段を用いて暮らせると思いますか



目標VI-4：IT技術を活用した暮らしに役立つ情報を入手しやすくします

河川・流域に関する情報や交通情報など暮らしに役立つ情報がいつでも身近なところで気軽に入手できるとともに、産業活動を高度化・迅速化する情報通信環境の整備を進めます。

◆総評

・目標の達成状況：要検討

施設管理用光ファイバー整備率のアウトカム指標は本目標の範疇として極めて限定的な指標であり、ホームページアクセス数についても、一定の把握手段として考えられますが目標設定当時からの社会的状況の変化を鑑み、目標の達成状況を判断しにくく、検討を要するものとします。

・総合的評価

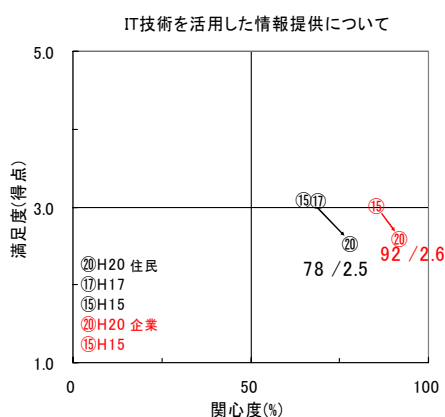
IT技術を活用した情報入手のしやすさについては住民・企業とも関心が高まってきていますが、提供する情報の質の向上、情報基盤の有効活用、都市と地方との情報量及びスピードの格差是正が重要であり、今後もより一層の取り組みが必要です。

・目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（災害情報等の入手の容易さ）

設問文(問33)：あなたが住む地域は、このような情報がいつでもどこでも入手しやすいと思いますか
 ※平成15・17年度の設問文：あなたの住む地域は、インターネットや携帯電話などを用いた暮らしに役立つ情報(防災情報、交通情報)が入手しやすいと思いますか



◆満足度：中

得点は住民・企業共に減少しています。

◆関心度：高

住民の関心度が7～8割に対し、企業の関心度は9割前後と高い。

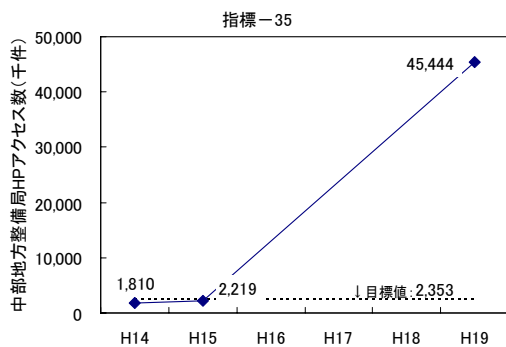
◆その他：

満足度の減少要因は不明ですが、携帯電話などが当たり前となったこと、情報量の増大や多種多様化によって、検索の不便さ(欲しい情報にたどり着けない)を招くことも推測されます。

- 象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる
- 象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる
- 象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある
- 象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

アウトカム指標の状況

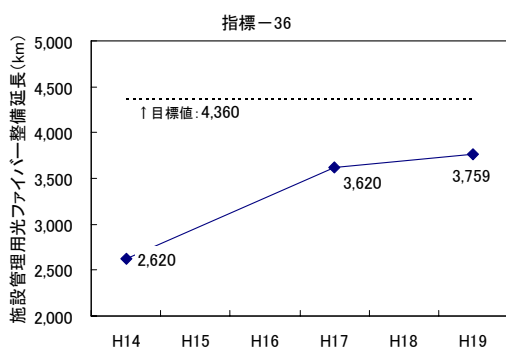
【中部地方整備局ホームページアクセス数；H14比3割増(H19)】



◆状況：○ 目標を達成

飛躍的にホームページへのアクセス数がのびており、目標値を大きく上回りました。

【施設管理用光ファイバー整備延長；約2,620 km(H14)→約4,360 km(H19)】



◆状況：× 未達成

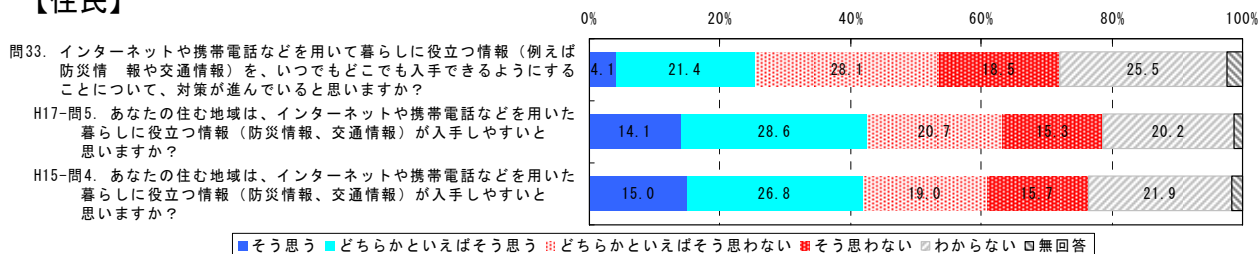
平成17年度以降は横ばいとなり、目標値に対して及びませんでした。

◆その他：住民意識調査(平成 20 年度)

問 33 インターネットや携帯電話などを用いて暮らしに役立つ情報(例えば防災情報や交通情報)を、いつでもどこでも入手できるようにすることについて

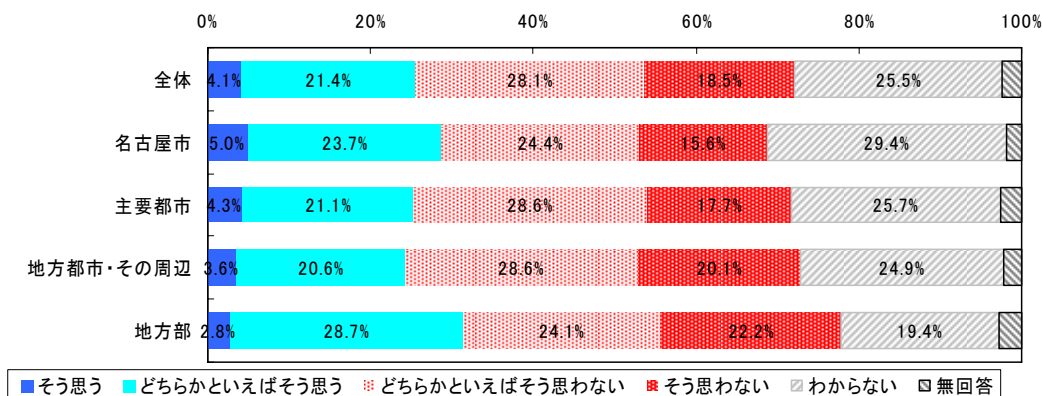
- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたが住む地域は、このような情報がいつでもどこでも入手しやすいと思いますか

【住民】



【住民・都市規模別】

問33 携帯電話等で情報(防災情報や交通情報など)を入手しやすいと思いますか



目標VI-5：ユニバーサルデザインが実感できる社会を実現します

都市公園等の公共施設、鉄道駅等の公共空間へのユニバーサルデザインの導入や外国の人にもわかりやすい案内情報の提供などを推進します。

◆総評

・目標の達成状況：おおむね前進

「主要駅周辺道路のバリアフリー化率」を除けばアウトカム指標は目標値を達成しており、また住民の満足度も増加していることから、ユニバーサルデザインの実感できる社会に向けておおむね前進したといえます。

・総合的評価

住民の関心度が高く、満足度が低いことから、施策・事業の効果が十分に反映されていないといえ、その理由として、主要駅周辺道路のバリアフリーを除き、利用者が限定的な施設が対象となっているからと考えられます。今後は主要駅のみならず、主要駅周辺道路を含めたバリアフリー化の推進が重要であり、ユニバーサルデザインが実感できる社会を実現できるよう、より一層の取り組みが必要です。

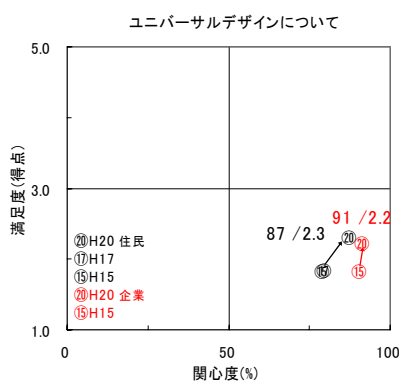
・目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（障害を感じず暮らせる配慮）

設問文（問 32）：あなたが住む地域の公共施設や駅・道路などは、誰もが使いやすい配慮がされていると思いますか

※平成 15・17 年度の設問文：あなたの住む地域では、ユニバーサルデザイン（誰にとっても利用しやすい建物や交通に配慮した整備の仕方）が行き届いていると思いますか



◆満足度：低

得点は住民・企業共に低いが、満足度は増加しています。

◆関心度：高

住民・企業共に8~9割と高い関心を示しています。

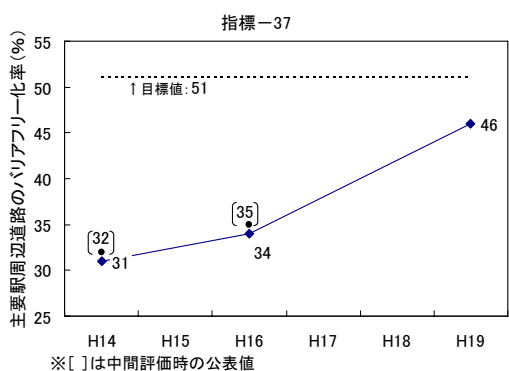
◆その他：

「配慮されている」が、名古屋市や主要都市、地方部で2割以上と比較的多い。

- 象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる
- 象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる
- 象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある
- 象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

アウトカム指標の状況

【主要駅周辺道路のバリアフリー化率；32% (H14)→51% (H19)】

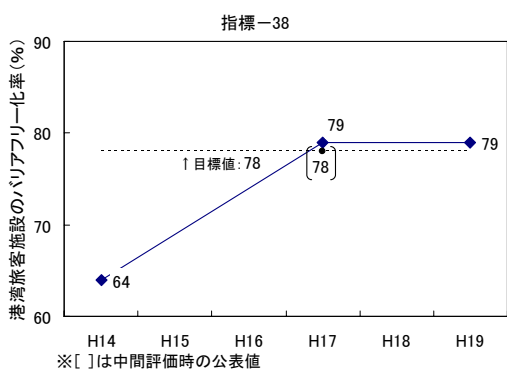


◆状況：× 未達成

増加傾向にありますが、目標値には及びませんでした。

- ※直轄国道のバリアフリー化率は目標を達成済
- ※補助国道・地方道は、用地買収・地元調整・事業優先度・予算確保等の制約のため整備が遅れています。
- ※平成 18 年度は、特定経路の延長、整備要件等を精査した結果、実績値が減少しています。
- ※中間評価時に集計方法の見直しも含め、目標値を再設定しています

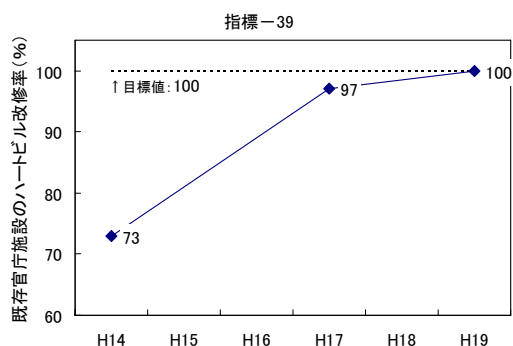
【港湾旅客施設（旅客ターミナル、浮桟橋等）のバリアフリー化率；約 64% (H14)→約 78% (H19)】



◆状況：○ 目標を達成

平成 17 年度に目標値を達成しました。

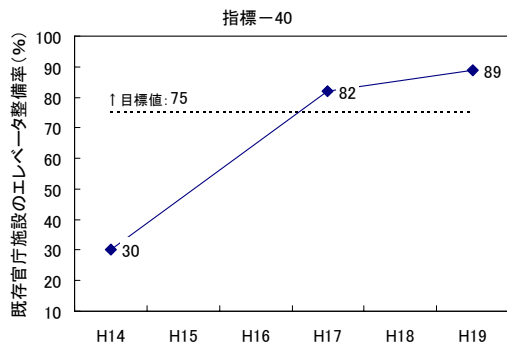
【既存官庁施設のハートビル改修率（73% (H14)→100% (H19)）】



◆状況：○ 目標を達成

目標値を達成しました。

【既存官庁施設のエレベータ整備率（30% (H14)→75% (H19)）】



◆状況：○ 目標を達成

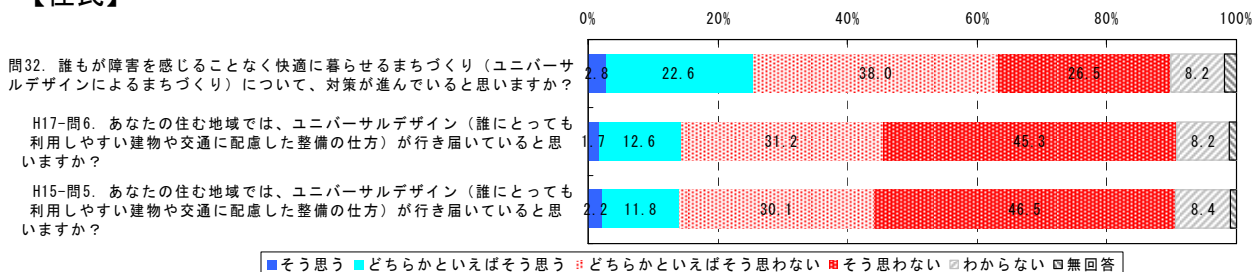
平成 17 年度に目標値を達成しました。

◆その他：住民意識調査(平成 20 年度)

問 32 誰もが障害を感じることなく快適に暮らせるまちづくり（ユニバーサルデザインによるまちづくり）について

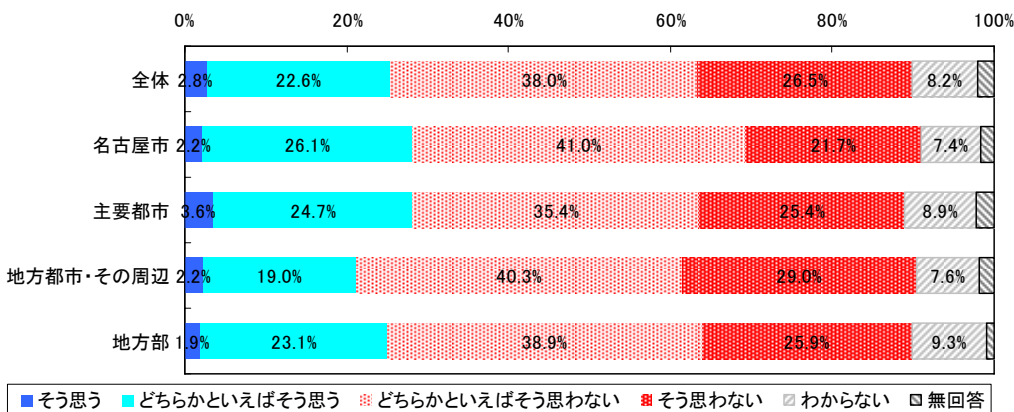
- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたが住む地域の公共施設や駅・道路などは、誰もが使いやすい配慮がされていると思いますか

【住民】



【住民・都市規模別】

問32 あなたの地域の公共施設や駅・道路等はユニバーサルデザインがされていると思いますか



目標VI-6：安全で安心して移動できる生活環境をつくります

交通安全対策の推進や、事故危険箇所の対策など事故等の未然防止と被害軽減を図るとともに、歩行者優先の道づくりや防犯対策など、誰もが安心して歩行できる生活道路を確保します。

◆総評

・目標の達成状況：要検討

あんしん歩行エリア事業など事故対策が進められてきており、交通事故による死者数そのものは減少しています。また事故対策を実施した箇所には、その対策効果が現れているもののアウトカム指標は大幅に悪化しており、住民満足度も変化がないことから全体として目標達成に至っていません。

・総合的評価

今後、さらなる事故危険箇所での施策・事業の重点化・見直しを図る必要があります。ただし、交通死傷事故の原因は、様々な要因が絡んでいることにも留意する必要があることから、特定地域、箇所等での原因をより詳細に分析するなど、一層効果的に施策・事業が実施できるよう見直しが必要です。更にドライバー自身の安全運転マナーの向上に向けた取り組みも重要です。

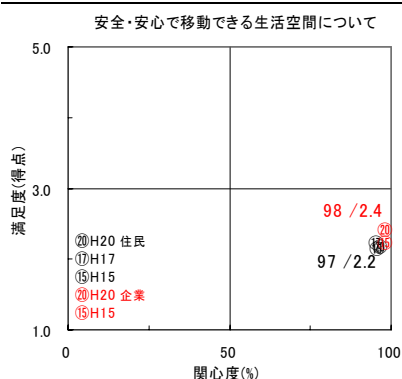
・目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（歩行者や自動車の安全安心な移動）

設問文（問5）：あなたが住む地域では、歩行者も自動車も安全で安心して移動できると思いますか

※平成 15・17 年度の設問文：あなたの住む地域は、自動車や歩行者が安全で安心して移動できると思いますか



◆満足度：低

得点は、住民企業共に変化はありません。

◆関心度：高

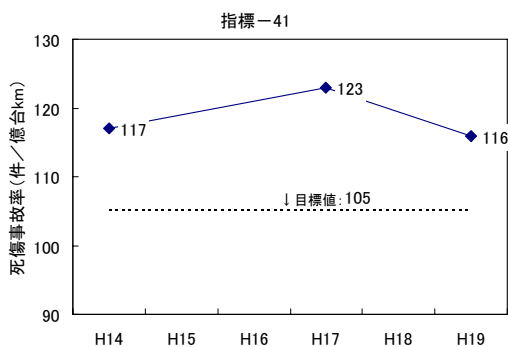
住民・企業共に9割以上の高い関心を示しています。

◆その他：

- 象限①・・・関心度、満足度ともに高い ; 今後も現状維持が望まれる
- 象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い ; 今後も現状維持が望まれる
- 象限③・・・関心度、満足度がともに低い ; 施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある
- 象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い ; ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

アウトカム指標の状況

【道路交通における死傷事故率（中部4県1市）；117件/億台km(H14)→約1割削減(H19)】



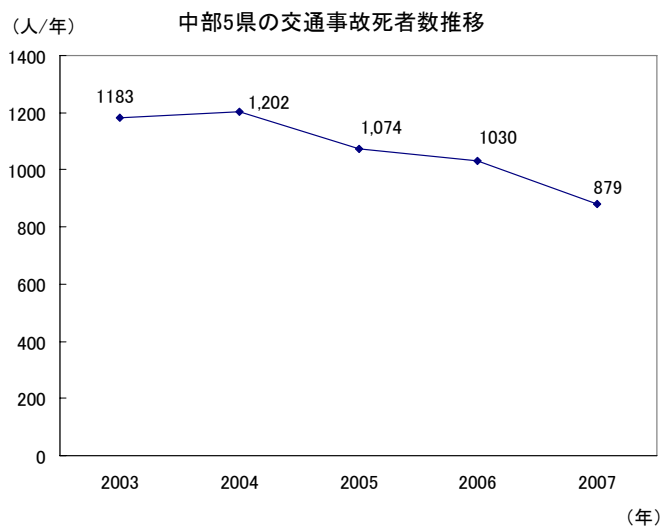
◆**状況：×** 未達成

死傷事故率は、中間評価時より減少しているものの、目標には達していません。

※中間評価時に数値を再設定しています

【参考：中部5県の交通事故死者数】

交通事故による死者数は減少傾向にあり、交通事故による死者をまねく重大な事故そのものは減少傾向にあるとできます。



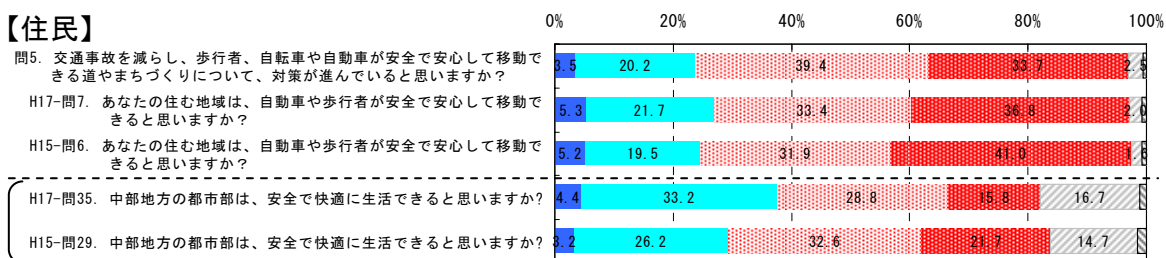
出典：「東海エリアデータブック（データ：交通統計(警察庁)」・長野県ホームページ(統計情報)

◆その他：住民意識調査(平成 20 年度)

問 5 交通事故を減らし、歩行者、自転車や自動車が安全で安心して移動できる道やまちづくりについて

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたが住む地域では、歩行者も自動車も安全で安心して移動できると思いますか

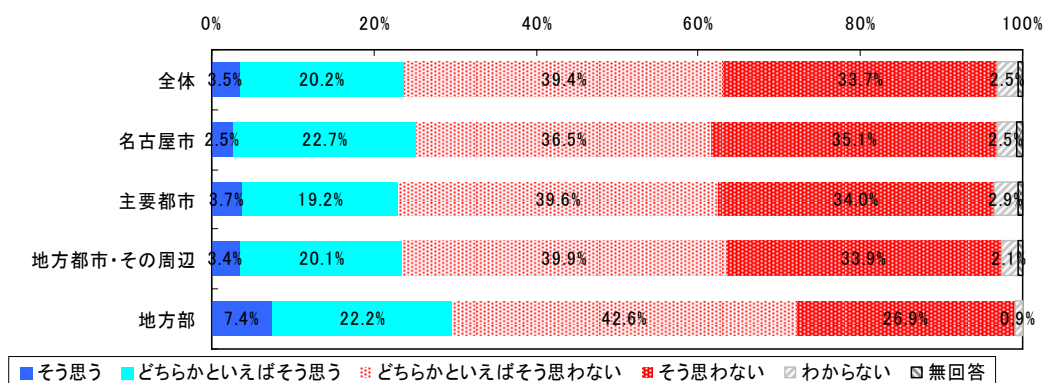
【住民】



※ () 書きは H20 の設問と H15, H17 の設問が一部異なる表現をしているため参考値として記載している。

【住民・都市規模別】

問5 交通事故を減らし、歩行者・自動車が安全で安心して移動できると思いますか



目標VI-7：誇りを持って住むことができる地域づくり・まちづくりを目指します

目標VI-8：まちづくりや水辺・海辺づくり等を進めるグループ作りやその活動及び女性や子供の視点に立った活動を支援します

- ・ 大都市や拠点都市以外の地方都市において便利で快適な生活をおくることができるように生活環境の向上を図ります。
- ・ 中心市街地（まちなか）の活性化や、子育てしやすい環境形成など充実した生活をおくることができる住み心地のよい地域づくりを目指します。
- ・ 地域住民の主体的な活動を支援して地域のコミュニティの醸成・活性化を図るとともに、住民参加型のまちづくりや水辺・海辺づくりを促進し、地域住民、企業など様々な主体と行政のパートナーシップによる地域づくりを推進します。
- ・ 各種のPI活動において、女性や子供の視点をもっと取り入れます。
- ・ 車座集会などにおいて女性と男性の参加者数を同数程度にします。

◆総評

・ 目標の達成状況：おおむね前進

設定されたアウトカム指標は、本目標の範疇で極めて限定的な指標ですが、設定された指標の一部が達成しており、まちづくりへの参加のしやすさについても住民意識が微増であることから、全体として概ね前進していると考えます。

・ 総合的評価

社会経済の成熟化によって、価値観が多様化した個人が主体的に地域づくりに関わっていくことが重視され、団塊世代やNPO等が主体となって豊かな地域社会を築いていくことが期待されていることから、これらのニーズに対応した施策・事業の再構築が必要です。また今後の地域づくりにおいては、多様な主体間のパートナーシップが重視されるため、多様な主体の活動を支援し、住民の理解醸成を高めていくべきです。特に、当該目標の指標にもある、公共空間の確保とその維持管理のための参加者の増加を図るためには、計画段階から多様な主体の参加を促し、協働型の維持管理の仕組みを構築していくことが必要です。

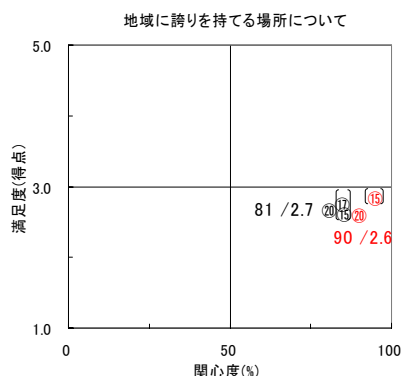
・ 目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（地域固有の資源を活かしたまちづくり）

設問文(問 19): あなたの住む地域では、地域の自然や文化を活かしたまちなみがあると思いますか

※平成 15・17 年度の設問文: あなたの住む地域は、誇りを持てるような場所やまちなみがあると思いますか



◆満足度：中

得点は住民・企業共に中間値を下回っています。

◆関心度：高

住民・企業共に 8～9 割と高い関心を示しています。

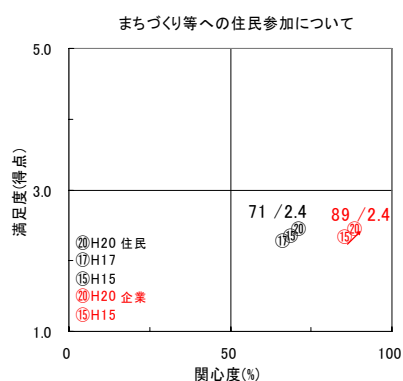
◆その他：

※() 書きは H20 の設問と H15, H17 の設問が一部異なる表現をしているため参考値として記載している。

(公への住民参加のしやすさ)

設問文(問 21): あなたの住む地域では、住民がまちづくりや環境保全活動などへの活動に参加しやすいと思いますか

※平成 15・17 年度の設問文: あなたの住む地域では、まちづくりや環境保全などへの住民参加がしやすいと思いますか



◆満足度：低

得点は住民・企業共に変化はありません。また、企業の「そう思わない」という強い不満は減少しました。

◆関心度：中

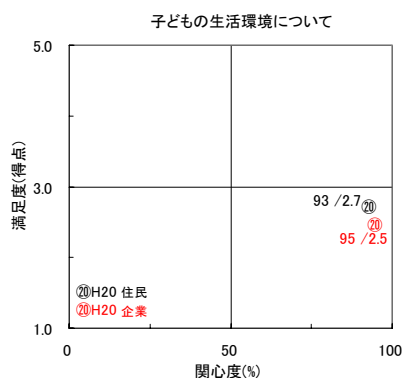
住民・企業共に関心度に変化はないが、企業の関心度は 9 割と高い。

◆その他：

都市規模別では、地方部が 5 割程度と都市部と比較して高い。

(子供の成長環境の良好さ)

設問文(問 31): あなたが住む地域では、子供がのびのびと安全に成長できる環境にあると思いますか
(平成 15・17 年度では同種の内容の設問は実施されていない)



◆満足度：中

得点は住民・企業共に高くはありません。

◆関心度：高

住民・企業共に 9 割以上の高い関心を示しています。

◆その他：

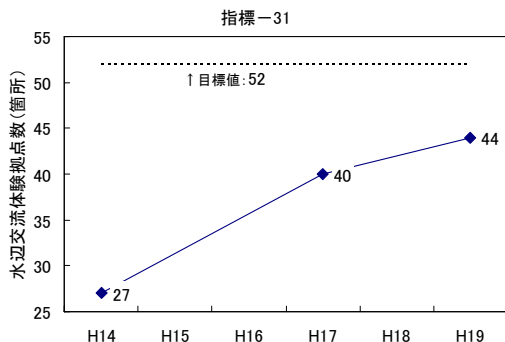
都市規模別では、「のびのびと成長できる環境にある」が、名古屋市の 3 割に対し、地方部は 6 割程度と高い。

※() は参考として記載

象限①・・・関心度、満足度ともに高い	；今後も現状維持が望まれる
象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い	；今後も現状維持が望まれる
象限③・・・関心度、満足度がともに低い	；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある
象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い	；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

アウトカム指標の状況

【水辺交流体験拠点数；27箇所(H14)→52箇所(H19)】



◆**状況：×** 未達成

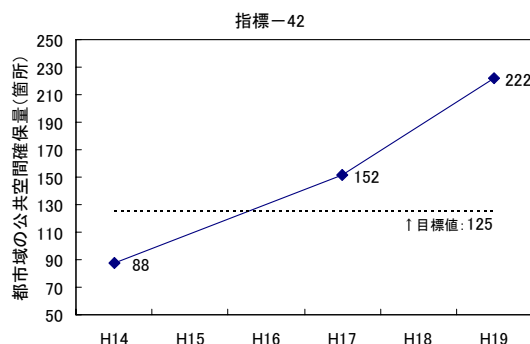
拠点数は増加していますが、目標値には及びませんでした。

※地元調整の影響による

※中間評価時に目標値を再設定しています

※H14,H17 値は中間評価時から見直しています

【住民やNPO等参加による都市域の公共空間確保量；H19までに約42%増加】

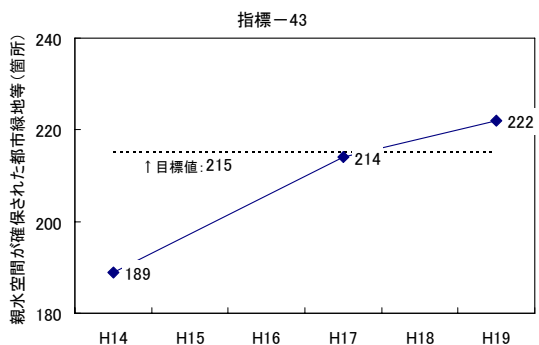


◆**状況：○** 目標を達成

大きく目標値を超えて、達成しました。

※算出根拠の見直し・精査を行ったため、当初の初期値等が異なる

【緑とうるおいある親水空間が確保された都市緑地等の割合；H19までに約14%増加】

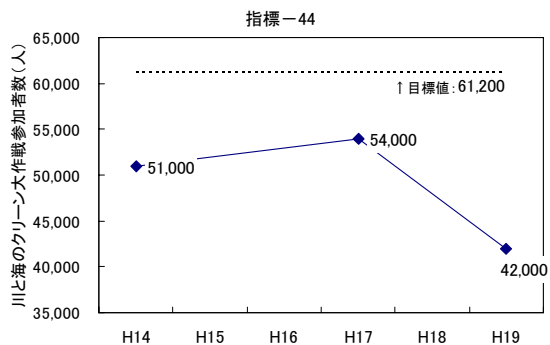


◆**状況：○** 目標を達成

順調に数値を伸ばし、目標値を達成しました。

※算出根拠の見直し・精査を行ったため、当初の初期値等が異なる

【川と海のクリーン大作戦参加者数；約51,000人(H14)→約61,200人(H19)】



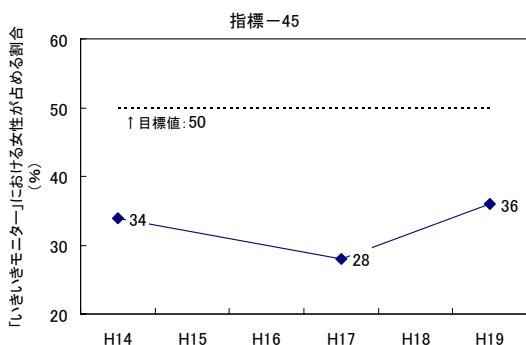
◆**状況：×** 未達成

増減しており、目標に達しませんでした。

※天候の影響による

アウトカム指標の状況

【中部地方整備局モニター「いきいきモニター」における女性が占める割合；34% (H14) →50% (H19)】

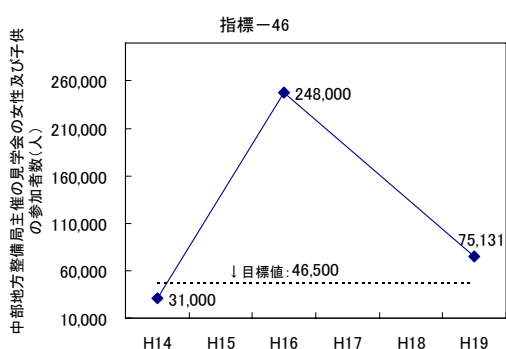


◆**状況：×** 未達成

整備局の一般住民モニター（毎年 30 名程度）に対する女性比率であり、目標の範疇の極めて限定的な指標なので今後検討が必要です。

なお整備局モニター以外にも女性懇談会や出先事務所における女性モニターの取り組みが進められています。

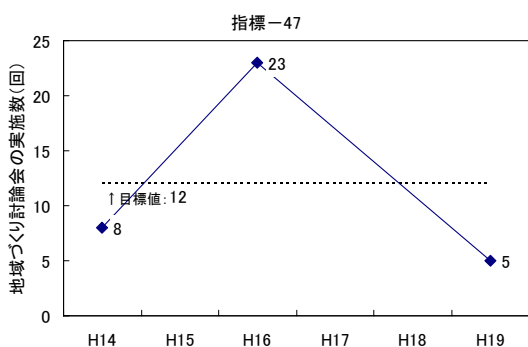
【中部地方整備局が主催する見学会に女性及び子供が参加した人数；H14 比約 5 割増 (H19)】



◆**状況：○** 目標を達成

値は上下しながらも目標値を達成しました。

【地域づくり討論会の実施数；H14 比約 5 割増 (H19)】



◆**状況：×** 未達成

年度により変動があり、目標に達しませんでした。

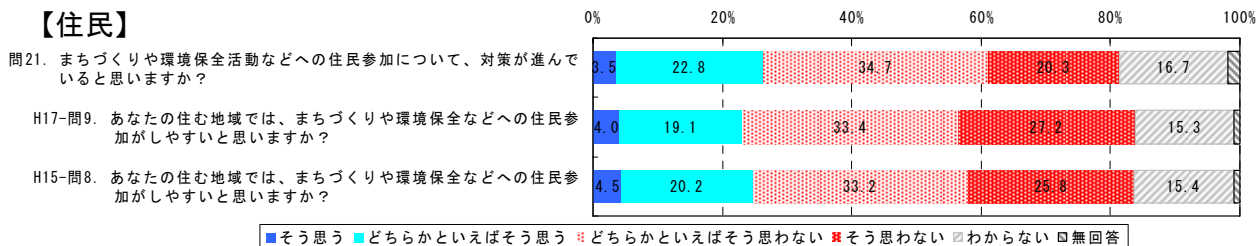
※まんなかビジョンフォローアップに関する地域づくり討論会の回数を対象としていますが、今後は地域に向けてどのような情報を効率よく発信し、住民ニーズを収集するかが重要であり、量より質への転換が重要です。

◆その他：住民・企業意識調査(平成 20 年度)

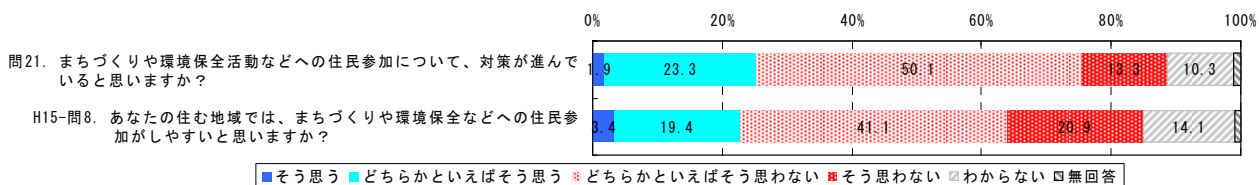
問 21 まちづくりや環境保全活動などへの住民参加について

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたの住む地域では、住民がこうした活動に参加しやすいと思いますか

【住民】

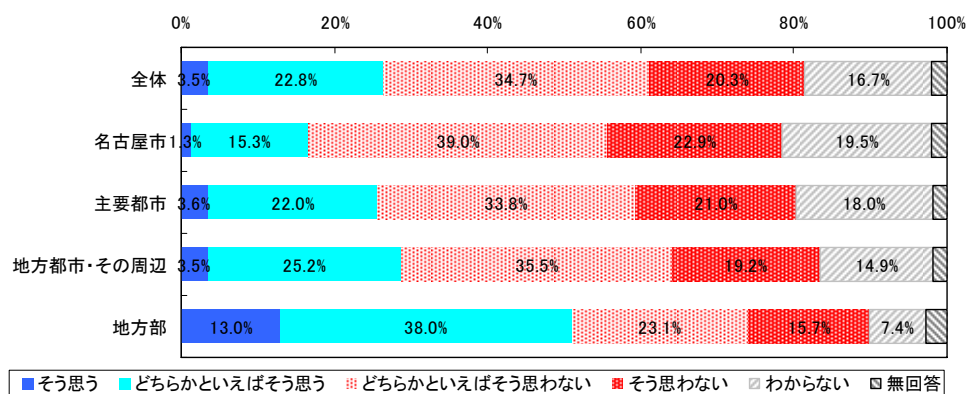


【企業】



【住民・都市規模別】

問21 あなたの住む地域では、住民がまちづくりや環境保全活動等に参加しやすいと思いますか

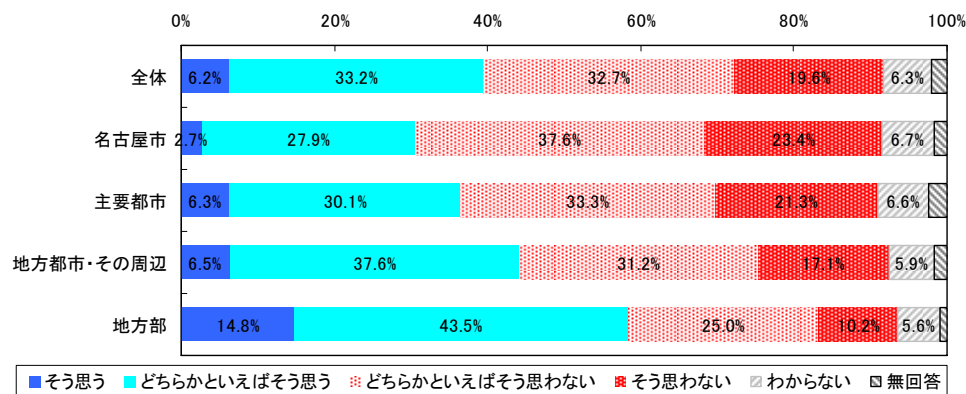


問 31 子供達のがのびのびと安全に成長できる生活環境づくりについて

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたが住む地域では、子供のがのびのびと安全に成長できる環境にあると思いますか

【住民・都市規模別】

問31 あなたが住む地域では、子供のがのびのびと安全に成長できる環境にあると思いますか



◆方向Ⅶ：東海・東南海・南海地震をはじめとした災害に強い安全・安心な地域づくり

方向Ⅶの達成状況

平成 12 年の東海豪雨災害をはじめとする様々な災害に対して治水治山対策が進められ、また発生が危惧される東海・東南海・南海地震に対する堤防や道路、港湾施設などの耐震強化が進められました。更にハザードマップ作成の取り組みが自治体で進められるなど、防災と減災、克災の取り組みが進められました。社会資本の耐震対策整備率をはじめとするアウトカム指標も概ね達成しており、災害対策に関する住民満足度が増加しているものの全体の半数程度にとどまるなど、一部に今後の検討が必要な項目があることから「東海・東南海・南海地震をはじめとした災害に強い安全・安心な地域づくりが概ね前進した」といえます。

そうした中、海岸保全施設の耐震化や東海地震等の発生における広域避難機能を有するオープンスペースの確保、津波・高潮による災害から一定の水準の安全性が確保されていない地域の解消などのアウトカム目標が達成できず、また住民意識はその時代や社会的背景の影響を受けやすいものの災害に対する関心が高く、現状の災害対策に満足している人は平成 15 年より向上していますが現在も全体の半数程度です。

こうしたことから、より一層の自然災害に備えた地域づくりや、災害に強い地域風土と体制の構築にむけた取り組みが重要です。

○主要プロジェクト

プロジェクト 16 東海・東南海・南海地震等対策強化プロジェクト

プロジェクト 17 風水害・渇水に強い地域づくりプロジェクト

プロジェクト 18 防災情報提供等プロジェクト

○各目標の達成度（アウトカム指標と意識調査の評価）

40 の具体的な目標	目標の達成度	評価		目標の継続性
		アウトカム指標（総合）	意識調査の評価	
VII-1 地震等に対する安全性を確保します	b	○	④	継続
VII-2 風水害(洪水・津波・高潮・土砂災害等を含む)・火山噴火災害・渇水等に対する安全性を確保します	b	○	④	継続
VII-3 あらゆる災害が発生した場合に被害を最小限に抑え、その対応・復旧が効率的に行えるようにします	b	○	④	継続
VII-4 信頼性のある社会資本を維持します	要検討	—	④	継続

※1 a:前進、b:概ね前進、c:前進とは言い難い

※2 意識調査の評価で④→①とは H15 と H20 との意識評価の変化を示している。また()は、設問内容が前回(H15)と一部異なるもの。

象限①・・・関心度、満足度ともに高い ; 今後も現状維持が望まれる

象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い ; 今後も現状維持が望まれる

象限③・・・関心度、満足度がともに低い ; 施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある

象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い ; ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

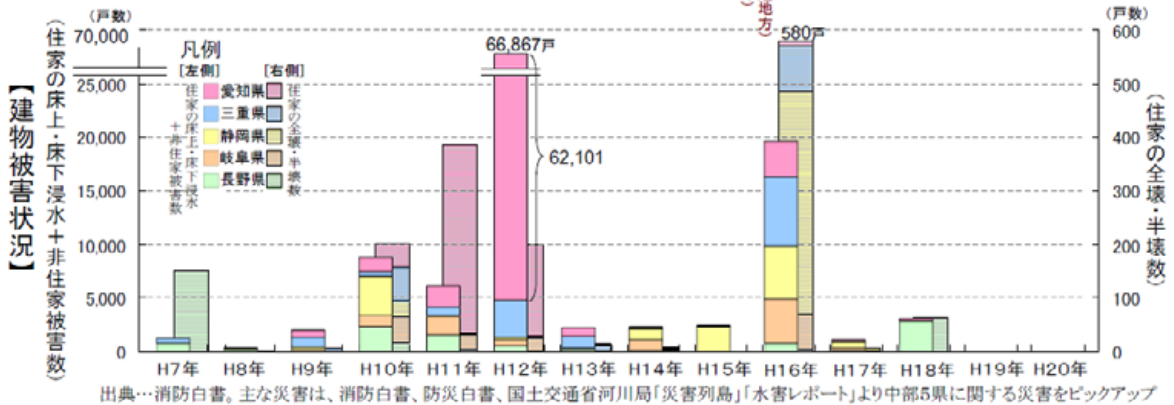
○アウトカム指標の達成度

目標	指標名と目標値	初期値	実績値	目標値	達成度
Ⅶ-1	主要緊急輸送路の橋梁耐震化率 【59%(H14)→100%(H19)】	59	99	100	達成
	河川及び海岸堤防の耐震対策整備率【約19%(H14)→約26%(H19)】	19	25	26	概ね達成
	海岸保全施設の耐震化が不十分な地域の解消 【約14,000ha(H14)→約12,000ha(H19)】	14,000	12,400	12,000	未達
	緊急物資輸送用耐震強化岸壁の整備率 【71%(H14)→73%(H19)】	71	74	73	達成
	耐震強化コンテナターミナルの整備率 【14%(H14)→43%(H19)】	14	43	43	達成
	防災拠点官庁施設の耐震対策化率 【62%(H14)→77%(H19)】	62	92	77	達成
Ⅶ-2	洪水の氾濫から守られる地域の割合 【約41%(H14)→約47%(H19)】	41	46	47	概ね達成
	床上浸水被害を緊急に解消すべき戸数 【約13,200戸(H14)→約4,300戸(H19)】	13,200	4,580	4,300	概ね達成
	洪水の流れに支障となっている橋梁数 【786橋(H14)→591橋(H19)】	786	665	591	未達
	津波・高潮による災害から一定の水準の安全性が確保されていない 地域の解消 【約23,000ha(H14)→約16,000ha(H19)】	23,000	16,421	16,000	未達
	土砂災害の危険から保全される戸数 【約74,000戸(H14)→約84,000戸(H19)】	74,000	84,000	84,000	達成
	土砂災害の危険から保全される戸数(うち災害弱者関連施設数) 【約350施設(H14)→約410施設(H19)】	350	410	410	達成
	漏水被害を軽減する貯水量確保率 【約54%(H14)→約86%(H19)】	54	86	86	達成
	下水道による都市浸水対策達成率(名古屋市) 【85%(H14)→94%(H19)】	85.0	93.1	94.0	概ね達成
Ⅶ-3	東海地震等の発災時における広域避難機能を有するオープンスペースが確保された箇所【132箇所(H14)→148箇所(H19)】	132	136	148	未達
	洪水ハザードマップ認知率 【約11%(H14)→約26%(H19)】	11	34.2	26	達成
	火山ハザードマップ認知率 【約36%(H14)→約80%(H19)】	36	44	80	未達
	津波ハザードマップ認知率 【約6%(H14)→約37%(H19)】	6	39.4	37	達成
	リアルタイムで防災情報が入手できると感じる人の割合 【約30%(H14)→約50%(H19)】	30	43.5	50	未達
	携帯電話からのアクセス数 【H14比2割増(H19)(万アクセス)】	1,742	34,424	2,090	達成
	災害復旧のための支援ルートが確保されている市町村数 【4市町村(H14)→9市町村(H19)】	4	6	9	未達
	災害対策機械の配備率 【48%(H14)→71%(H19)】	48	79	71	達成

【参考】

・中部地方の自然災害（平成7～18年度）

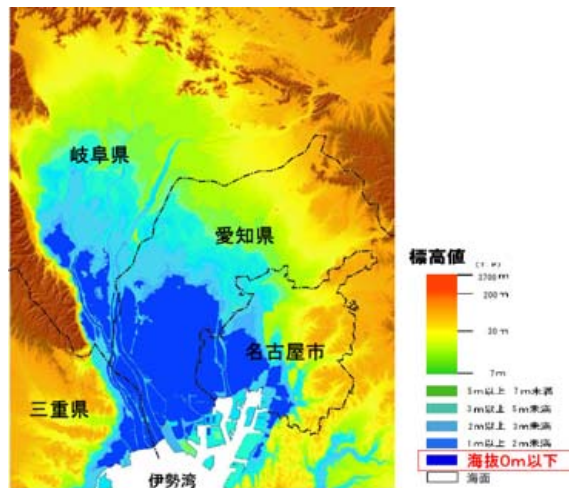
東海豪雨や平成16年の台風連続来襲による災害など、中部地方は数年単位で被災しています。



出典：国土交通省 中部地方整備局資料

・中部地方のゼロメートル地帯

日本最大のゼロメートル地帯（面積 336K m²）に人口約 90 万人が居住しています。

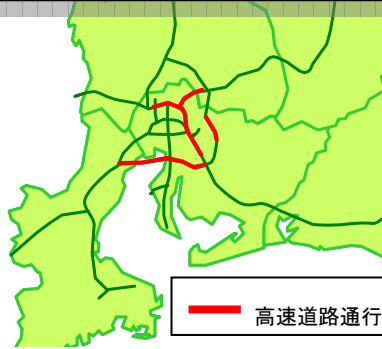


出典：国土地理院(数値地図50mメッシュ(標高))を基に作成

・豪雪による高速道路通行止による産業への影響を報じる記事

平成 17 年におきた名古屋圏での積雪によって、高速道路の通行止めや周辺道路の渋滞などにより部品等の流通に支障が生じ、操業停止となった、と報じています。

積雪による名古屋圏の高速道路通行止



— 高速道路通行止

トヨタの全工場 夜間操業を停止

トヨタ自動車は大雪による交通状況の悪化を受け、二十三日夜の工場の稼働を停止した。愛知県、岐阜県、静岡県にある生産工場も含まれ、すべての生産ラインを止めた。その後、振り替え稼働日を設けるなどで「大きな影響は出ない」（広報部）としている。

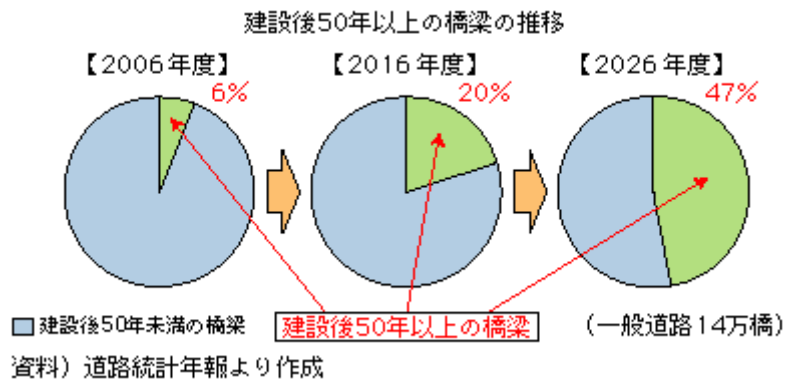
稼働を止めたのは「二直目」と呼ばれる夕方から夜中にかけての勤務。日中は生産ラインを動かしたが、高速道路の通行止めや周辺道路の渋滞などで部品納入や完成車輸送に支障が出ており、夜の稼働を止めた。

部品供給などに影響が出るため、愛知県外にあるグループ会社の工場も一部が操業を停止した。トヨタは八月にも台風の影響で生産を止めた。

【日本経済新聞H17.12.24】※この記事は、日本経済新聞社の許諾を得て転載しています

・全国の建設後 50 年以上の橋梁数の推移予測

今後、我が国の橋梁の大量更新(メンテナンス)が必要となります。



目標Ⅶ-1：地震等に対する安全性を確保します

- ・ 地震に強い住宅等の整備・改修を進め、社会資本や公共建築物の耐震性を高めます。
- ・ 密集市街地における道路、公園等の整備を行うことによって防災空間を確保します。

◆総評

・ 目標の達成状況：おおむね前進

当該目標のアウトカム指標は、全てアウトプット型であるものの施設の耐震化が着実に進められていることもあり、アウトカム指標は目標を達成、または達成に至らずとも着実に向上しており、住民の満足度も低いながらも増加しました。

以上から目標に向けて、おおむね前進したといえます。

・ 総合的評価

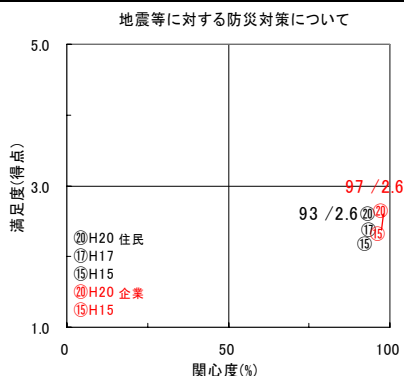
住民の関心度は非常に高く、満足度が低い状況にあり、当地域の地震等に対する安全性の確保を進める必要があります。また、東海・東南海・南海地震の発生が危惧され、かつ、台風等との複合的災害により被害が大規模・広範に及ぶ恐れが危惧されるため、社会資本の耐震化、代替機能等を一層強化することが重要であり、今後もこうした目標に対する取り組みが極めて重要です。

・ 目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（大規模地震対策）

設問文（問2）：あなたは、大地震による道路や河川堤防、住宅などの倒壊に対する防災対策が進んでいると思いますか
 ※平成 15・17 年度の設問文：あなたの住む地域では、地震に対する住宅や道路・河川堤防などの防災対策が進んでいると思いますか



◆満足度：低→中

得点は 2.2～2.6 と中間値より低いですが、満足度は増加しています。

◆関心度：高

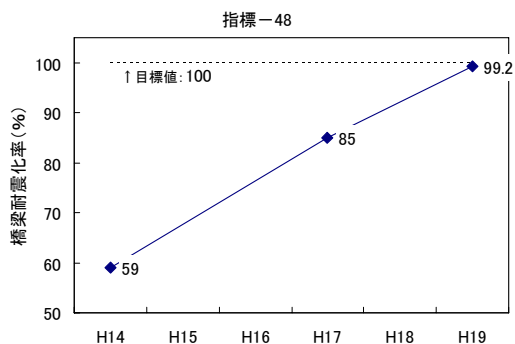
住民・企業共に 9 割以上の高い関心を示しています。

◆その他：

- 象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる
- 象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる
- 象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある
- 象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

アウトカム指標の状況

【主要緊急輸送路の橋梁耐震化率；59% (H14)→100% (H19)】

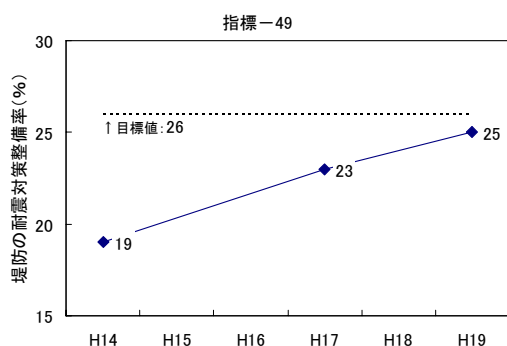


◆**状況：○** 目標を達成

目標値を0.8%下回っていますが、達成したとみなしました。

※目標未達成橋梁は6橋で現在、事業中

【河川及び海岸堤防の耐震対策整備率；約19% (H14)→約26% (H19)】

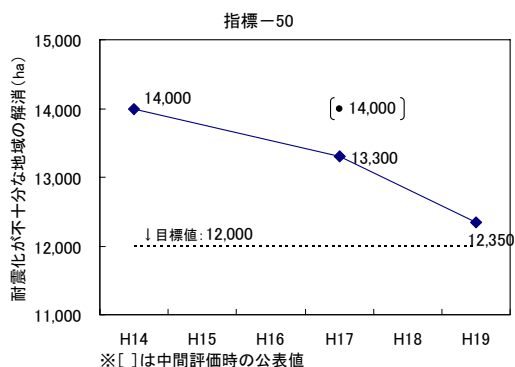


◆**状況：△** 概ね達成

平成14年度から順調に伸びていますが、わずかに目標値に及びませんでした(目標値に対する増加率が90%以上であり、△としました)。

※中間評価時に集計方法の見直しも含め、目標値を再設定しています

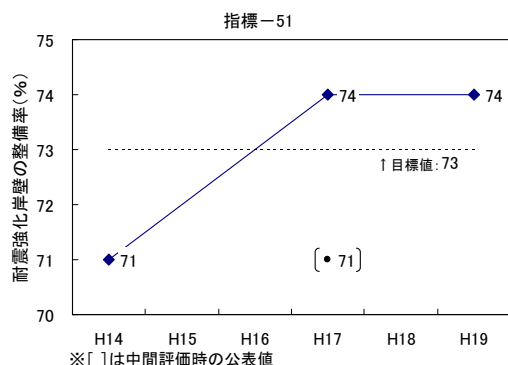
【海岸保全施設の耐震化が不十分な地域の解消；約14,000ha (H14)→約12,000ha (H19)】



◆**状況：×** 未達成

順次、解消されていきましたが、目標値には及びませんでした。

【緊急物資輸送用耐震強化岸壁の整備率；71% (H14)→73% (H19)】

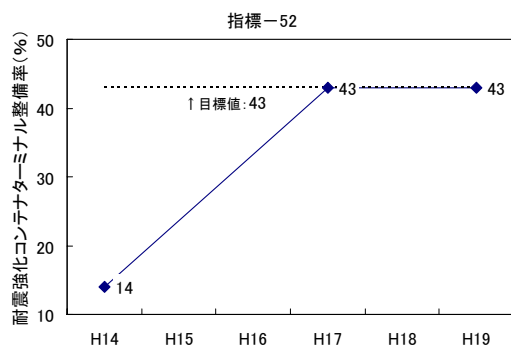


◆**状況：○** 目標を達成

平成17年度に目標値を達成しました。

アウトカム指標の状況

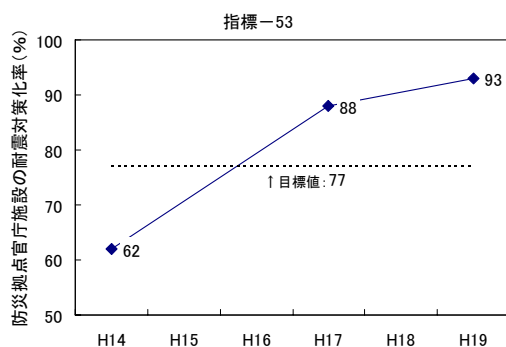
【耐震強化コンテナターミナルの整備率；14% (H14) →43% (H19)】



◆状況：○ 目標を達成

平成 17 年度に目標値を達成しました。

【防災拠点官庁施設の耐震対策化率；62% (H14) →77% (H19)】



◆状況：○ 目標を達成

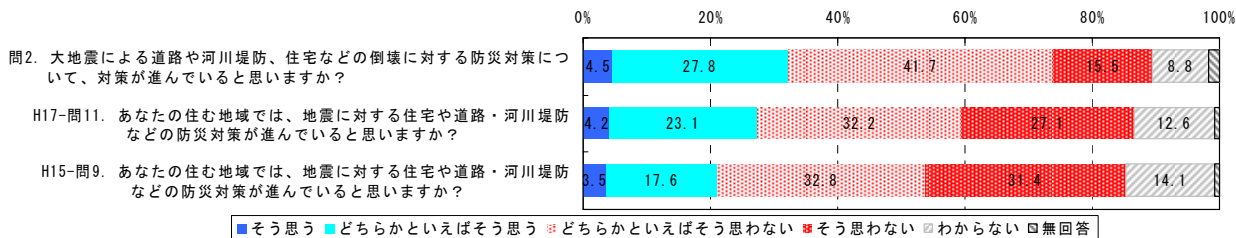
平成 17 年度で目標値を上回る形で達成しました。

◆その他：住民・企業意識調査(平成 20 年度)

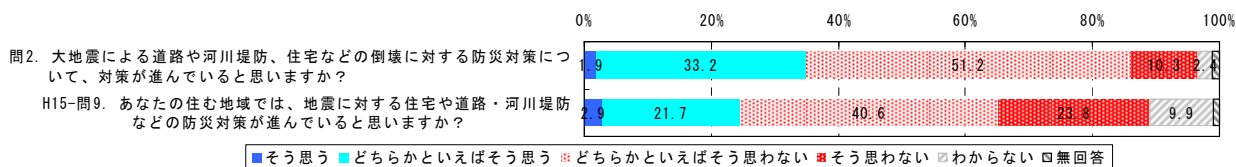
問 2 大地震による道路や河川堤防、住宅などの倒壊に対する防災対策について

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたは、このような対策が進んでいると思いますか

【住民】

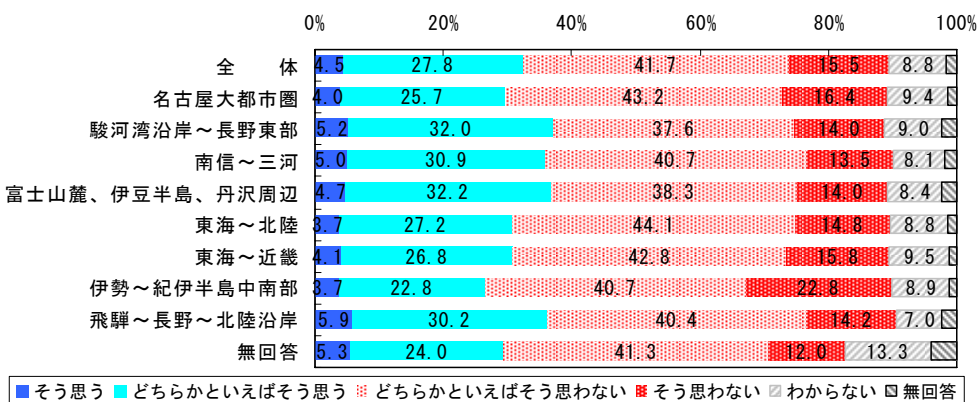


【企業】



【住民・地域グループ別】

問2 大地震による道路や河川堤防等の防災対策が進んでいると思いますか



目標Ⅶ－２：風水害等（洪水・津波・高潮・土砂災害等を含む）・火山噴火災害・渇水等に対する安全性を確保します

- ・ 既存ダムの有効活用や河川改修、下水道整備による洪水被害の軽減を図ります。
- ・ 豪雪地帯における積雪、凍結等による交通障害、豪雨地帯における土砂災害等による交通分断等を軽減します。
- ・ 安全の確保されたりダンダンシーの高い道路ネットワークの形成・強化により、風水害等によって日常生活圏が分断されることのない安全な地域を形成します。
- ・ 近年多発する渇水に対応するため、水資源の安定的な確保や合理的な水利用を図ります。

◆**総評**

・ **目標の達成状況：おおむね前進**

当該目標のアウトカム指標は、全てアウトプット型であるものの治山治水対策が着実に進められていることもあり、アウトカム指標は目標を達成、または達成に至らずとも着実に向上しており、住民の満足度も低いながらも増加しました。

以上から目標に向けて、おおむね前進したといえます。

・ **総合的評価**

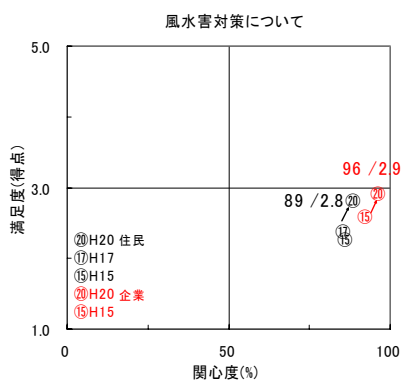
近年、台風、集中豪雨等により災害が頻発するなか、一層効率的効果的な施策・事業の展開が必要であり、山林・農地等の保全（保水能力強化）による総合治水対策、災害危険区域や土砂災害警戒区域等における土地利用の誘導等を進めることが重要です。

・ **目標の継続性：継続**

◆**指標の達成状況**

意識調査（洪水等の自然災害対策）

設問文（問1）：あなたは、洪水・津波・高潮・土砂崩れ等の自然災害への対策が進んでいると思いますか
 ※平成 15・17 年度の設問文：あなたの住む地域では、洪水・津波・高潮・土砂災害・豪雪等の災害に対する対策が進んでいると思いますか



◆**満足度：低→中**

得点は 2.3～2.9 と中間値より低いですが、満足度は増加しています。

◆**関心度：高**

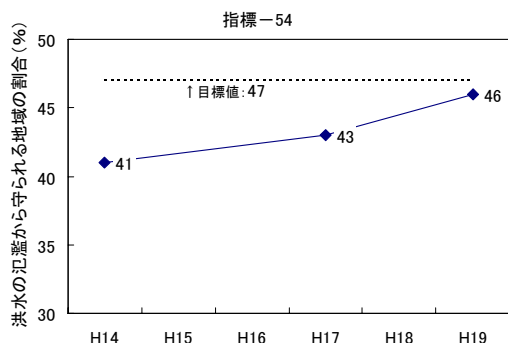
住民・企業共に 9 割前後の高い関心を示しています。

◆**その他：**

- 象限①・・・ 関心度、満足度ともに高い ; 今後も現状維持が望まれる
- 象限②・・・ 関心度は低いものの満足度は高い ; 今後も現状維持が望まれる
- 象限③・・・ 関心度、満足度がともに低い ; 施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある
- 象限④・・・ 関心度は高いが、満足度が低い ; ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

アウトカム指標の状況

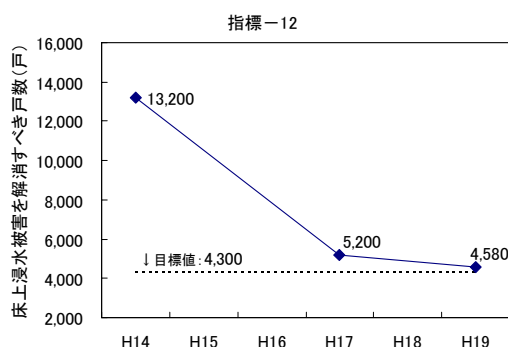
【洪水の氾濫から守られる地域の割合；約41% (H14)→約47% (H19)】



◆**状況：△** 概ね達成

わずかながら目標値に及びませんでした(目標値に対する増加率が90%以上であり、△としました)。

【床上浸水被害を緊急に解消すべき戸数；約13,200戸 (H14)→約4,300戸 (H19)】

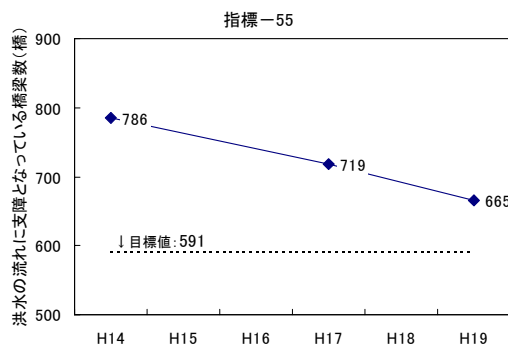


◆**状況：△** 概ね達成

わずかながら目標値に及びませんでした(目標値に対する減少率が90%以上であり、△としました)。

※当該目標設定後、幾度も発生した災害への対策に伴う集中投資により、当初予定していた事業が遅れたため
 ※中間評価時に集計方法の見直しも含め、目標値を再設定しています

【洪水の流れに支障となっている橋梁数；786橋 (H14)→591橋 (H19)】

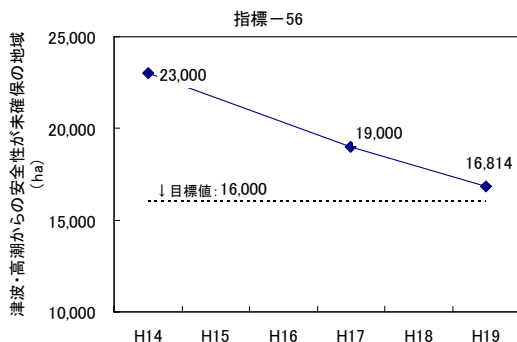


◆**状況：×** 未達成

順調に減少しましたが、目標値は達成できませんでした。

※当該目標設定後、幾度も発生した災害への対策に伴う集中投資により、当初予定していた事業が遅れたため
 ※中間評価時に目標値を再設定しています

【津波・高潮による災害から一定の水準の安全性が確保されていない地域の解消；約23,000ha (H14)→約16,000ha (H19)】



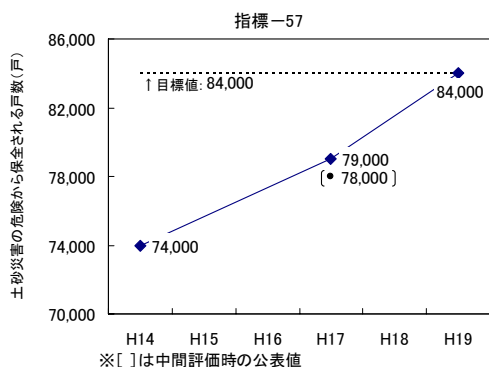
◆**状況：×** 未達成

順調に解消地域を広げてきましたが、目標値には及びませんでした。

※関係者間の調整による遅れ

アウトカム指標の状況

【土砂災害の危険から保全される戸数（約 74,000 戸 (H14)→約 84,000 戸 (H19)）】

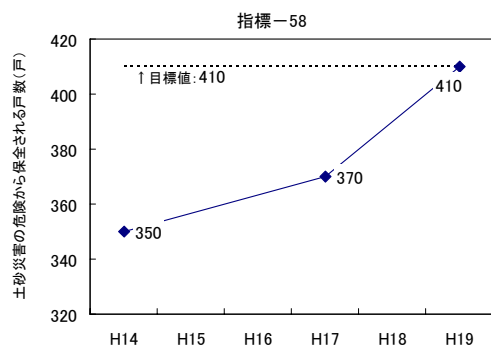


◆**状況**：○ 目標を達成

順調に数値を伸ばし、目標値を達成しました。

※当該指標は中部4県及び、中部地方整備局直轄事業区域として算出。

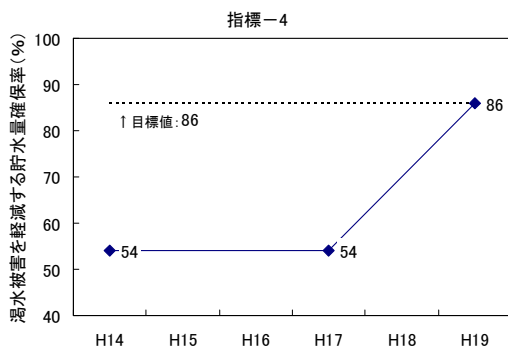
【土砂災害の危険から保全される戸数（うち災害弱者関連施設数）（約 350 施設 (H14)→約 410 施設 (H19)）】



◆**状況**：○ 目標を達成

目標値を達成しました。

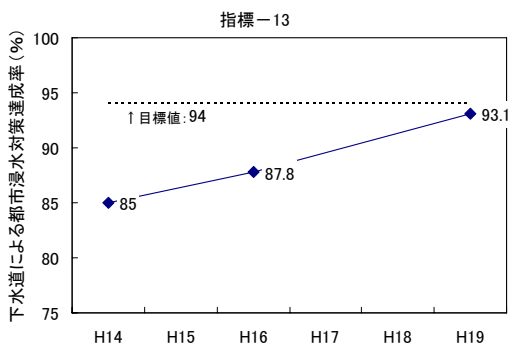
【渇水被害を軽減する貯水量確保率；約 54% (H14)→約 86% (H19)】



◆**状況**：○ 目標を達成

平成19年度の徳山ダムの整備によって目標値を達成しました。

【下水道による都市浸水対策達成率（名古屋市）；85% (H14)→94% (H19)】



◆**状況**：△ 概ね達成

わずかながら目標値に及びませんでした(目標値に対する増加率が90%以上であり、△としました)。

着実に数値を伸ばしており、都市浸水対策が図られているとできます。

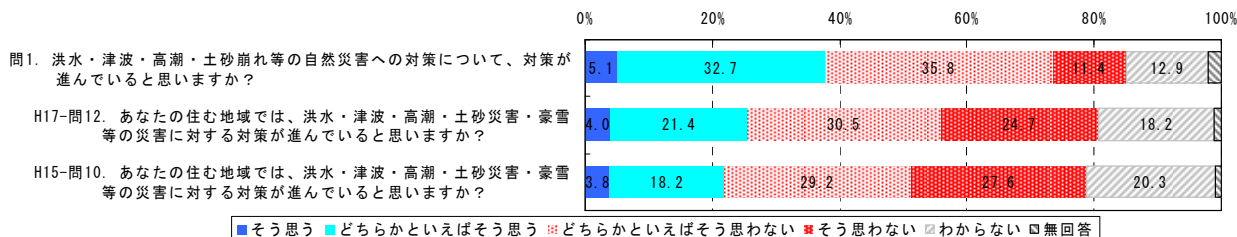
※地元調整による事業実施の遅れによる

◆その他：住民・企業意識調査(平成 20 年度)

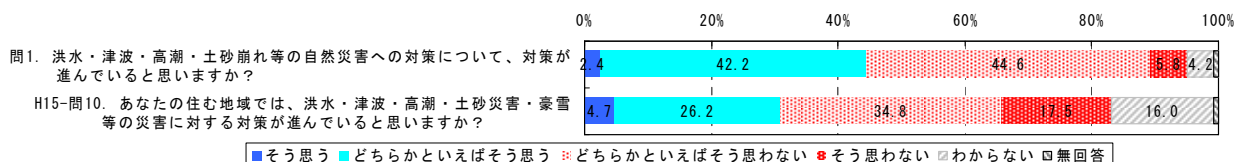
問1 洪水・津波・高潮・土砂崩れ等の自然災害への対策について

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたは、このような対策が進んでいると思いますか

【住民】

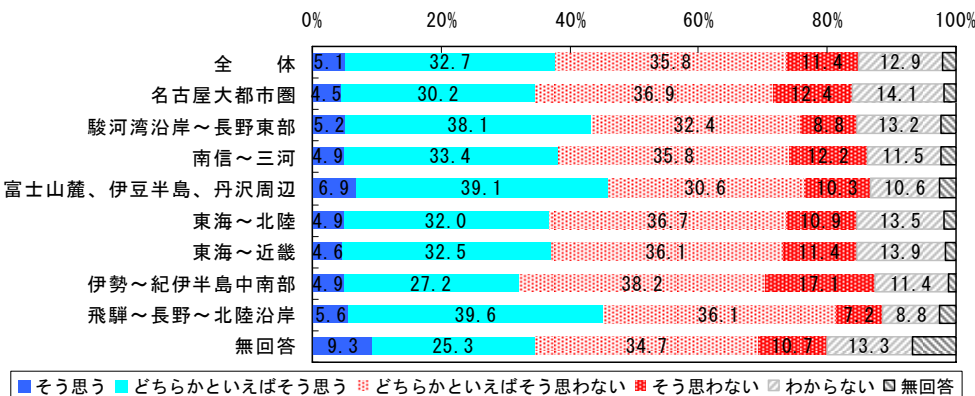


【企業】



【住民・地域グループ別】

問1 洪水・津波・高潮・土砂崩れ等の自然災害への対策が進んでいると思いますか



目標Ⅶ-3：あらゆる災害が発生した場合に被害を最小限に抑え、その対応・復旧が効率的に行えるようにします

- ・ 国、県、市町村等での防災情報の共有化を図り、ハザードマップの公表や地域防災ネットワークを形成・強化し、地域住民への災害情報の迅速な提供を行うとともに、帰宅困難者の避難誘導などの防災対策を推進します。
- ・ 安心して避難できる避難路・避難地や広域防災拠点を整備し、二次災害等による被害拡大を防ぎます。
- ・ 日頃から早急に復旧できる体制を確保します。

◆**総評**

・ **目標の達成状況：おおむね前進**

災害が発生した時の避難地や避難路の整備やハザードマップやリアルタイムな災害情報などの提供の充実が着実に図られたため、アウトカム指標の目標を達成、または達成に至らずとも着実に向上しており、住民満足度も低いながらも増加しました。以上から目標に向けて、おおむね前進したといえます。

・ **総合的評価**

住民の関心度は非常に高く、満足度は中間値であるため、あらゆる災害が発生した場合に被害を最小限に抑え、その対応・復旧が効率的に行えるよう、施策・事業の更なる充実が必要であり、今後より一層の効率的、重点的な施策・事業の展開が重要です。

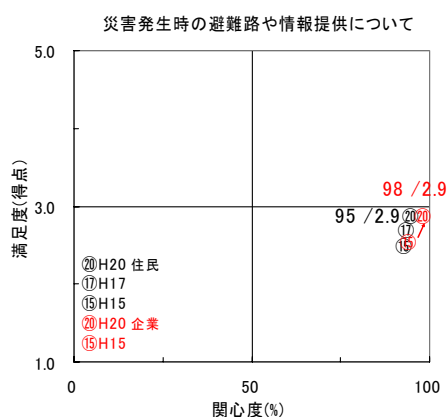
・ **目標の継続性：継続**

◆**指標の達成状況**

意識調査（避難路確保・災害情報提供）

設問文(問4)：あなたの住む地域では、災害が発生した時の避難地・避難路の確保や災害情報の提供の対応が進んでいると思いますか

※平成 15・17 年度の設問文:あなたの住む地域は、あらゆる災害に対して、避難地・避難路の整備や情報提供の対策が進んでいると思いますか



◆ **満足度：中**

得点は 2.5～2.9 と中間値より低いが、満足度は増加しています。

◆ **関心度：高**

住民・企業共に 9 割以上の高い関心を示しています。

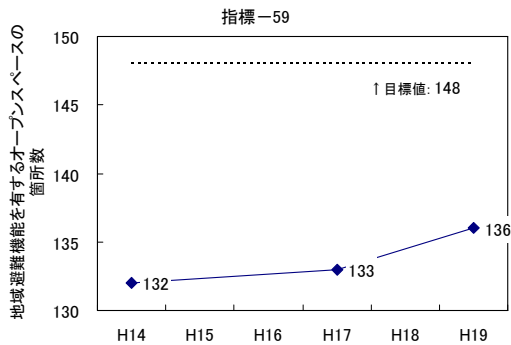
◆ **その他：**

- 象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる
- 象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる
- 象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある
- 象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

アウトカム指標の状況

【東海地震等の発災時における広域避難機能を有するオープンスペースが確保された箇所；

132箇所(H14)→148箇所(H19)】

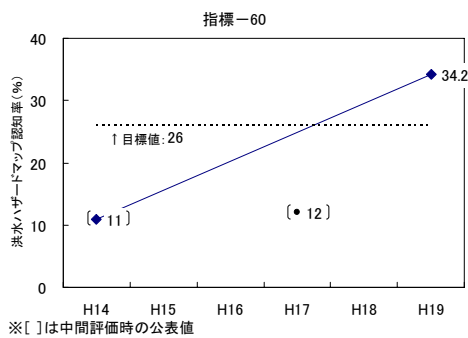


◆**状況：×** 未達成

箇所は増加していますが、目標値を下回りました。

※算出根拠の見直し・精査を行ったため、当初の初期値等が異なる

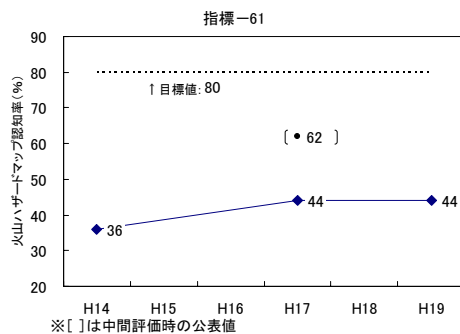
【洪水ハザードマップ認知率；約 11% (H14)→約 26% (H19)】



◆**状況：○** 目標を達成

目標値を達成しました。

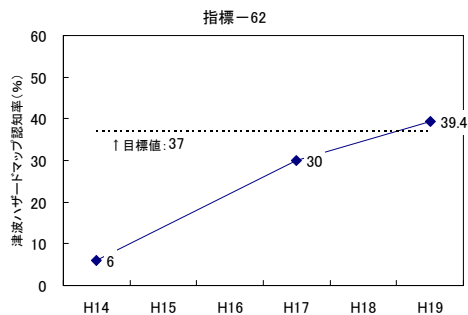
【火山ハザードマップ認知率；約 36% (H14)→約 80% (H19)】



◆**状況：×** 未達成

近年はほぼ横ばいであり、目標値に及びませんでした。

【津波ハザードマップ認知率；約 6% (H14)→約 37% (H19)】

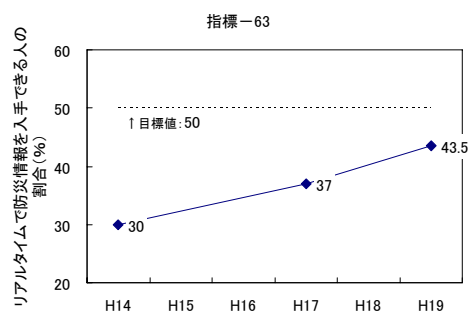


◆**状況：○** 目標を達成

順調に数値を伸ばし、目標値を達成しました。

アウトカム指標の状況

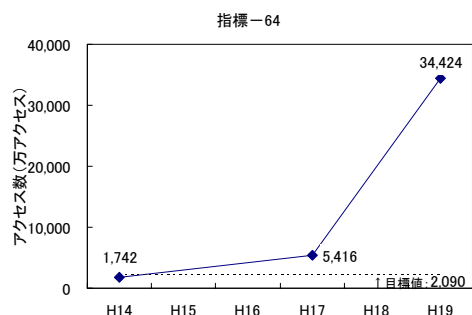
【リアルタイムで防災情報が入手できると感じる人の割合；約30% (H14)→約50% (H19)】



◆状況：× 未達成

順調に数値を伸ばしていますが、目標値には及びませんでした。

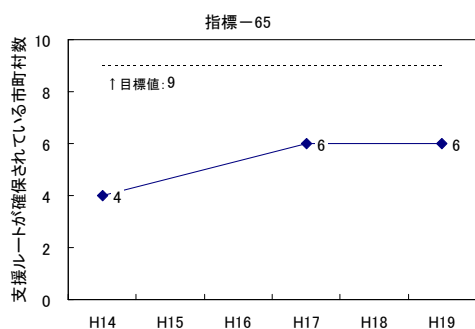
【携帯電話からのアクセス数；H14比2割増(H19)】



◆状況：○ 目標を達成

目標値を大きく超えて達成しました。

【災害復旧のための支援ルートが確保されている市町村数；4市町村(H14)→9市町村(H19)】

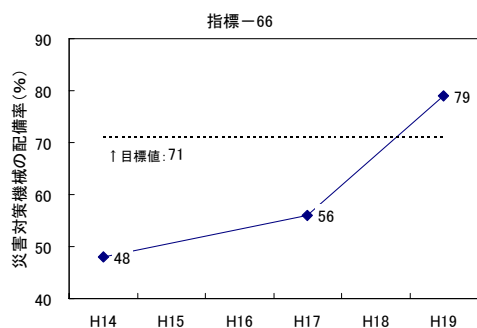


◆状況：× 未達成

目標値に及びませんでした。

※事業実施の遅れによる

【災害対策機械の配備率；48% (H14)→71% (H19)】



◆状況：○ 目標を達成

目標値を達成しました。

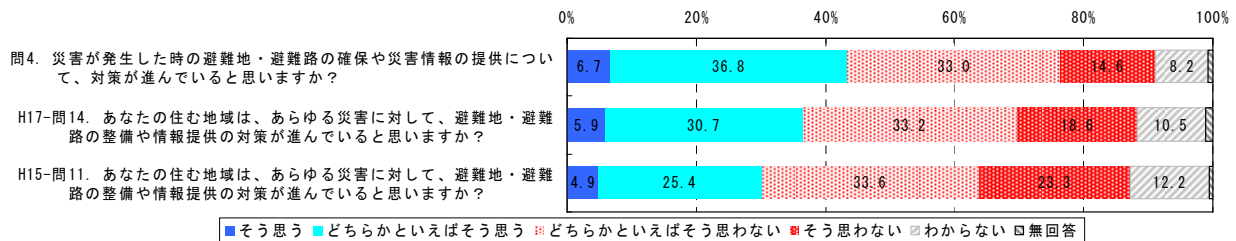
※目標値等が当初設定値と異なります

◆その他：住民・企業意識調査(平成 20 年度)

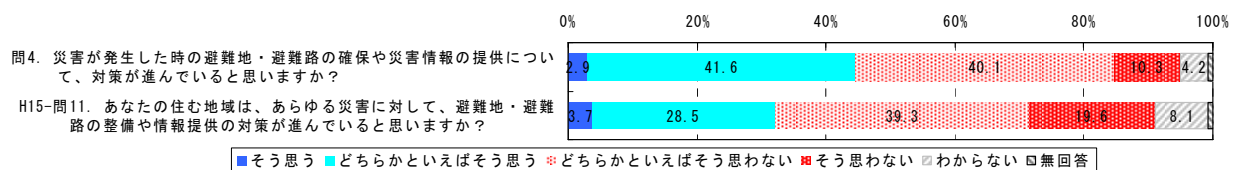
問 4 災害が発生した時の避難地・避難路の確保や災害情報の提供について

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたの住む地域では、このような対応が進んでいると思いますか

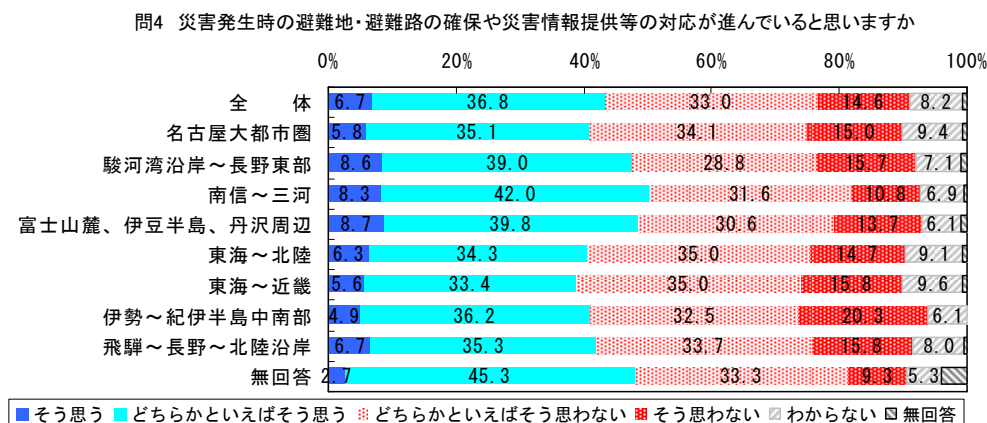
【住民】



【企業】



【住民・地域グループ別】



目標Ⅶ-4：信頼性のある社会資本を維持します

- これまで整備してきた構造物を中心とした社会資本の老朽化が進行しつつある中で、より効率的な社会資本の維持・活用を図ります。

◆総評

・ 目標の達成状況：要検討

河川、道路、港湾などの社会インフラを常に良好な状態に保つための維持管理・修繕も行っていますが、アウトカム指標は設定されていないため、目標の達成状況を判定しにくい状況にあり、検討を要するものと考えます。

・ 総合的評価

住民の関心も高まってきており、今後は戦後急速に整備された社会資本の老朽化が顕在化していくことが予想されます。社会資本の老朽化対策は、アセットマネジメントの考えに基づいて効率的・重点的に進めていく必要があります。住民の理解醸成を高めるとともに、人口減少下において、社会資本整備への投資余力が低下するなかで、持続可能な施設の維持・更新を検討することが重要です。

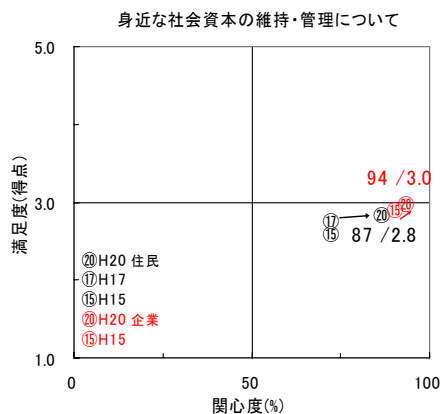
・ 目標の継続性：継続

◆指標の達成状況

意識調査（適切な維持管理）

設問文(問 6)：あなたは、身近にある道路、橋や堤防、下水道などの維持・管理が適切に行われていると思いますか

※平成 15・17 年度の設問文:あなたの身近な社会資本(道路・河川・港など)は、適切な維持・管理が行われていると思いますか



◆満足度：中

得点は 2.6~3.0 と中間値より低いですが、満足度は増加しています。また、「わからない」が減少しています。

◆関心度：高

住民の関心度は 7 割から 8 割へ増加し、企業は 9 割以上の高い関心を示しています。

◆その他：

地域グループ別では、「伊勢～紀伊半島中南部」で満足度が低い。

- 象限①・・・関心度、満足度ともに高い；今後も現状維持が望まれる
- 象限②・・・関心度は低いものの満足度は高い；今後も現状維持が望まれる
- 象限③・・・関心度、満足度がともに低い；施策の周知、事業の推進を図る等の必要がある
- 象限④・・・関心度は高いが、満足度が低い；ニーズに対応して重点的に推進する必要がある

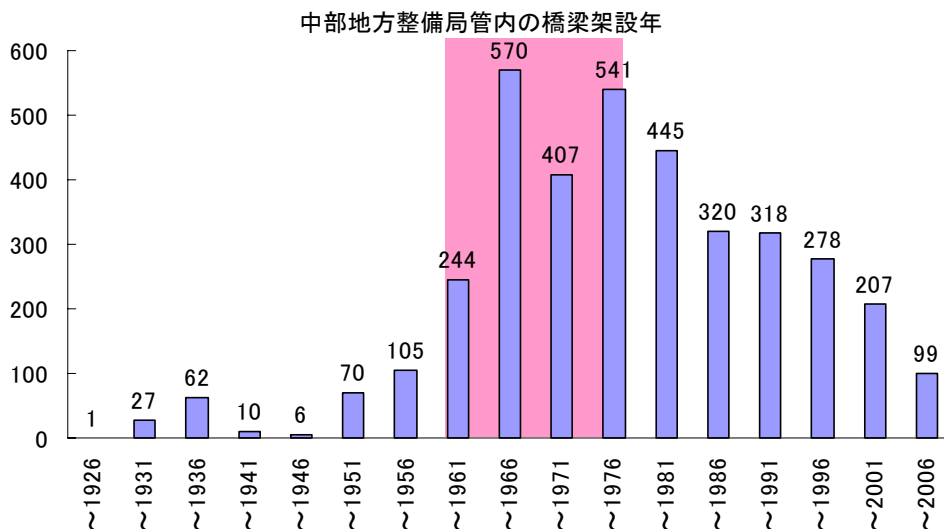
アウトカム指標の状況

本目標に対してアウトカム指標が設定されていないため、評価できません。

ただし、例えば架橋後 50 年を経る橋梁数(1956 年までに架橋されたもの)は、281 橋(全体の約 7.6%)ですが、20 年後には単純に考えると 2,043 橋(同約 55%)と、高度成長期に架橋したインフラが老朽化をむかえます。

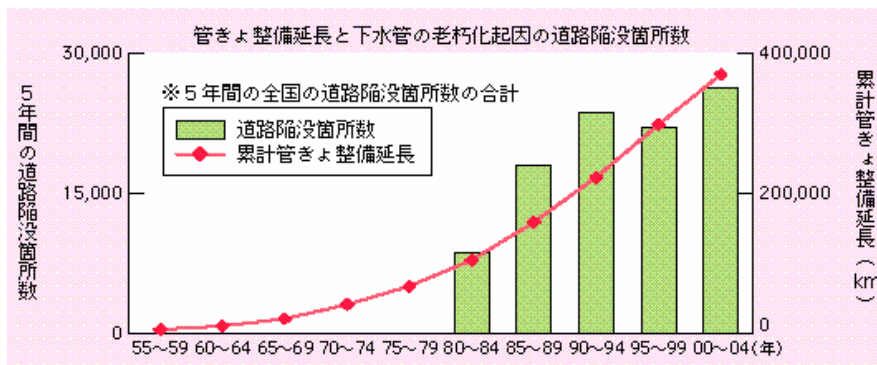
【参考】

・中部整備局管内の橋梁



資料：中部地方整備局

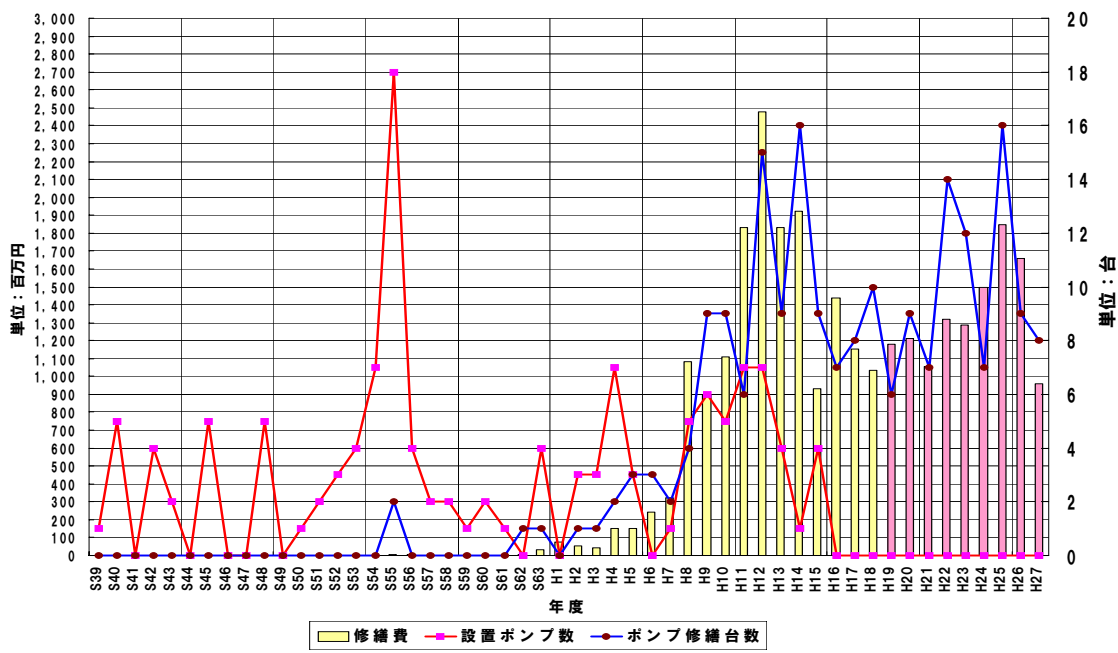
・管きょ整備延長と下水道管の老朽化



管きょ整備延長と下水道管の老朽化起因の道路陥没箇所数

出典：平成 17 年度国土交通白書

・排水機場にかかる維持修繕費



排水機場にかかる維持修繕費の経緯

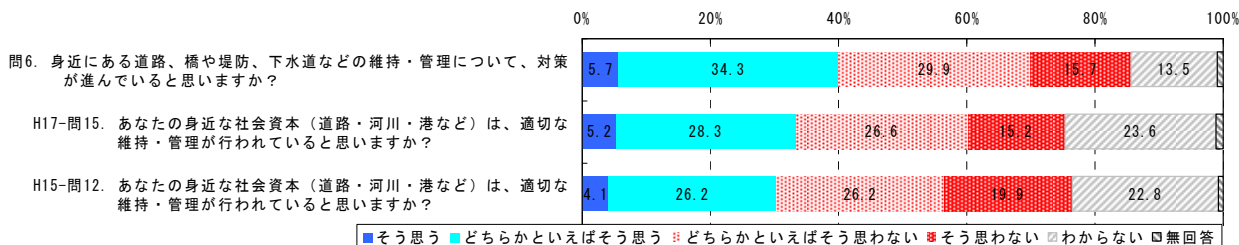
出典：中部地方整備局河川部資料

◆その他：住民・企業意識調査(平成 20 年度)

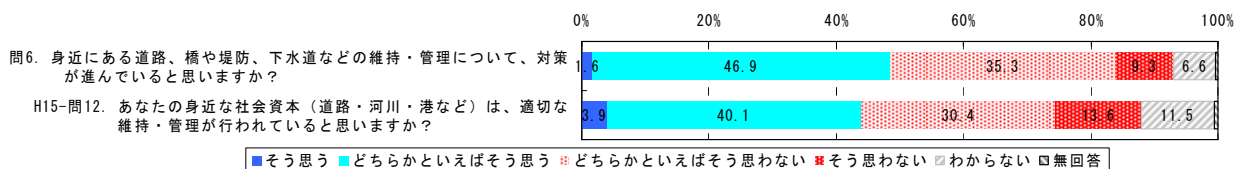
問 6 身近にある道路、橋や堤防、下水道などの維持・管理について

- 1) あなたは関心がありますか
- 2) あなたは、身近にある道路、橋や堤防、下水道などの維持・管理が適切に行われていると思いますか

【住民】



【企業】



【住民・地域グループ別】

問6 身近にある道路、橋や堤防、下水道などの維持・管理が適切に行われていると思いますか

